

パート 2

研究環境及び研究資金の状況

(裏白紙)

Q201. 研究開発にかかるとかかる基本的な活動を実施する上で、現状の基盤的経費(機関の内部研究費等)は十分だと思いませんか。

回答者グループ	分らない	2018年度調査										各年の指数					指数の変化					
		6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	28	779	550	260	141	116	42	1,888	2.3	1.0	2.2	3.9	2.6	2.4	2.3	-	-0.23	-0.09	-	-	-0.32	
大学等	19	667	464	209	120	96	32	1,588	2.2	1.0	2.1	3.8	2.5	2.3	2.2	-	-0.24	-0.05	-	-	-0.28	
公的研究機関	9	112	86	51	21	20	10	300	2.5	1.1	2.4	4.2	3.0	2.8	2.5	-	-0.20	-0.30	-	-	-0.50	
イノベーション俯瞰グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中小企業・大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中小企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
橋渡し等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
性別	24	704	484	229	125	101	35	1,678	2.3	1.0	2.1	3.8	2.6	2.3	2.3	-	-0.23	-0.09	-	-	-0.31	
男性	4	75	66	31	16	15	7	210	2.6	1.2	2.4	4.2	2.9	2.7	2.6	-	-0.25	-0.09	-	-	-0.34	
女性	2	71	71	25	15	12	3	197	2.3	1.2	2.3	3.7	2.6	2.4	2.3	-	-0.20	-0.04	-	-	-0.24	
社長・役員、学長等クラス	12	308	222	94	51	44	11	730	2.2	1.0	2.1	3.6	2.5	2.3	2.2	-	-0.18	-0.12	-	-	-0.30	
部長、教授クラス	8	263	167	91	58	33	19	631	2.4	1.0	2.2	4.1	2.6	2.4	2.4	-	-0.22	-0.02	-	-	-0.24	
主任研究員、准教授クラス	5	126	85	45	15	25	9	305	2.4	1.0	2.2	4.0	2.8	2.5	2.4	-	-0.29	-0.10	-	-	-0.39	
研究員、助教クラス	1	11	5	5	2	2	0	25	2.3	0.9	2.2	4.3	3.8	3.2	2.3	-	-0.60	-0.86	-	-	-1.46	
その他	19	213	179	81	47	35	15	570	2.4	1.1	2.3	4.1	2.9	2.7	2.4	-	-0.21	-0.24	-	-	-0.44	
任用あり	9	566	371	179	94	81	27	1,318	2.2	1.0	2.1	3.8	2.5	2.3	2.2	-	-0.22	-0.02	-	-	-0.25	
任期なし	2	47	41	15	10	9	2	124	2.4	1.1	2.3	3.9	2.6	2.4	2.4	-	-0.20	-0.02	-	-	-0.22	
業務内容別	6	49	60	23	13	10	1	156	2.4	1.3	2.5	3.9	2.9	2.6	2.4	-	-0.31	-0.16	-	-	-0.46	
学長・機関長等	17	622	406	206	110	83	36	1,463	2.3	1.0	2.1	3.9	2.6	2.4	2.3	-	-0.23	-0.09	-	-	-0.31	
マネジメント実務	3	61	43	16	8	14	3	145	2.3	1.0	2.1	3.8	2.6	2.4	2.3	-	-0.21	-0.08	-	-	-0.29	
現場研究者	16	584	338	112	50	24	16	1,124	1.6	0.8	1.6	2.9	1.9	1.6	1.6	-	-0.22	-0.06	-	-	-0.28	
大規模PIの研究責任者	0	32	27	13	15	6	1	94	2.7	1.2	2.6	4.8	3.1	2.8	2.7	-	-0.31	-0.06	-	-	-0.37	
国立大学等	3	51	99	84	55	66	15	370	4.2	2.4	4.0	6.3	4.5	4.3	4.2	-	-0.28	-0.10	-	-	-0.38	
私立大学	7	110	79	25	13	12	5	244	2.0	0.9	1.9	3.2	2.2	2.0	2.0	-	-0.29	0.02	-	-	-0.26	
大学グループ	1	174	113	41	21	10	3	362	1.7	0.9	1.8	3.1	2.1	1.9	1.7	-	-0.20	-0.22	-	-	-0.42	
第1グループ	3	179	116	51	20	17	4	387	1.9	0.9	1.9	3.3	2.2	1.9	1.9	-	-0.33	0.02	-	-	-0.31	
第2グループ	3	179	141	88	59	55	16	538	3.0	1.3	2.7	4.9	3.1	3.0	3.0	-	-0.18	0.00	-	-	-0.18	
第3グループ	2	99	57	16	7	13	4	196	1.9	0.8	1.6	3.1	2.2	1.8	1.9	-	-0.38	0.02	-	-	-0.37	
第4グループ	3	168	125	63	39	23	14	432	2.5	1.1	2.3	4.2	2.8	2.5	2.5	-	-0.23	-0.07	-	-	-0.30	
理学	0	97	30	19	14	13	2	175	2.0	0.8	1.5	3.7	2.2	2.1	2.0	-	-0.06	-0.16	-	-	-0.22	
工学	6	152	136	69	27	15	5	404	2.2	1.1	2.3	3.7	2.5	2.2	2.2	-	-0.29	-0.01	-	-	-0.30	
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし・分らない	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
全回答者(属性無回答を含む)	28	779	550	260	141	116	42	1,888	2.3	1.0	2.2	3.9	2.6	2.4	2.3	-	-0.23	-0.09	-	-	-0.32	

注1: 回答者数は、分らないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q201. (意見の変更理由)研究開発にかかる基本的な活動を実施する上で、現状の基盤的経費(機関の内部研究費等)は十分だと思いますか。

	2017	2018	差	
1	1	4	3	この6年間については十分であった。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
2	1	4	3	やや使いにくい経費ではあるものの,旅費,研究,教育,学会活動に関わる経費がそれぞれ用意されており,充実している。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
3	1	4	3	研究所の予算状況が好転し昨年より運営交付金の配分額が増えた。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
4	1	3	2	研究機関が変わったため。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
5	1	3	2	研究所所属の学生の人数によるが,国立大学よりは良い。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
6	2	4	2	博士課程の院生がいると研究費は比較的多く,何とかやっつけていけるが,博士課程や修士課程の院生がいなくて研究費は極端に少なくなる。これは,研究室を立ち上げて院生のいない研究者にとっては不利な状況である。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
7	1	3	2	異動に伴い基盤的経費が大幅に改善された。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
8	1	2	1	毎年配分される校費は全く十分ではないが,海外渡航や英文校閲にかかる経費を応募により補填する制度は学内で確立されつつある。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
9	1	2	1	公費配分は年々減少しており,一旦科研費等の収入が無くなると,下降線をたどることとなる。研究者一人当たり70-100万円の基盤研究費が配分される仕組みが,結果的には我が国の研究力の維持と発展に有用である。競争的資金は,審査の負担も多く,基盤的な部分は実績を積み上げている教員に,一定の条件で配分できる仕組みが必要。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
10	4	5	1	他と比べてみるとありがたい状況だと思います。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
11	2	3	1	研究の種類によって必要となる基盤的経費の額はかなり違うと感じたため。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)
12	3	4	1	研究基盤を支援する事業を新たに立ち上げた。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
13	1	2	1	いづらか昨年度よりは改善された。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
14	2	3	1	基盤経費の低下は止まった。人員削減の効果のためである。しかし,学生数が極端に増え,大学の業務分担も増えて,動けなくなっている。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
15	2	3	1	論文が出ると基盤的経費が増える仕組みがあるのは評価できる。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
16	1	2	1	大学が目指す方向の研究プロジェクトに研究費を配分するなどメリハリを意識したことによる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
17	3	4	1	学内予算による研究費の配分あり。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
18	3	4	1	現状,取り組める範囲内での予算としては十分であると感じているため。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
19	1	2	1	研究費は多くは無いが,使いこなせる研究者は十分ではない。評価をきちんとして任期制などでダイナミックに動かす必要があるが,社会全体が動かなければ実働しない。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
20	1	2	1	機構の努力により,前回よりは改善している(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
21	2	3	1	新たな中長期計画期間において,当部局として基盤技術の強化の方針を示したところ。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
22	1	1	0	基盤的経費で,有期の教職員が使えるお金は殆どありません。(大学,第1G,研究員・助教クラス,男性)
23	2	2	0	共通経費の赤字化により,配分費は減少傾向。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
24	1	1	0	教員単位で運営費が配分されているはずだが,実際には研究室単位で動いている。末端の助教が自分の裁量で使用するのは難しい。(大学,第1G,農学,研究員・助教クラス,女性)
25	1	1	0	年々,減少しており,事務補佐員の給料を支払えない。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
26	1	1	0	研究費が少ないため,雇用ができない。本学・本学科で,事務員(秘書相当?)が合計2名だけしか雇えない。うち1名が事務手続き要員,もう1名が書籍管理要員。フルタイムにする経費が無い為,週に4日勤務。最近では,1日の勤務時間も減らしてもらっている。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
27	1	1	0	プロジェクト以外の自由な発想に基づく研究に必要な資金が全く不足している(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
28	1	1	0	基盤的研究(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
29	1	1	0	内部研究費は一切ありません。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
30	1	1	0	もはや限界となっています。(前回よりさらに悪くなっているが,これ以上不十分の欄がありません)(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
31	1	1	0	競争的研究費の規模が大きくなりすぎた。大きなグラントが多すぎると思われる。大型グラントを減らし,その分を基盤経費に回した方が,基礎研究力の向上につながる。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
32	1	1	0	機関の内部研究費は十分ではない(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
33	3	3	0	研究室制であれば,研究室ごとに予算配分となるので,若手は基盤研究費は使用しにくいのでは?(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
34	2	2	0	科研費の採択率が30%弱であることを考えると不十分。科研費が外れると研究がストップしてしまう状況の研究グループは多いと思う。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
35	1	1	0	科研不採択時に身動きが取れない。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)

36	1	1	0	大学からは研究費が来ない。寄付を募ったり、民間の共同研究を受託している。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
37	1	1	0	光熱費などが賄えなくなった。来年から実験室の使用料が徴収されるようになった。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
38	1	1	0	私の所属する「付置研」は外部からの資金獲得が100%に近い。しかし、業務は大学の教育活動も負担している。それがバランスしていない。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
39	1	1	0	減る一方です(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
40	1	1	0	ないに等しい(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
41	1	1	0	元々少ない資源を無能な教員も含めて平等に配分するので、電気代などの経常経費で消費されつくしてしまう。最近では大学の財政悪化により、共通設備のランニングコストまで、運営費交付金で支払われている。スコアは1ではなくて-2あたりまで悪化している。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
42	1	1	0	事務用品は買えても、実験系の研究はできない。理論系はできると思う。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
43	4	4	0	所属機関からのスタートアップ経費は非常に潤沢で、ありがたかった。が、今後、基盤的経費だけとなることを考えると、外部資金なしには研究活動は難しいと考えている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
44	1	1	0	運営費としての支給だが、それで研究費、講義に使用する資材、研究以外の物品購入などすべてをまかなう必要があるが、年間30万程度では到底足りない状況(大学,第4G,農学,研究員・助教クラス,女性)
45	1	1	0	毎年毎年削減されている。まだあるだけ良い方だとは思いますが。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
46	4	3	-1	人件費の運用に関しては継続的な安定雇用も必要であると感じます。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
47	2	1	-1	我々の大学の歯学部は、全国の歯学部の中で最も少ない教員数で臨床教育研究をこなしている。教員数が他大学の歯学部の2/3程度である理由がわからない。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
48	2	1	-1	外部資金を取らなければ研究は全くできません。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
49	3	2	-1	外部資金の間接経費割合が他大学に比較して大きいので、教員へ配分する基盤的運営費交付金額は旧帝国大学(理工学系)とは同程度となっている(地方国立大学よりは多い)が、十分であるとは思えない。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
50	2	1	-1	目先の研究に重点的に予算配分する傾向はなかなか歯止めがかからず、10年先、20年先を見据えた基礎的研究基盤が弱体化することが懸念される。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
51	4	3	-1	部局経費が基盤的経費を圧迫しつつあるため、削減傾向(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
52	2	1	-1	経常的経費の削減が続いており十分ではない。国立大学の運営費交付金の削減がボディーブローのように効いてきて現場は疲弊している。(大学,第2G,理学,その他,男性)
53	5	4	-1	大学の入学定員厳密化などにより減少傾向である。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
54	4	3	-1	減少傾向にある(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
55	2	1	-1	年々運営交付金が減少している(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
56	2	1	-1	そもそも、電気代等を、大学が、個人の研究者に負担を強いるが、研究費で支払うには限界がある。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
57	2	1	-1	校舎改築に伴う費用捻出のため講座費が著しく削減されたため。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
58	2	1	-1	年々減少の一途をたどっている。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
59	2	1	-1	年々減額しています。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
60	3	2	-1	実際に減額傾向にあるため。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
61	3	2	-1	明らかに減少傾向(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
62	3	2	-1	特定研究室,特定分野への予算集中は加速しているように感じる(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
63	3	2	-1	研究費が削減されているため(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
64	2	1	-1	今回、上位の科研費に応募し、不採択になったことで、足りないことがよくわかりました。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
65	2	1	-1	年々減少傾向にある。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
66	4	3	-1	毎年減ってきていると耳にする(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
67	4	3	-1	運営交付金(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
68	3	2	-1	改組で研究室辺りの学生が減ったため基盤経費も減ったので(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
69	4	3	-1	運営交付金が減少している(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
70	2	1	-1	年々減っている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
71	2	1	-1	年々減少傾向にあり、外部資金が無いと研究活動が大きく制限されるようになってきている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
72	2	1	-1	基盤的経費は、徐々ではあるが、確実に減る傾向にある。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
73	3	2	-1	大学運営費の減額による影響(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
74	2	1	-1	運営交付金削減の流れの中で、研究者への配分が減少している。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
75	4	3	-1	所属機関変更のため。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
76	3	2	-1	年々、運営費交付金が減少しているため。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
77	3	2	-1	交付金の一律削減が健全な運営の限界に近づいてきたため。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
78	3	2	-1	毎年予算10%削減により、研究費について活用ができなくなっている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)

79	2	1	-1	更に削減されました。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
80	2	1	-1	施設を維持するための予算に圧迫され,研究開発にはまわらない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
81	3	2	-1	運営費交付金総額の減少,また固定経費の増大により研究費の確保に課題が出てきている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
82	4	3	-1	今年度は組織全体の予算が低下したため,研究費も低下した。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
83	2	1	-1	装置維持費(こちらも十分ではない)を除くと,一人10万円となった(前年度20万円)。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
84	2	1	-1	予算は厳しい状況(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
85	4	3	-1	運営交付金配分が前年比で教割減少したため(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
86	2	1	-1	ほぼ全員が外部資金雇用であり,学会活動すら業務の範囲で行えない。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
87	4	2	-2	運営費交付金は削減され続けているので,年々不十分になってきている(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
88	6	4	-2	配分方針が変わったため(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
89	4	2	-2	学生数が多いので,基盤費用として配分される分は「研究」にまわるよりも「教育」でまず消化され,余裕がありません。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,女性)
90	3	1	-2	理由はわからないが学部が変わったためか研究費が減ってしまったため。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
91	4	2	-2	1%減がじわじわ効いている。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
92	5	3	-2	基盤的経費を削減して,競争的に配分するように変更されつつある。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
93	5	3	-2	一部の管理職による研究方針の決定がなされており,広く意見を求めるなどの姿勢が無い。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
94	4	2	-2	徐々に研究費が減らされる傾向である。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
95	5	2	-3	個々の研究室の一般的な維持にかかる費用負担の割合が増加し,研究にかかる費用が不足気味となる研究者が増えた。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
96	5	2	-3	施設の老朽化への対応のために運営費交付の増額が必要(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
97	5	1	-4	応用研究を行う段階で経費を大幅に削減しているので,十分だとは到底思えない。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)

Q202. 研究者の研究時間を確保するための取組(組織マネジメントの工夫、研究支援者の確保等)は十分だと思いませんか。

回答者グループ	分らない	2018年度調査											各年の指数					指数の変化				
		6点尺度回答者数(人)						回数 合計(人)	指数	第4 分点	中央値	第3 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最 新年
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	25	707	657	335	131	50	11	1,891	2.1	1.1	2.3	3.6	2.4	2.2	2.1	-	-0.21	-0.14	-	-	-0.35	
大学等	15	614	542	272	112	43	9	1,592	2.1	1.1	2.2	3.6	2.4	2.2	2.1	-	-0.20	-0.15	-	-	-0.36	
公的研究機関	10	93	115	63	19	7	2	299	2.2	1.3	2.5	3.8	2.6	2.3	2.2	-	-0.25	-0.08	-	-	-0.33	
イノベーション俯瞰グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中小企業・大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中小企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
橋渡し等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
性別	22	613	593	302	120	42	10	1,680	2.1	1.1	2.3	3.6	2.5	2.3	2.1	-	-0.21	-0.16	-	-	-0.37	
男性	3	94	64	33	11	8	1	211	1.9	0.9	2.0	3.3	2.1	1.9	1.9	-	-0.21	0.00	-	-	-0.21	
女性	1	23	76	62	31	6	0	198	3.2	2.2	3.3	4.7	3.3	3.3	3.2	-	0.02	-0.13	-	-	-0.11	
職位	11	277	277	118	36	20	3	731	2.0	1.1	2.2	3.3	2.2	2.1	2.0	-	-0.15	-0.14	-	-	-0.29	
社長・役員、学長等クラス	10	285	187	97	40	15	5	629	1.9	0.9	1.9	3.3	2.2	2.0	1.9	-	-0.24	-0.11	-	-	-0.35	
部長、教授クラス	3	120	101	51	23	9	3	307	2.1	1.1	2.2	3.6	2.7	2.3	2.1	-	-0.33	-0.24	-	-	-0.56	
主任研究員、准教授クラス	0	2	16	7	1	0	0	26	2.5	2.1	2.8	3.7	3.0	2.3	2.5	-	-0.74	0.28	-	-	-0.46	
研究員、助教クラス	16	165	201	127	61	16	3	573	2.5	1.4	2.7	4.2	2.9	2.8	2.5	-	-0.16	-0.27	-	-	-0.43	
その他	9	542	456	208	70	34	8	1,318	1.9	1.0	2.1	3.3	2.2	2.0	1.9	-	-0.21	-0.08	-	-	-0.29	
雇用形態	1	12	44	41	24	4	0	125	3.4	2.4	3.6	4.9	3.4	3.6	3.4	-	0.12	-0.14	-	-	-0.02	
任期あり	4	18	71	51	16	1	1	158	2.9	2.2	3.1	4.3	3.2	3.0	2.9	-	-0.20	-0.09	-	-	-0.29	
任期なし	17	622	484	224	83	41	9	1,463	1.9	1.0	2.0	3.3	2.3	2.1	1.9	-	-0.25	-0.16	-	-	-0.41	
業務内容別	3	55	58	19	8	4	1	145	1.9	1.1	2.2	3.2	2.1	2.0	1.9	-	-0.11	-0.07	-	-	-0.18	
学長・機関長等	10	447	381	193	72	28	9	1,130	2.0	1.1	2.2	3.5	2.4	2.2	2.0	-	-0.19	-0.15	-	-	-0.33	
マネジメント実務	0	33	37	16	5	3	0	94	2.0	1.2	2.3	3.4	2.4	2.2	2.0	-	-0.21	-0.13	-	-	-0.35	
現場研究者	5	134	124	63	35	12	0	368	2.2	1.1	2.3	3.8	2.6	2.4	2.2	-	-0.26	-0.18	-	-	-0.44	
大規模Pの研究責任者	2	91	81	44	18	12	3	249	2.3	1.1	2.4	3.9	2.6	2.3	2.3	-	-0.28	0.00	-	-	-0.28	
国立大学等	1	146	126	67	16	7	0	362	1.9	1.0	2.1	3.3	2.3	2.1	1.9	-	-0.17	-0.29	-	-	-0.46	
私立大学	5	155	138	60	23	7	2	385	1.9	1.0	2.1	3.3	2.3	2.0	1.9	-	-0.22	-0.13	-	-	-0.36	
国立グループ	4	204	180	92	46	13	2	537	2.1	1.1	2.3	3.7	2.4	2.2	2.1	-	-0.17	-0.14	-	-	-0.31	
私立グループ	2	80	69	26	13	7	1	196	2.0	1.0	2.1	3.3	2.5	2.1	2.0	-	-0.36	-0.13	-	-	-0.49	
第1グループ	4	194	130	65	27	10	5	431	1.9	0.9	1.9	3.3	2.4	2.1	1.9	-	-0.23	-0.24	-	-	-0.47	
第2グループ	2	93	57	15	4	4	0	173	1.3	0.8	1.6	2.7	1.7	1.4	1.3	-	-0.25	-0.12	-	-	-0.37	
第3グループ	2	159	146	70	22	11	0	408	1.9	1.1	2.2	3.4	2.3	2.1	1.9	-	-0.22	-0.18	-	-	-0.40	
第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学部局分野	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし/分らない	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
全回答者(属性無回答を含む)	25	707	657	335	131	50	11	1,891	2.1	1.1	2.3	3.6	2.4	2.2	2.1	-	-0.21	-0.14	-	-	-0.35	

注1: 回答者数は、分らないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したも。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q202. (意見の変更理由)研究者の研究時間を確保するための取組(組織マネジメントの工夫、研究支援者の確保等)は十分だと思いますか。

	2017	2018	差	
1	2	5	3	大学が変わったために状況が変わりました。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,女性)
2	2	5	3	研究よりも教育の比重が高い大学ではあるが,少数制で授業を行っており,国立大とあまり変わらない授業担当数であるところは評価できるポイントである。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
3	2	4	2	自分が学部長になり,組織改革を進めているため,少しずつ改善してきた。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
4	3	5	2	研究者支援制度の活用によって,研究業務の遂行はしやすくなり大変助かっている。大学等においても,こうした支援があることを広く研究者に周知できるようにすることの方がより効果的に機能すると思われる。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
5	2	4	2	教授会等の事務的な会議時間を効率化する取り組みは行われている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
6	1	3	2	組織の変更を行なった。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
7	1	3	2	本来業務以外の作業の合理化に取り組んでいるため。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
8	1	2	1	学内委員会の削減など(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
9	2	3	1	女性研究者に限定して,一部の希望者には,出産後の研究支援のサポートが受けられる体制がある。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
10	2	3	1	機構化等,学内組織整備に努め,人材が不十分で厳しい中,新たな人材投与を進めている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
11	3	4	1	本学は,研究支援職者として,URAを雇用し,研究者の研究支援時間の確保に当たっている。(H30現在,5名)(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
12	1	2	1	コンソーシアムを立ち上げることで外部資金で支援者を確保した(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
13	2	3	1	以前に比べ仕組みは作られてきたが,利用できるのはごく一部に限られるので効果はあまり期待できない(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
14	2	3	1	取組が進化しても,研究者が取組を利用しようとしていないので効果がない。産学連携しかり,負担が増えると思っている。人材の登用を十分考慮する必要がある。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
15	1	2	1	教授会構成員を見直すことにより若手研究者の研究時間確保のため教授会構成員の見直しを行ったことによる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
16	2	3	1	リサーチ・アドミニストレーションシステムの機能が向上してきた。教員,URA,コーディネーター,専門事務職員等の協働が進んだことが要因としてあげられる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
17	4	5	1	知れば知るほど,事務が簡略化されていて,素晴らしいと思う。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
18	1	2	1	事務局に研究支援課が新設された。まだ殆ど機能していませんが。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
19	3	4	1	研究と事務の仕事の役割分担を加速した。具体的には,事務担当の高度な人材を雇用して進めていた役割分担の考え方が定着しつつある。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,女性)
20	2	3	1	所属研究室の人員が増え,雑務が減ったため。(大学,大学共同利用機関,研究員・助教クラス,男性)
21	1	2	1	再雇用者の活用が少し軌道にのってきたところである。ただし,3~5年の再雇用者なので,持続可能な体制とはいえない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
22	1	2	1	トップマネジメントによる研究者本位の取り組み(研究者の裁量拡大につながる仕組み等)が一部進められた。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
23	2	3	1	自由度を増す活動を検討しつつある。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
24	1	1	0	大学ではあまりにもつまらない会議や委員会が多数あり,研究時間の確保に苦労している。特に大学法人化後の雑用の急増は異常である。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
25	1	1	0	研究支援者として秘書は確保できるが,テクニシャンはほとんど見つけられなくなった。実務教育は終わりである。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
26	1	1	0	無駄な事務処理や情報入力に使われる時間が長すぎます。(大学,第1G,研究員・助教クラス,男性)
27	2	2	0	URAの活躍が期待されるが,URAの人数が少ないので研究時間の確保には余り寄与していない。(大学,第2G,理学,その他,男性)
28	2	2	0	能力の高い教員に負荷が集中している(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
29	1	1	0	研究室にすべてを押し付ける状況は,まったく改善されません。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
30	1	1	0	外部資金で支援者を雇用していますが,雇用維持のために外部資金の切れ目をつくらないように日々腐心しています。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
31	1	1	0	事務作業が多すぎる。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
32	2	2	0	授業などが多く研究時間の確保への取り組みは十分でない。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
33	1	1	0	大学である為,学生や大学院生の入れ替わりが多く,その度に基礎的な実験の指導に時間がとられ,自分自身の研究ができない。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,女性)
34	5	5	0	本学は,研究支援職者として,URAを雇用し,研究者の研究支援時間の確保に当たっている。(H30現在,5名)(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
35	1	1	0	外部資金の総額や役職に制限があり,准教授以下は研究支援者を確保しにくい。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)

36	1	1	0	国立大学よりも学生あたりの教職員数が少ないため、研究以外の負担は非常に大きい。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
37	1	1	0	細かい業務が増え続けています。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
38	3	3	0	雑用が多いが、人手が足りないので、仕方がないと思っている。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
39	1	1	0	何も変わっていない(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
40	1	1	0	教育に時間を割かざるを得ないため、研究のための時間がほとんど取れない状況である(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
41	4	4	0	若手研究者の教、育成には問題を抱えている(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
42	2	2	0	外部資金による研究では、報告会やサイトビジット等のいわゆる非研究活動が多く求められる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
43	1	1	0	中期計画,入試の変更などへの対応で事務仕事ばかり増える。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
44	1	1	0	大学改組関連の業務が激増している。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
45	1	1	0	工夫がない,旧来の講座制に固執しているコースもあり,まったく進化していない,教員数の減少傾向により,研究に割ける時間は少なくなっている,支援者の雇用も外部資金を獲得しないと無理である。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
46	2	2	0	ヒトにより学生への支援の仕方に偏りがあり,学生が教員を選んでいる,そのため,研究にかける時間が減っている。(大学,第4G,農学,研究員・助教クラス,男性)
47	1	1	0	特に,病院での診療業務を兼務している臨床教員にはそのような配慮はほとんどない。(大学,第4G,農学,研究員・助教クラス,女性)
48	1	1	0	不正防止のための紙媒体での証拠提出が多く雑用が年々増えて行く。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
49	1	1	0	様々な取り組みがなされているが,場当たり的で効果は出ていない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
50	1	1	0	コンプライアンス関係に係る時間が年々増えて,対して研究時間が年々減っている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
51	2	2	0	研究者が広報活動に駆り出される。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
52	2	1	-1	競争的資金を獲得すると予算もとの細かい修正要求を代表や研究員が行うことになり,研究成果を出すことに時間を使えない,研究組織側の改善というよりは,予算元の過大な仕事の請求を是正する必要がある。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
53	2	1	-1	学内での競争的資金や競争的ポジションの獲得や,学生への資金補助のための審査などが急激に増えており,集中して研究する時間の確保ができない。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
54	2	1	-1	若手研究者の献身により組織マネジメントが成り立っている(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
55	3	2	-1	URAやUEAの配置を強化している,一部の教員は上手く活用しているが,大学全体としては,教員自身がそれらの方と協業するまでに至っていない。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
56	2	1	-1	研究機関の評価,教員評価,授業評価など,評価資料の作成に要する時間が増え,研究時間が減っている(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
57	3	2	-1	事務手続きや書類作成が頻繁に発生する為,研究に専念するのは難しい,大学事務は,教員の事務手続きを削減できるシステム導入に積極的ではないように感じる。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
58	5	4	-1	助教の私自身はともかく,准教授以上は学内および文科省向け事務作業の教員負担に研究・教育時間が圧迫されているように思う,一部は予算不足から,一部は煩瑣なルール(教職課程の再課程認定等)から来ている様に見受けられる。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
59	3	2	-1	私立大学であるため,教育に時間を取られる。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
60	2	1	-1	FD活動のための講習など教育に関わるものがさらに多く取り入れられたため研究時間の確保はかなり困難な状況である,また,今年度から本学部で導入されたクォーター制のため疲弊している。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
61	3	2	-1	事務の負担が増えている(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
62	3	2	-1	短期プロジェクトが増えたので,プロジェクト終了後の支援体制が構築できない。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
63	3	2	-1	一人体制を強いられられているので,厳しいところもあります。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
64	2	1	-1	研究に重点を置くあまり,授業を引き継げる教員を採用できない状態になり,当該分野の教員の授業負担が増大している,これでは本末転倒である。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
65	2	1	-1	事務的なマネジメントが古典的,国際化を目指すのであれば,事務が,英語しか話せない留学生とのやりとりも主体的に行うべき,研究者が,翻訳して,説明せざるを得ない環境を解消すべき,国内のみから優秀な人材を探すのは困難であり,海外から優秀な人材を採用すべき。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
66	2	1	-1	業績等をアウトプットするための事務手続きが増え続けている,その上,毎度登録方法が変更になったりと慣れない作業に時間を無駄に費やしている。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
67	4	3	-1	人件費の抑制で,支援人材の数も減らされている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
68	3	2	-1	教育及びコンプライアンス対応の増加(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
69	3	2	-1	大学改革に関わる会議等が増加し,結果的に研究に割く時間が減る傾向にある。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
70	3	2	-1	人より研究を頑張っても成果を出しても,研究成果や外部資金を獲得していない人と,同様の教育時間を求められる,逆にいうと教育仕事は平等だが,研究は平等ではなく,頑張れば頑張るほど自分の首を絞める状況となっている感じがする,なお論文は質よりも数であることや,外部資金が評価にカウントされていないことが原因と考える。(大学,第3G,主任研究員・准教授クラス,男性)
71	3	2	-1	不十分なまま,研究時間の確保がどんどん難しくなっていく。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
72	4	3	-1	学内の会議・業務が増えた(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)

73	4	3	-1	人事凍結およびスタッフ数を減らしていく状況の中で、一人がやるべき雑務が増加している。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
74	2	1	-1	研究を促進するどころか制約を設けているような状況も見られる。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
75	2	1	-1	事務員が不足しており、そのあおりを受けている。消耗品の発注、受領など事務仕事も研究者が担当している。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
76	2	1	-1	雑務が多く、研究に取り組む時間は減っているように思われる。(機材購入のための書類,長い報告書,不要な研究会など)(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
77	2	1	-1	実験助手や秘書さんは、全て科研費で雇用。大学からの援助は一切うけることはできてない。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
78	2	1	-1	予算が無い中でそのようなことは無理です。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
79	3	2	-1	教育に従事する時間が多い中で、技術員の不在・大学院希望者の減少により研究の遂行が年々難しくなっている。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)
80	3	2	-1	教育への比重が大きい(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,女性)
81	2	1	-1	教員の不補充により悪化している。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
82	4	3	-1	教育に要する時間の増加が見受けられる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
83	2	1	-1	会議が多すぎる(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
84	2	1	-1	研究者に課される研究以外のロードの総量が増加している。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
85	2	1	-1	高大連携,文理融合,オープンアクセス,セキュリティ対策など中身の無い形式的な事務的な作業が多くなっているため(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
86	2	1	-1	雑務が増大し,研究時間の確保がより難しくなった(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
87	2	1	-1	教育改革,大学の改革,その他,様々な委員会やワークショップが増え,研究する時間が減少している(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
88	2	1	-1	研究会の開催や外国人研究者の招聘などについて事務的支援できる者がいない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
89	3	2	-1	運営に関する業務が増えたことによる。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
90	2	1	-1	カリキュラムの改変などに伴い,講義や学生指導の負担が増え,研究時間の確保は難しくなっているため。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
91	2	1	-1	助教の人員不足と改組に伴う講義の負担の増加により研究時間が大きく減少したため(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
92	2	1	-1	助教が行う雑務は授業時間に含まれないため研究時間の確保が難しいため。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
93	2	1	-1	研究支援者の確保について,手が打たれておらず,手を打つ予定もない。(大学,第4G,農学,社長・学長等クラス,女性)
94	6	5	-1	所属機関変更のため。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
95	2	1	-1	所属機関の都合で,助教に他学部の講義を負担させている。しかも,その負担に対する給料上昇などもない。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
96	2	1	-1	勤続年数を重ねるほどに委員会参加,資料作成等の様々な業務が増加し,裁量労働制とは言えども,体力的に研究時間の確保が難しくなっている。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
97	5	4	-1	どうしても会議の時間などが増加してしまっている。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
98	2	1	-1	これまでの記載通り,最も遅れている。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
99	2	1	-1	安全確保およびコンプライアンス関係に時間を割かれすぎている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
100	3	2	-1	これまで以上に研究者が事務的仕事を課されるようになっている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
101	2	1	-1	対外的な説明のみに使用されると考えられる,研究者の現場レベルでは全く意味をなさない無用な書類作成に追われることが近年急速に増えており,取り組みは不十分であるとともに悪化の一途をたどっております。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
102	4	2	-2	授業負担が年々,増えている。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
103	4	2	-2	研究支援部門における取組だけでなく,管理部門も含めたバックアップが必要。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
104	5	3	-2	来年度より,担当授業時間が増加する見込み(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
105	3	1	-2	研究機関として積極的に外部資金を取りに行くことを強く求められている結果として,研究に費やす時間が減少している。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
106	4	1	-3	研究機関が国立大学の附置研究所から私立大学に変わったため。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)

Q203. 研究活動を円滑に実施するための業務に従事する専門人材(リサーチ・アドミニストレーター等)の育成・確保は十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2018年度調査												各年の指数					指数の変化				
	分からない	6点尺度回答者数(人)						回数者合計(人)	指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	87	618	640	307	187	59	18	1,829	2.3	1.2	2.4	4.0	2.5	2.5	2.3	-	-0.03	-0.11	-	-	-0.14	
大学等	67	509	529	262	168	57	15	1,540	2.4	1.3	2.5	4.1	2.5	2.5	2.4	-	-0.03	-0.09	-	-	-0.13	
公的研究機関	20	109	111	45	19	2	3	289	1.9	1.1	2.2	3.3	2.2	2.1	1.9	-	-0.02	-0.20	-	-	-0.23	
イノベーション俯瞰グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中小企業・大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中小企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
橋渡し等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
性別	76	526	577	279	172	55	17	1,626	2.4	1.3	2.5	4.0	2.5	2.5	2.4	-	-0.01	-0.11	-	-	-0.11	
男性	11	92	63	28	15	4	1	203	1.8	0.9	1.9	3.3	2.2	2.0	1.8	-	-0.25	-0.13	-	-	-0.38	
女性	3	25	67	52	40	12	0	196	3.5	2.3	3.5	5.1	3.4	3.6	3.5	-	0.20	-0.17	-	-	0.03	
職位	27	233	273	111	70	24	4	715	2.3	1.3	2.4	3.8	2.3	2.3	2.3	-	0.02	-0.05	-	-	-0.03	
社長・役員・学長等クラス	40	244	200	88	44	13	10	599	2.0	1.0	2.1	3.4	2.4	2.2	2.0	-	-0.10	-0.21	-	-	-0.31	
部長・教授クラス	17	109	91	49	31	9	4	293	2.3	1.1	2.4	4.0	2.5	2.4	2.3	-	-0.11	-0.07	-	-	-0.18	
主任研究員・准教授クラス	0	7	9	7	2	1	0	26	2.5	1.5	2.8	4.2	3.0	2.3	2.5	-	-0.65	0.19	-	-	-0.46	
研究員・助教クラス	39	152	192	114	63	25	4	550	2.7	1.5	2.7	4.3	2.8	2.9	2.7	-	-0.05	-0.20	-	-	-0.15	
その他	48	466	448	193	124	34	14	1,279	2.2	1.1	2.3	3.7	2.3	2.3	2.2	-	0.05	-0.07	-	-	-0.12	
雇用形態	2	15	39	35	27	8	0	124	3.6	2.4	3.7	5.2	3.4	3.7	3.6	-	0.22	-0.08	-	-	0.14	
任期なし	6	22	64	41	24	4	1	156	3.1	2.1	3.1	4.6	3.1	3.2	3.1	-	0.13	-0.16	-	-	-0.04	
学長・機関長等	71	534	488	207	122	43	15	1,409	2.2	1.1	2.2	3.6	2.3	2.3	2.2	-	-0.09	-0.11	-	-	-0.19	
学長・機関長等	8	47	49	24	14	4	2	140	2.4	1.2	2.4	4.0	2.4	2.5	2.4	-	0.12	-0.17	-	-	-0.05	
マネジメント実務	48	346	353	208	130	42	13	1,092	2.5	1.3	2.6	4.3	2.6	2.7	2.5	-	0.01	-0.10	-	-	-0.10	
現場研究者	2	29	32	9	16	5	1	92	2.7	1.3	2.6	4.8	2.6	2.4	2.7	-	-0.19	0.24	-	-	0.05	
大規模Pの研究責任者	17	134	144	45	22	10	1	356	1.9	1.1	2.2	3.2	2.2	2.1	1.9	-	-0.12	-0.12	-	-	-0.24	
国立大学等	10	74	66	52	37	8	4	241	2.8	1.4	2.8	4.6	3.0	2.9	2.8	-	-0.09	-0.13	-	-	-0.21	
公立大学	18	112	120	61	38	11	3	345	2.4	1.3	2.5	4.1	2.5	2.6	2.4	-	0.06	-0.14	-	-	-0.09	
私立大学	12	125	141	59	37	13	3	378	2.3	1.3	2.4	3.8	2.4	2.3	2.3	-	-0.15	0.02	-	-	-0.13	
第1グループ	24	183	188	76	47	20	3	517	2.2	1.2	2.3	3.7	2.2	2.3	2.2	-	0.06	-0.06	-	-	0.00	
第2グループ	15	69	56	25	27	3	3	183	2.3	1.1	2.3	4.2	2.4	2.4	2.3	-	0.03	-0.11	-	-	-0.08	
第3グループ	21	158	134	62	37	15	8	414	2.3	1.1	2.3	3.8	2.5	2.4	2.3	-	-0.12	-0.15	-	-	-0.28	
第4グループ	9	64	65	21	10	6	0	166	1.9	1.1	2.2	3.2	1.9	1.9	1.9	-	-0.06	0.07	-	-	0.01	
理学	11	141	148	66	30	14	0	399	2.1	1.2	2.3	3.6	2.3	2.2	2.1	-	-0.05	-0.07	-	-	-0.12	
工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
全回答者(属性無回答を含む)	87	618	640	307	187	59	18	1,829	2.3	1.2	2.4	4.0	2.5	2.5	2.3	-	-0.03	-0.11	-	-	-0.14	

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q203. (意見の変更理由)研究活動を円滑に実施するための業務に従事する専門人材(リサーチ・アドミニストレーター等)の育成・確保は十分に行われていると思いますか。

2017	2018	差		
1	3	6	3	最近、大学で、URAという「専門人材」が一気に増えてきた。彼らは文系・半文系の人が多く、数々のイベントを繰り出し、研究者の研究時間を減らしている、ということが多い。皮肉にも、研究時間の増大にあまりつながらない。(大学、第2G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
2	2	4	2	URAの活動が充実してきている(大学、第1G、理学、研究員・助教クラス、男性)
3	3	5	2	確実に前進している。(大学、第1G、農学、部長・教授等クラス、男性)
4	2	4	2	予算が付く度に、そういう人材のみが増えている感がある。(大学、第2G、理学、研究員・助教クラス、男性)
5	1	3	2	〇〇大学から〇〇〇〇大に異動し、URAに非常にお世話になるようになった。(大学、第4G、工学、主任研究員・准教授クラス、女性)
6	1	3	2	当学に関しては、研究戦略室が機能していると感じる。学内の各種研究申請の補助やプロジェクト立案・推進で貢献している。(大学、第4G、農学、部長・教授等クラス、男性)
7	1	3	2	そのような専門人材のポストを確保するために、研究ポストを減らすことが予想されるから。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
8	3	4	1	予算獲得についてURAにお世話になりました。(大学、第1G、理学、研究員・助教クラス、男性)
9	1	2	1	まだまだ不十分ではあるが、URAの支援は手厚くなってきた(大学、第1G、工学、部長・教授等クラス、男性)
10	3	4	1	所属機関移籍により変更(大学、第1G、保健、研究員・助教クラス、男性)
11	2	3	1	政策研究職員制度を設け、URAの雇用環境を整えつつある。(大学、第2G、社長・学長等クラス、男性)
12	3	4	1	URAの数が増え、組織的活動が行われるようになった。(大学、第2G、工学、部長・教授等クラス、男性)
13	2	3	1	特許申請について知財部門がサポートしてくれた。(大学、第2G、工学、研究員・助教クラス、男性)
14	1	2	1	任期付きではあるが専門人材が配置された。(大学、第2G、農学、部長・教授等クラス、男性)
15	2	3	1	財政が厳しい中、新たな人材の投与を行っている。(大学、第3G、社長・学長等クラス、男性)
16	2	3	1	学内の取組みへの努力が一段と高くなってきたため。(大学、第3G、社長・学長等クラス、男性)
17	2	3	1	プロジェクトマネージャーの配置(大学、第3G、社長・学長等クラス、男性)
18	1	2	1	ようやくURAが学内に設置されて、少しずつですが機能するようになりました。(大学、第3G、部長・教授等クラス、男性)
19	2	3	1	RAは大変優秀だと思う。ただし我々には活用する時間すらない。(大学、第3G、理学、主任研究員・准教授クラス、男性)
20	2	3	1	数的には増えているが、役に立つURAは多くない。(大学、第3G、工学、社長・学長等クラス、男性)
21	2	3	1	大学におけるサポートを実際に受ける機会を得た。(大学、第3G、工学、部長・教授等クラス、男性)
22	2	3	1	リサーチ・アドミニストレーターからの企画案内数が多くなったと思ったから(大学、第3G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
23	1	2	1	予算がついたようです(数年間)(大学、第3G、保健、部長・教授等クラス、男性)
24	3	4	1	定年退職後の専門人材活用は増加したが、若手研究者にとって真のプラスがあるのかどうか疑問である。(大学、第3G、保健、部長・教授等クラス、女性)
25	4	5	1	学内周知も進み、本人たちも自覚を持って自主的に活動を展開し、研究活動を支えているから(大学、第3G、保健、主任研究員・准教授クラス、女性)
26	2	3	1	URAの質的な面は向上したが、雇用財源の問題により量的拡大を図れない。(大学、第4G、部長・教授等クラス、男性)
27	2	3	1	数は十分とは言えないが、本学のRAはかなり活動しているように思える。(大学、第4G、工学、部長・教授等クラス、男性)
28	3	4	1	企業の研究所所長だった方が大学におられるのですが、研究費申請書の推薦でとても的確なコメントを頂きました。(大学、第4G、工学、部長・教授等クラス、男性)
29	1	2	1	近年、採用が増えつつあります。(大学、第4G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
30	3	4	1	複数の人が業務を分担してスムーズになった。(大学、第4G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
31	1	2	1	事務局に研究支援課が新設された。まだ殆ど機能していませんが。(大学、第4G、保健、部長・教授等クラス、男性)
32	1	2	1	再雇用者の活用が少し軌道にのってきたところである。ただし、3～5年の再雇用者なので、持続可能な体制とはいえない。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
33	2	3	1	産学連携部門の改組・拡充(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
34	1	1	0	リサーチ・アドミニストレーターがなんの役にも立っていない。(大学、第1G、部長・教授等クラス、男性)
35	4	4	0	確保はしているが、研究現場において未だ十分に活用し切れていないとはいえない。(大学、第2G、社長・学長等クラス、男性)
36	1	1	0	リサーチ・アドミニストレーターはいるが、技量不足で、イベントがあると返って教員負担が増える。(大学、第2G、部長・教授等クラス、男性)
37	3	3	0	だからといって、その専門人材に限られた資金を配当し、教員に対する経費を削減するのは逆効果だと思う(大学、第2G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
38	1	1	0	リサーチ・アドミニストレーターは存在していない。また、事務処理が非常に多く、研究活動が困難になっている。(大学、第2G、工学、主任研究員・准教授クラス、女性)
39	1	1	0	RA職は機能していないと感じます。(大学、第2G、工学、主任研究員・准教授クラス、女性)
40	1	1	0	URAはいるが、本当に研究活動の支援をしているかは甚だ疑わしい。(大学、第2G、農学、部長・教授等クラス、男性)

41	2	2	0	研究に関する事務的処理を研究者自身(特に責任研究者)がしなくてはならない。時間をとられる(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
42	5	5	0	URAのスキルアップは十分に行っているが,教員規模からすると今少し研究支援人材の確保を行いたい。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
43	4	4	0	URAのスキルアップは十分に行っているが,教員規模からすると今少し研究支援人材の確保を行いたい。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
44	1	1	0	育成の目標設定が不明(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
45	2	2	0	増やそうと努力はしていますが不十分です。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
46	1	1	0	大学に雇う金銭的余裕がないだろうから,仕方がないと思っている。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
47	3	3	0	私立単科大学にはなかなかその余裕がない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
48	2	2	0	大学としてはURAの人材は少ない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
49	1	1	0	今後の課題である。大学の研究者が本業務のエキスパートでは無いことが多いわりに,このような専門人材を活用する発想すら無い事が多いと感じる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
50	2	2	0	人数は増えてきたのだが,真に研究者をサポートして(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
51	1	1	0	全ての業務が少数の有能な教員と事務方に集中している。専門人材の雇用のためには,無能教員の首切りも含めた大規模なリストラが必要。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
52	1	1	0	少ない,例えば本学のURAチームのメンバーは3名であり,マンパワーが足りない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
53	1	1	0	専門人材が確保されたという話を聞いたことは学内でほとんどない。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
54	1	1	0	大学に制度自体がない。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
55	1	1	0	全く行われていない。全てを自ら行わないといけない状況に変化がない(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
56	2	2	0	専門人材の位置づけと処遇に対する方針が,国内的/社会的に合意されていないため,キャリアパスとしての位置づけがしにくく,確保も困難。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
57	1	1	0	テクニカルスタッフを任期なしで雇用するシステムが日本にはない。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
58	4	3	-1	数が足りていない(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
59	2	1	-1	育成に関する取り組みは聞いたことがない。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
60	2	1	-1	事務手続きを自ら行う必要性が年々増加している(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
61	2	1	-1	定員削減の影響から,専門人材の数が減少しており,最近では,研究者が行わなければならない事務的な業務が増加している。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
62	2	1	-1	URAの育成に苦慮している。文科省の認定制度の充実を期待する。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
63	4	3	-1	毎年業務が増えているが支援人材の増加が追いついていない(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
64	3	2	-1	URAのキャリア・パスを意識した教育プログラムを提案しているが未だ整備されていない。このような現状にURA本人にも不安が広がっている。(大学,第2G,理学,その他,男性)
65	3	2	-1	ほぼ皆無では。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
66	4	3	-1	所属機関には,数名のリサーチ・アドミニストレーターが職務に当たっているが,所属研究科には専任者はいない(前任者の退職後,補充がなされていないため)。また,所属機関内で育成する体制はない。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
67	3	2	-1	人材の数が減少している。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
68	3	2	-1	リサーチアドミニストレーターの活躍は見られない(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
69	3	2	-1	退職したURAの代わりが補充できていない。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
70	3	2	-1	地方大学では人材が不足している(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
71	3	2	-1	本学のリサーチ・アドミニストレーターの主な業務は大学の大型予算の確保に向けた活動で,広く研究者の研究内容を知り,新たな研究分野の創生やその方法等についての活動が不足していると思われる。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
72	2	1	-1	テクニシャンなどの研究支援者が5年で雇い止めされる制度は,悪法の極みだ。何を考えているのか?(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
73	4	3	-1	現在雇用しているURA等は力を発揮しているが人数が不足している。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
74	2	1	-1	人件費不足(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
75	4	3	-1	専門人材の育成・確保は十分とまでは言えないため。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
76	2	1	-1	専門人材の人件費がない(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
77	3	2	-1	とにかく数が少ない。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
78	3	2	-1	任期付きポジションのため人材が育たない(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
79	2	1	-1	それらの業務も全て現状は研究者が自らおこなっている(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
80	2	1	-1	本学では,ライフサイエンス分野が非常に脆弱である。また海外との交渉ができない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
81	3	2	-1	URAはたくさん雇用しているが,彼らが何の役にやっているのかよくわからない。講演会ばかり企画している印象。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
82	2	1	-1	この点での取り組みは全く進んでいないと思われるため。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
83	4	3	-1	とても優秀な方が任期が来たので退職された。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)

84	3	2	-1	人件費が厳しいため育成・確保が十分にはできない(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
85	3	2	-1	案件数が増えている中,支援者数はかわらないため相対的に業務負荷は過大になっています(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
86	2	1	-1	高い能力を持つリサーチ・アドミニストレーターに対して高い評価を与えられていると思わない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
87	2	1	-1	存在していると思うが機能したことはない(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
88	2	1	-1	むしろ阻害する人員がいた(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
89	4	2	-2	人件費削減の対象と考えている人達がいる。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
90	3	1	-2	URAの育成に苦慮している。文科省の認定制度の充実を期待する。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
91	5	3	-2	人材育成がうまくいっていない。問題は二つで,まず希望者がそもそも少なく適材適所に至っていない,そして育成のための指導者の不足です(きちんと指導できる力のある教員は忙しくて,それどころではない)。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
92	3	1	-2	一般人材と専門人材で,大きな差は感じない。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
93	3	1	-2	退職した教員が天下りの的に配置されている。また,事務作業が多すぎて,大学事務も疲弊している。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
94	4	2	-2	本学ではいまだ常勤化されないので退化(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
95	4	2	-2	更なる増員が必要であるが,そのための大学全体としての財源捻出が課題。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
96	5	3	-2	研究大学強化促進事業の予算が減額になり,リサーチ・アドミニストレーターの育成・確保が十分に行えなくなっている。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
97	4	1	-3	リサーチアドミニストレーターが大学本部に定着しない,採用しても心身に不調をきたし辞職するケースも複数ある(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
98	4	1	-3	リサーチアドミニストレーターの方のサポートがない。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
99	6	1	-5	研究機関が国立大学の附置研究所から私立大学に変わったため。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)

Q204. 研究施設・設備の程度は、創造的・先端的な研究開発や優れた人材の育成を行うのに十分だと思いますか。

回答者グループ	2018年度調査																各年の指数					指数の変化				
	分からない	6点尺度回答者数(人)						指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年					
		1	2	3	4	5	6															回答者合計(人)				
大学・公的研究機関グループ	25	263	414	440	370	305	99	1,891	4.4	2.5	4.4	4.6	4.4	-	-	-0.26	-0.21	-	-	-0.46						
大学等	17	226	349	377	305	251	82	1,590	4.3	2.5	4.3	4.7	4.5	4.3	-	-0.24	-0.19	-	-	-0.43						
公的研究機関	8	37	65	63	65	54	17	301	4.6	2.6	4.6	5.2	4.9	4.6	-	-0.36	-0.29	-	-	-0.65						
イノベーション俯瞰グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
大企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
中小企業・大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
中小企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
橋渡し等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
性別	24	231	365	390	327	273	92	1,678	4.4	2.5	4.4	4.8	4.6	4.4	-	-0.24	-0.20	-	-	-0.44						
男性	1	32	49	50	43	32	7	213	4.1	2.4	4.2	4.8	4.4	4.1	-	-0.35	-0.29	-	-	-0.64						
女性	1	16	47	60	39	30	6	198	4.4	2.9	4.3	4.7	4.5	4.4	-	-0.23	-0.10	-	-	-0.33						
社長・役員・学長等クラス	9	103	162	170	154	114	30	733	4.3	2.5	4.3	4.6	4.5	4.3	-	-0.11	-0.17	-	-	-0.28						
部長、教授クラス	9	95	147	145	111	99	33	630	4.2	2.4	4.2	4.8	4.4	4.2	-	-0.35	-0.19	-	-	-0.55						
主任研究員、准教授クラス	4	48	52	59	61	57	29	306	4.7	2.6	4.8	5.3	5.0	4.7	-	-0.26	-0.24	-	-	-0.51						
研究員、助教クラス	2	1	6	6	5	5	1	24	4.8	3.1	4.7	6.0	5.5	4.8	-	-0.45	-0.71	-	-	-1.17						
その他	17	60	104	145	119	114	30	572	4.7	3.0	4.7	5.3	5.1	4.7	-	-0.18	-0.35	-	-	-0.54						
任用あり	8	203	310	295	251	191	69	1,319	4.2	2.3	4.2	4.6	4.3	4.2	-	-0.26	-0.14	-	-	-0.40						
任期なし	1	14	25	35	29	21	1	125	4.3	2.8	4.5	4.6	4.5	4.3	-	-0.16	-0.14	-	-	-0.29						
学長・機関長等	7	9	40	51	34	16	5	155	4.3	2.9	4.3	4.7	4.5	4.3	-	-0.25	-0.16	-	-	-0.40						
マネジメント実務	13	222	321	324	280	237	83	1,467	4.3	2.4	4.3	4.8	4.5	4.3	-	-0.26	-0.22	-	-	-0.48						
現場研究者	4	18	28	30	27	31	10	144	4.8	2.7	4.8	5.2	5.0	4.8	-	-0.26	-0.21	-	-	-0.47						
大規模Pの研究責任者	12	169	229	260	204	198	68	1,128	4.4	2.5	4.4	4.9	4.6	4.4	-	-0.25	-0.21	-	-	-0.45						
国立大学等	1	13	28	20	14	14	4	93	4.0	2.3	3.8	4.3	4.0	4.0	-	-0.27	0.00	-	-	-0.27						
私立大学	4	44	92	97	87	39	10	369	4.1	2.5	4.2	4.5	4.3	4.1	-	-0.20	-0.17	-	-	-0.37						
第1グループ	2	13	32	44	59	71	30	249	5.9	4.0	6.0	6.2	5.9	5.9	-	-0.31	-0.02	-	-	-0.33						
第2グループ	4	53	81	84	65	60	16	359	4.3	2.4	4.2	4.8	4.6	4.3	-	-0.20	-0.35	-	-	-0.54						
第3グループ	4	67	100	103	60	47	9	386	3.7	2.2	3.8	4.2	3.9	3.7	-	-0.24	-0.18	-	-	-0.43						
第4グループ	4	87	133	134	105	59	19	537	3.9	2.3	3.9	4.3	4.0	3.9	-	-0.22	-0.13	-	-	-0.35						
工学	4	30	35	41	39	34	15	194	4.6	2.5	4.6	5.0	4.8	4.6	-	-0.24	-0.20	-	-	-0.43						
理学	3	57	102	104	73	69	27	432	4.4	2.5	4.2	4.8	4.6	4.4	-	-0.26	-0.20	-	-	-0.46						
工学	1	47	42	36	26	20	3	174	3.3	1.5	3.3	3.7	3.4	3.3	-	-0.36	-0.09	-	-	-0.45						
農学	1	55	91	96	82	67	18	409	4.3	2.5	4.3	4.8	4.6	4.3	-	-0.21	-0.23	-	-	-0.44						
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
なし・分からない	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
全回答者(属性無回答を含む)	25	263	414	440	370	305	99	1,891	4.4	2.5	4.4	4.8	4.6	4.4	-	-0.26	-0.21	-	-	-0.46						

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したもとの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q204. (意見の変更理由)研究施設・設備の程度は、創造的・先端的な研究開発や優れた人材の育成を行うのに十分だと思いますか。

	2017	2018	差	
1	2	5	3	研究棟が改築され研究施設は充実した。教員の居住区は極めて狭くなってしまったが。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	1	4	3	設備はそこそこであるが,人的理解がない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
3	2	4	2	総合研究所の技術スタッフの実験技術レベルが向上し利用者の研究支援にダイレクトに結びつくようになったから(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
4	2	4	2	設備環境は,本年大きく改善が見られた。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
5	2	4	2	設備に関してはかなり良い方であると気づきました。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
6	1	3	2	少しずつ改善するように努力しています。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
7	1	3	2	今年度整備したことにより実情を踏まえての意見(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
8	2	3	1	施設や設備は十分である。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
9	4	5	1	所属機関移籍により変更(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
10	2	3	1	文科省の設備予算が増額の方向に変わったこと(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
11	2	3	1	学内共同利用を活用するとかなりできると思います。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
12	3	4	1	共同器等が新規に購入されている(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
13	1	2	1	自分が学部長になり,組織改革を進めて,企業と連携しているため,少しずつ改善してきた。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
14	2	3	1	外部資金による整備が進んだ(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
15	4	5	1	いくつかの必要な機器が導入された。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
16	2	3	1	すべての教員が利用できる共通機器が充実してきている。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
17	4	5	1	良い意味で縦割りではなく,研究スタッフの自主性,創造性を尊重し支援する環境がある。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
18	1	2	1	更新を進める取り組みがなされてきた。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
19	2	3	1	〇〇大学農学部では少しずつであるが研究設備が整備されつつある。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
20	1	2	1	異動に伴い改善された。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
21	3	4	1	近年,研究機器の共用化に伴い,充実して来た。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
22	2	3	1	施設整備費の確保(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
23	3	3	0	研究施設・設備は整備されているが,指導する教員および技術職員の人材と時間の確保が容易ではない。(大学,第2G,理学,その他,男性)
24	2	2	0	老朽化が激しい。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
25	2	2	0	研究設備が貧弱であり,先端的な研究を実施するのが困難。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
26	3	3	0	全体的に設備や機器類の更新が必要だが,予算がない。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
27	1	1	0	大学内の政治的な力学で,大学の中期目標やプロジェクト研究のテーマが決定され,それに関連した設備でない予算がつかない。テーマは学問的・産業的重要性ではなく,政治的な力学で決まっており,国内外のスタンダードからは大きく逸脱している。社会や学問のために正しい事をしている教員が抑圧され,執行部に媚を売る無能教員がのさばっている。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
28	1	1	0	現代に合っていない。オープンにディスカッションできるスペースも少ない(ない)。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
29	4	4	0	ただし,老朽化/陳腐化による機器等の更新が困難。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
30	5	4	-1	設備が老朽化しつつある(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
31	5	4	-1	多くの設備が老朽化している。最先端機器を購入する資金がない。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
32	5	4	-1	設備の老朽化対策が不十分(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
33	3	2	-1	基盤的設備の老朽化が目立つ。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
34	4	3	-1	機械が壊れても修理費がありません。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
35	4	3	-1	実験そのものに関わるものは何とか準備しているが,施設修繕,整備に関わる予算配分が全くない状況であり,施設(建物)環境が劣悪になっている。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
36	2	1	-1	施設・設備の老朽化が進んでおり,首都圏の大学との格差が拡大している。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
37	4	3	-1	予算と同様,過度に目先の研究成果にとらわれた重点的な配分が行われている状況が続き,少々心配である。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
38	5	4	-1	研究の進展に伴って,スペースが手狭になってきたが,簡単には領域を拡大できない。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
39	6	5	-1	老朽化に伴う故障の代替機が無い。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
40	5	4	-1	研究所内の環境が良いか悪いかは人次第などところがある。教授のパワーバランスが偏っている気がする。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)

41	2	1	-1	最先端機器の購入が困難な上に、既存の機器の維持管理さえままならない状況です。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
42	4	3	-1	設備に老朽化が見られるようになってきた(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
43	3	2	-1	研究遂行上不可欠な装置の一部は、老朽化により不具合を生じている状況にあるが、予算がないとの理由で更新の見通しが立っていない。そのため、一部の実験を中止する、あるいは他機関へ解析を回すなど、時間と労力をかけなければならない状況にある。設備の更新は非常に困難な状況にある。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
44	3	2	-1	運営費交付金の減少に伴い、古くなった研究施設や設備の更新が滞り始めている。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
45	3	2	-1	人員不足,予算不足のため困難になりつつある(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
46	4	3	-1	老朽化した施設・設備の更新が出来ない(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
47	2	1	-1	設備等の老朽化が著しい。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
48	4	3	-1	機器のリプレースがほとんどできず、年々老朽化の問題が高まっている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
49	2	1	-1	機器、施設の老朽化が進んできておりますが、更新される予定がありません。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
50	2	1	-1	現状の研究室に分配される運営交付金では、新規に装置を買うこともできない。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
51	3	2	-1	施設・設備の老朽化が進み、創造的・先端的な研究開発に対応していない。特に数理データサイエンス関わる設備が不十分である。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
52	2	1	-1	予算がますます削減されている(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
53	4	3	-1	科研などで自分で整えたので(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
54	4	3	-1	経費削減のため全学的な共同研究設備の更新が出来なくなった。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
55	2	1	-1	施設や設備の更新を行う資金が不十分である(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
56	2	1	-1	研究機材の老朽化が著しい(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
57	5	4	-1	研究の到達目標を高めたため、相対的に低下。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
58	4	3	-1	研究施設・設備の老朽化,整備費用の不足が顕著になってきた。そうした最新の設備が必要な先端的な研究のためには、より一層の整備が必要だと思われる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
59	2	1	-1	古い設備の維持管理に予算が回され、新しい施設,環境を整備することが極めて困難になっている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
60	4	3	-1	技術職員の確保に苦慮している。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
61	3	2	-1	先端機器の老朽化に伴う措置が十分に行い状況では、年々十分でない状況に陥っていくのが目に見えているため(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
62	4	3	-1	情報系学科に必要なコンピュータ関係の設備へ使える予算は減っている(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
63	5	4	-1	欲を言えば、来客用の研究室を用意して欲しい。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
64	4	3	-1	学業以外のところで充実していて、学業がおろそかになってしまっている学生が増えたように感じるため。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
65	2	1	-1	老朽化した基盤設備の更新が全く進まない。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
66	3	2	-1	お金がないので、機器が故障しても修理,更新がなされない。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
67	3	2	-1	概算設備の申請が無くなったため、古い機器の更新の順位が、学内での学部間のパワーバランスに左右されるようになり始めていると感じる。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
68	2	1	-1	機器が古くなくても更新できず。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
69	4	3	-1	設置から年数が経ったため、機器が老朽化してきたため(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
70	2	1	-1	センターの人員削減(退職者の不補充)が顕著になっており、数年後にはセンターとしての機能を維持できなくなる。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
71	4	3	-1	研究予算の削減等により、大型・先端研究設備の維持・メンテナンスが十分に行えなくなっており、研究開発・人材育成に支障が出てきている。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
72	2	1	-1	まだまだ不十分である(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
73	3	2	-1	年々、予算の減額の影響が顕著となっている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
74	2	1	-1	研究予算に占める外部資金の割合が増加し、プロジェクト化に至る段階の研究に必要な設備投資が難しくなった(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
75	4	3	-1	基本的には良い設備を有しているが老朽化している。更新の議論が遅れている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
76	2	1	-1	一分野に偏る傾向にある。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
77	2	1	-1	創造的・先端的な研究開発や優れた人材の育成を行うのに十分だとはまったく思わない(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
78	5	4	-1	施設,機械に関してラボ間での交流がもっとあるべき(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
79	4	2	-2	拡張できるスペースがない,学科改変をおこない,実験系の学科にはスペースをより多く配分できるようになるべきである。妙な公平感是不幸を招く。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
80	5	3	-2	老朽化への対処がなされていない。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
81	3	1	-2	大型計算機等が、メンテナンスのコストなどの観点から、利用できなくなりつつあります。また、利用できるソフトウェアなども限定的です。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
82	3	1	-2	少なくとも、若手人材育成には向かない状況です。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)

83	5	3	-2	段々設備が古くなっているが、更新する資金が無いようだ。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
84	4	2	-2	共通機器は比較的そろっているが、古い機械も多く更新があまりされていない。大型の新しい装置を購入できるチャンスは殆ど無い。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
85	6	4	-2	施設,維持を行い,新しいものをどんどん取り入れていく必要がある。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
86	5	3	-2	装置の維持費が出せなくなり,使用料も値上げされている。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
87	5	3	-2	研究施設・設備の程度は十分とまでは言えないため。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
88	4	2	-2	老朽化が進行(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
89	3	1	-2	AI関係の資材の調達に時間が掛かり,サポートも無く,規制のみ多い。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
90	3	1	-2	最近,組織内の半数の施設が廃止との決定がなされたものの,残る施設をこれまでの倍の活用をするとの方針,施策は寡黙にして聞かえない。かつ,施設の廃止措置(=研究とは呼べないような内容)に研究者が直接的に関与するケースもあり,研究人材育成基盤は崩壊寸前だと思います。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
91	4	1	-3	施設・設備の老朽化が進んでおり,首都圏の大学との格差が拡大している。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
92	5	2	-3	4月から新しい大学に移ったが,前にいた大学に比べると研究施設・設備はやや不十分に思われる。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
93	5	2	-3	私立大学基盤支援事業が無くなり,大型の設備の購入が不可になった。また,これまでに購入した大型機械の修理費が負担できなくなりそうだから。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
94	6	2	-4	研究機関が国立大学の附置研究所から私立大学に変わったため,理論系の研究室は最先端の研究を行うためにそれほど資金が必要ではないが,実験系の研究室はそれなりに必要。にもかかわらず,十分なサポートは得られていない。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
95	5	1	-4	研究に取り組む時間がほぼ無いため。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)

Q205. 組織内で研究施設・設備・機器を共用するための仕組みが十分に整備されていると思いますか。

回答者グループ	2018年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回数者合計(人)	指数	第4 分点	中央値	第3 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	39	174	345	449	418	373	118	1,877	4.9	3.1	4.9	5.1	5.0	4.9	-	-	-0.15	-0.09	-	-	-0.24		
大学等	27	144	297	374	340	320	105	1,580	4.9	3.1	4.9	5.1	5.0	4.9	-	-	-0.15	-0.09	-	-	-0.24		
公的研究機関	12	30	48	75	78	53	13	297	4.8	3.2	4.9	5.0	4.8	4.8	-	-	-0.16	-0.06	-	-	-0.22		
イノベーション俯瞰グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
大企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
中小企業・大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
中小企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
橋渡し等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
性別	35	146	296	401	381	334	109	1,667	4.9	3.2	5.0	6.8	5.1	5.0	4.9	-	-0.13	-0.06	-	-	-0.19		
女性	4	28	49	48	37	39	9	210	4.4	2.5	4.3	6.5	5.0	4.6	4.4	-	-0.37	-0.25	-	-	-0.61		
男性	2	2	30	55	49	55	7	198	5.5	3.9	5.4	7.0	5.2	5.3	5.5	-	0.10	0.17	-	-	0.27		
社長・役員、学長等クラス	16	61	149	190	164	119	43	726	4.7	3.0	4.7	6.5	4.9	4.8	4.7	-	-0.05	-0.12	-	-	-0.17		
部長、教授クラス	18	76	106	138	135	130	36	621	4.8	2.9	4.9	6.8	5.2	4.8	4.8	-	-0.36	-0.02	-	-	-0.38		
主任研究員、准教授クラス	3	34	56	60	64	62	31	307	5.0	2.9	5.1	7.1	5.3	5.3	5.0	-	-0.08	-0.24	-	-	-0.33		
研究員、助教クラス	1	1	4	6	6	7	1	25	5.4	3.7	5.4	7.1	5.3	5.1	5.4	-	-0.13	0.23	-	-	0.10		
その他	18	36	90	128	128	150	39	571	5.3	3.6	5.4	7.2	5.6	5.4	5.3	-	-0.20	-0.10	-	-	-0.29		
任用あり	21	138	255	321	290	223	79	1,306	4.7	2.9	4.7	6.5	4.9	4.8	4.7	-	-0.10	-0.08	-	-	-0.18		
任期なし	1	2	14	36	31	35	7	125	5.7	4.0	5.6	7.2	5.3	5.4	5.7	-	0.14	0.23	-	-	0.37		
業務内容別	8	3	28	46	42	31	4	154	5.1	3.6	5.0	6.5	5.1	5.1	5.1	-	-0.03	-0.01	-	-	-0.04		
学長・機関長等	24	152	278	336	310	279	101	1,456	4.8	2.9	4.8	6.8	5.1	4.9	4.8	-	-0.20	-0.12	-	-	-0.31		
マネジメント実務	6	17	25	31	35	28	6	142	4.7	2.9	4.9	6.6	5.0	4.9	4.7	-	-0.10	-0.16	-	-	-0.26		
現場研究者	17	103	189	257	248	239	87	1,123	5.1	3.2	5.1	7.0	5.3	5.1	5.1	-	-0.14	-0.07	-	-	-0.21		
大規模PIの研究責任者	1	5	20	21	21	22	4	93	5.0	3.2	5.0	6.9	4.8	4.9	5.0	-	0.14	0.12	-	-	0.26		
国立大学等	9	36	88	96	71	59	14	364	4.4	2.7	4.3	6.2	4.8	4.6	4.4	-	-0.25	-0.21	-	-	0.46		
私立大学	3	13	37	42	59	72	25	248	5.7	3.8	5.9	7.5	5.8	5.7	5.7	-	-0.08	0.04	-	-	-0.04		
第1グループ	7	33	58	79	82	77	27	356	5.1	3.3	5.2	7.0	5.4	5.3	5.1	-	-0.10	-0.23	-	-	-0.33		
第2グループ	7	42	78	97	85	61	20	383	4.5	2.8	4.6	6.4	4.8	4.6	4.5	-	-0.16	-0.07	-	-	-0.23		
第3グループ	8	54	118	144	95	97	25	533	4.5	2.8	4.4	6.5	4.7	4.6	4.5	-	-0.19	-0.04	-	-	-0.23		
第4グループ	9	21	29	34	45	44	16	189	5.2	3.2	5.4	7.1	5.6	5.4	5.2	-	-0.21	-0.21	-	-	-0.42		
理学	5	43	87	101	96	78	25	430	4.7	2.9	4.7	6.6	4.9	4.8	4.7	-	-0.08	-0.08	-	-	-0.17		
工学	1	24	37	50	28	28	7	174	4.2	2.5	4.2	6.2	4.5	4.3	4.2	-	-0.27	-0.03	-	-	-0.30		
農学	3	37	79	94	72	87	38	407	5.0	3.0	4.9	7.1	5.5	5.2	5.0	-	-0.25	-0.18	-	-	-0.43		
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
なし/分からない	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
全回答者(属性無回答を含む)	39	174	345	449	418	373	118	1,877	4.9	3.1	4.9	6.8	5.1	5.0	4.9	-	-0.15	-0.09	-	-	-0.24		

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したも。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q205. (意見の変更理由)組織内で研究施設・設備・機器を共用するための仕組みが十分に整備されていると思いますか。

	2017	2018	差	
1	1	5	4	他部署の装置を使うことが実際にあった。仕組みとして整備するべき。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	2	5	3	共有実験室や共有の工作室など、パーツ類も共有して使用できる。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
3	1	3	2	経費がないなりに設備を集約する努力を大学はしている。しかし、本来は、人を雇用すべき経費なのではないと思います。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
4	2	4	2	共用設備利用のシステムが整備されたため。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
5	3	5	2	利用する稼働率にもよるが、向上していると思われる。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
6	4	5	1	共用化の制度を構築した(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
7	4	5	1	共同利用の仕組みが整備されつつある。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
8	1	2	1	組織的ではありませんが、現場レベルでは機械の共有など工夫をしてのいでいます。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
9	3	4	1	それなりの仕組みを作り、運営し始めている。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
10	4	5	1	制度設計を進めている(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
11	3	4	1	〇〇〇〇〇〇【大学内部組織名】では特に昨年度から今年度にかけて共用機器の整備が進んだ。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
12	1	2	1	そのための情報共有をしようとする試みは増えてきている。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
13	4	5	1	かなりよいが、課金システムには改善が必要(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
14	2	3	1	自分が学部長になり、組織改革を進めているため、少しずつ改善してきた。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
15	1	2	1	共通機器の予約がオンラインで行えるよう整備されつつある。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
16	5	6	1	本年度大学から若手研究者の研究環境充実のための予算がついたため(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
17	2	3	1	機器の共用に関する援助金が採択されて、その整備中。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
18	2	3	1	事業化センター新設で共用の仕組みの整備が進んだ(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
19	3	4	1	昨年度より共用設備基盤センターが設立され、多くの機種がそこに登録され管理をうけることになった。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
20	4	5	1	オンラインで機器使用の予約をするシステムが構築された。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
21	1	2	1	共用センターが立ち上がった点で変更。まだ実態は変わっていない。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
22	4	5	1	共通機器に頼っている研究室が多いため、管理はしっかりとしている。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
23	4	5	1	すべての教員が利用できる共通機器が充実してきている。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
24	2	3	1	文科省からの予算「新たな共用システム導入支援プログラム」が得られたので、共用化の機運が高まっている。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
25	4	5	1	総合研究所の学内ホームページの機器予約システムが充実、浸透し、利用者が希望機器をネットで予約・キャンセルするようになったから(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
26	5	6	1	先端研究基盤共用促進事業により複数の部局が保有する独自の共用設備・機器のオンライン予約システムが整備されたため。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)
27	4	5	1	共通の研究施設である生命科学統合支援センターの充実(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,女性)
28	2	3	1	共用設備センターを設置し、機器の全学共用体制が整備された。また、共同利用スペースの利用拡大を図るため、全学に利用状況を公開するようシステムの整備を検討している。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
29	4	5	1	設備サポートセンターを設置して、設備・機器を共用する制度を確立した。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
30	3	4	1	共同利用できる設備が増加している。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
31	3	4	1	センター開設後5年目を迎え、少しずつ改善が図られている。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
32	1	2	1	研究設備は整備されつつあるが、それを管理する専門職員がいないので大変効率が悪く、常時使う人がいなくなると誰も使わなくなって使い方がわからないという状況になってしまう。危機管理の専門職員が必要。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
33	4	5	1	近年、研究機器の共用化に伴い、充実して来た。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
34	2	3	1	昨年度から就任した研究支援センターである総合科学研究支援センターの分野長として共用できる仕組みを少しずつ整えているため。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
35	3	4	1	学部を超えた共同利用の体制が少しずつ整いつつある。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
36	2	3	1	大型機器を管理する共同実験施設が、運用されているが、人員の確保、資金の確保が十分でない。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
37	2	3	1	共通機器室が機能しはじめたと思うので。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,女性)
38	3	4	1	最近研究科横断的に機器を使う取り組みがすすんでおり、多少とも便利になった人もいます。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
39	3	4	1	改革中であり着実に良くなっている(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)

40	2	3	1	研究部に横串を刺し,重なっている設備に関する共用ルールの策定準備が始まった(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
41	2	3	1	資金が減っていく中で共用という考え方は広まりつつある。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
42	1	1	0	予算がプロジェクト中心になったため,学外との共同使用が多くなった。そのため,同じ学科の内部の人間とは疎遠になった。弊害である。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
43	3	3	0	欧米に比べて脆弱なコアファシリティーの充実化は○大は進めつつある。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
44	1	1	0	横のつながりが希薄で,個人的なコネクションがなければ情報入手も難しい。(大学,第1G,農学,研究員・助教クラス,女性)
45	5	5	0	仕組みは整備されているが,肝心の施設や機器類が老朽化していくことは考えられているのだろうか。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
46	6	6	0	共同利用拠点であるために,そこはしっかりしている。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
47	1	1	0	ただでさえ人材不足の状況にあり,現職の間で共通機器の管理まで手が回っていません。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
48	5	5	0	特に不自由はない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
49	2	2	0	共用のプラットフォームができつつあるが,実際の共用はなかなか難しい。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
50	1	1	0	機器を管理することを考えていないように思われる。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
51	2	1	-1	共有の仕組みはほとんどない(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
52	3	2	-1	以前整備された古い設備が維持されている状況で,最先端の装置や機器は全く導入されていない。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
53	4	3	-1	共用機器センターは整備されているが,運営する教員の数が不足している状況が続いている。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
54	3	2	-1	高額機器のメンテナンスができず,使用できなくなってきた機器が出てきた(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
55	3	2	-1	共用しようとする考え方がなくなってきた(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
56	2	1	-1	機器に精通した技術職員の国際化も必要。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
57	3	2	-1	オペレーションを行う人材が不足している。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
58	3	2	-1	共用する仕組みはあるが,老朽化に伴うメンテナンス費用が十分に確保されていない。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
59	4	3	-1	科研などで自分で整えたので(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
60	3	2	-1	機器の共有するための管理者の不在のため,機器の共有を円滑に進めることができていない。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
61	2	1	-1	機器が古く,すぐに故障している。使用者の技術不足も十分にある。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
62	2	1	-1	〇〇〇【大学内部組織名】の動物実験施設の老朽化が激しく,若手研究者と学長の懇談会の際,その旨医学部の教員が訴えたが,かなり遠方にある学部(大学本部のあるキャンパス)で新設された動物施設の使用を勧められた。ただでさえ臨床や教育の負担が大きい学部であるにも関わらずそのような意見をされることに,一研究者として驚いた。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
63	5	4	-1	研究の到達目標を高めたため,相対的に低下。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
64	4	3	-1	ずいぶん整備されてきたと思っていたが,他機関と比べると,研究場所に関する柔軟な仕組みを整備すべきと感じている(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
65	3	2	-1	研究者が機器のメンテナンス,維持整備など研究ではなく組織のために動いている(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
66	4	3	-1	主要装置(放射光施設)は,保守・運転体制に責任者がいて対応できているが,個々の研究者が取得した機器の,保守・利用がシステム化されていない。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
67	3	2	-1	旧帝大系の有力大学に比べると,設備共用のシステムは比較的整備されている。ただし,予算の削減により,設備を維持できなくなったり,維持費の個人負担が進められており,状況は悪化している。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
68	3	2	-1	他の研究室がどんな装置を持っているかよくわからない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
69	4	3	-1	改組により部屋の割り当てのバランスがかわったことによる。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
70	3	2	-1	機器の修理・メンテナンス費用がない。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
71	3	2	-1	所属機関変更のため。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
72	3	2	-1	共同研究利用のための拠点が多くなり,その運営のための人的資源が不足している。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
73	4	3	-1	高額機器は筑波の本部に1台を設置することになり,北海道から九州まで支所を配置している当機構においては,それを利用しにくい研究員が存在する。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
74	2	1	-1	研究室が管理している施設・設備について,使いたいという人が現れる度に,管理している研究室の室員は,施設・設備の使い方を教える等,多くの時間を割かれて仕事に支障がでている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
75	3	2	-1	個人の活動によるもので,仕組みの整備は不十分(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
76	2	1	-1	共用する仕組みはあっても,互いの部署の品質保証を整合させる必要や,研究そのものに関係しない必要書類及び幹部職を含んだ根回し等が必要であり,ほぼ共用制度が機能していないことから整備状況は極めて不十分。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
77	4	2	-2	研究科を変ったところ,現在所属するところでは共用に対する取り組みがかなり不十分なことを発見しました。(大学,第1G,研究員・助教クラス,男性)
78	3	1	-2	一部の人しか恩恵を受けられないシステムを組まれております。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)

79	4	2	-2	故障した装置の修理を行う予算的な余裕もない。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
80	5	3	-2	今年度から,アクセスできる文献が極端に減少し,最新情報の入手が困難になった。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
81	5	3	-2	4月から新しい大学に移ったが,前にいた大学と同様に研究機器の共用するための仕組みがある程度整っていると思われる。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
82	4	2	-2	担当者の転出・退職等の対応が十分でなく,また引き継ぐ人材が確保できていない状況があるため(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
83	5	3	-2	無駄が多い.設備よりも人件費である。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
84	5	3	-2	組織外を対象とした共用拡大にばかり目がいきっており,組織内での共用の重要性について考えが及んでいないように見える。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
85	3	1	-2	組織内の細部研究所が細かく分かれている為,サーバーや温室の共有がしにくい。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
86	5	2	-3	共用する仕組みの運営に駆り出される教員が増え,研究の妨げになっている側面もある。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
87	4	1	-3	ソフトウェアの購入等に必要となる作成すべき書類の数が多いため。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
88	5	2	-3	タイプ1~4の採択が困難だから。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
89	6	2	-4	研究機関が国立大学の附置研究所から私立大学に変わったため。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)

Q206. 我が国における知的基盤や研究情報基盤の状況は十分だと思いますか。

回答者グループ	2018年度調査												各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6															回答者合計(人)
大学・公的研究機関グループ	99	241	533	509	339	175	20	1,817	3.7	2.3	3.8	5.4	4.1	3.9	3.7	-	-0.22	-0.19	-	-	-0.41	
大学等	81	210	445	428	277	148	18	1,526	3.7	2.3	3.8	5.4	4.1	3.9	3.7	-	-0.22	-0.19	-	-	-0.41	
公的研究機関	18	31	88	81	62	27	2	291	3.8	2.5	3.9	5.5	4.2	4.0	3.8	-	-0.22	-0.16	-	-	-0.38	
イノベーション俯瞰グループ	45	26	164	163	128	57	3	541	4.1	2.8	4.2	5.7	4.6	4.3	4.1	-	-0.25	-0.18	-	-	-0.43	
大企業	17	1	55	64	30	20	0	170	4.2	2.9	4.1	5.4	4.6	4.4	4.2	-	-0.25	-0.21	-	-	-0.47	
中小企業・大学発ベンチャー	15	10	36	33	30	9	1	122	4.0	2.6	4.1	5.6	4.5	4.3	4.0	-	-0.21	-0.30	-	-	-0.51	
中小企業	9	6	18	20	16	4	0	64	3.8	2.6	4.0	5.4	4.4	4.3	3.8	-	-0.13	-0.51	-	-	-0.64	
大学発ベンチャー	6	4	18	13	17	5	1	58	4.1	2.6	4.2	5.8	4.5	4.2	4.1	-	-0.29	-0.07	-	-	-0.36	
橋渡し等	13	15	73	66	65	28	2	249	4.2	2.7	4.3	5.8	4.6	4.3	4.2	-	-0.28	-0.10	-	-	-0.38	
男性	126	241	626	606	424	213	20	2,130	3.8	2.4	3.9	5.5	4.2	4.0	3.8	-	-0.22	-0.18	-	-	-0.41	
女性	18	26	71	66	43	19	3	228	3.7	2.4	3.8	5.3	4.2	3.9	3.7	-	-0.26	-0.21	-	-	-0.48	
社長・役員、学長等クラス	22	28	138	138	76	30	1	411	3.7	2.6	3.8	5.1	4.0	3.8	3.7	-	-0.21	-0.09	-	-	-0.30	
部長、教授クラス	53	105	294	274	183	78	8	942	3.7	2.4	3.8	5.3	4.1	3.9	3.7	-	-0.16	-0.22	-	-	-0.38	
主任研究員、准教授クラス	44	86	177	171	132	70	10	646	3.9	2.4	3.9	5.6	4.3	4.0	3.9	-	-0.29	-0.19	-	-	-0.48	
研究員、助教クラス	18	46	73	66	66	49	4	304	4.1	2.4	4.2	6.1	4.5	4.2	4.1	-	-0.25	-0.16	-	-	-0.41	
その他	7	2	15	23	10	5	0	55	4.0	3.0	4.1	5.2	4.4	4.2	4.0	-	-0.25	-0.15	-	-	-0.40	
雇用形態	48	72	224	221	147	79	7	750	3.9	2.5	3.9	5.5	4.2	4.0	3.9	-	-0.19	-0.16	-	-	-0.35	
任期なし	96	195	473	451	320	153	16	1,608	3.8	2.4	3.8	5.5	4.2	4.0	3.8	-	-0.25	-0.20	-	-	-0.44	
業務内容別	1	5	48	52	15	4	1	125	3.5	2.6	3.6	4.6	3.6	3.5	3.5	-	-0.05	-0.05	-	-	-0.10	
学長・機関長等	14	12	59	52	21	4	0	148	3.3	2.4	3.4	4.6	3.6	3.4	3.3	-	-0.20	-0.12	-	-	-0.32	
マネジメント実務	78	203	382	372	272	155	18	1,402	3.8	2.3	3.9	5.6	4.2	4.0	3.8	-	-0.24	-0.20	-	-	-0.44	
現場研究者	6	21	44	33	31	12	1	142	3.6	2.2	3.6	5.5	4.0	3.8	3.6	-	-0.19	-0.20	-	-	-0.38	
大規模Pの研究責任者	55	168	309	288	192	114	14	1,085	3.7	2.2	3.7	5.4	4.1	3.9	3.7	-	-0.23	-0.21	-	-	-0.43	
国立大学等	5	10	36	26	11	6	0	89	3.3	2.2	3.3	4.7	3.5	3.3	3.3	-	-0.14	-0.06	-	-	-0.20	
私立大学	21	32	100	114	74	28	4	352	3.9	2.6	4.0	5.4	4.3	4.1	3.9	-	-0.22	-0.18	-	-	-0.41	
大学グループ	9	37	55	60	51	33	6	242	4.0	2.4	4.1	6.0	4.5	4.2	4.0	-	-0.33	-0.15	-	-	-0.48	
第1グループ	20	36	103	84	75	43	2	343	4.0	2.5	4.0	5.8	4.4	4.3	4.0	-	-0.12	-0.30	-	-	-0.42	
第2グループ	16	61	131	101	54	25	2	374	3.2	2.1	3.3	4.8	3.8	3.5	3.2	-	-0.31	-0.24	-	-	-0.54	
第3グループ	30	70	145	160	88	41	7	511	3.6	2.3	3.8	5.2	3.9	3.7	3.6	-	-0.14	-0.10	-	-	-0.24	
第4グループ	9	39	40	49	38	19	4	189	3.7	2.0	3.9	5.6	4.2	3.9	3.7	-	-0.35	-0.21	-	-	-0.57	
大学部局分野	23	68	119	99	72	47	7	412	3.7	2.2	3.7	5.5	4.2	3.9	3.7	-	-0.26	-0.28	-	-	-0.54	
工学	9	23	49	41	34	18	1	166	3.7	2.3	3.8	5.6	4.2	3.9	3.7	-	-0.26	-0.18	-	-	-0.44	
農学	19	44	114	112	75	42	4	391	3.8	2.5	3.9	5.5	4.2	4.0	3.8	-	-0.16	-0.19	-	-	-0.35	
保健	31	20	133	133	113	49	3	451	4.2	2.8	4.2	5.8	4.6	4.3	4.2	-	-0.26	-0.13	-	-	-0.39	
産学官連携活動あり(過去3年間)	14	6	31	30	15	8	0	90	3.7	2.6	3.8	5.1	4.4	4.1	3.7	-	-0.22	-0.40	-	-	-0.62	
なし	18	8	62	70	52	21	0	213	4.2	2.9	4.2	5.6	4.6	4.4	4.2	-	-0.18	-0.26	-	-	-0.43	
産学官連携活動あり(過去3年間)	22	6	59	51	31	16	0	163	3.9	2.6	3.9	5.3	4.6	4.1	3.9	-	-0.42	-0.25	-	-	-0.67	
なし/分からない	144	267	697	672	467	232	23	2,358	3.8	2.4	3.9	5.5	4.2	4.0	3.8	-	-0.23	-0.19	-	-	-0.41	
全回答者(属性無回答を含む)																						

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したも。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q206. (意見の変更理由)我が国における知的基盤や研究情報基盤の状況は十分だと思いますか。

2017	2018	差	
1	2	4	2 色々なデータベースが整備されてきたと思います。しかし、未だ国外のデータベースをfirst choiceしてしまうことが多いので、これからの期待です。使用説明なども、日本語の方が嬉しいです。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	1	3	2 去年まで自由にアクセスできたSpringerの雑誌へのアクセスが今年から経費の面であまりできなくなった。逆説的に今まで言う面では恵まれていたのだと実感したので。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
3	3	5	2 かなり充実している。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
4	2	4	2 ○○○○○○○○○【製品名】の導入により、データのクラウド化が可能になりました。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
5	3	5	2 30年前に比べればよくなっている。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
6	2	3	1 すこし進んできているように感じる。(大学,社長・学長等クラス,男性)
7	3	4	1 以前よりも自分自身の状況把握力がアップしたため(大学,研究員・助教クラス,男性)
8	2	3	1 多少の改善が見られる。(大学,その他,男性)
9	2	3	1 データベースは完備されつつある。その結果何が生まれるのかが分かりませんか？負の側面もあるようでなりません。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
10	4	5	1 年々、充実してきているように感じる。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
11	1	2	1 だいぶ整ってきていると思われます(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
12	3	4	1 生物資源やデータベース等が徐々に充実してきた。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
13	1	2	1 各種データベースのデジタル化など、改善がみられるが(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
14	3	4	1 公共データベースの整備の進展が著しい。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
15	3	4	1 十分とは言えないが,Society5.0で推進されているBDやAI活用に準じて,各国プロでそれらの基盤構築がされつつある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
16	2	3	1 NIIのCiNiiや国会図書館のデータベース等整備は進んでいるが,料金が低い。また,特許DBはPLATPATで日中翻訳や日韓翻訳のレベルが上がってきている(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
17	2	3	1 経産省主体でWEFとの4IRの活動拠点が整備された。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
18	2	3	1 SINET5の積極的活用や基盤強化により改善されている。(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
19	2	2	0 電子ジャーナルが高価であり,閲覧できない場合が多い。(大学,社長・学長等クラス,男性)
20	3	3	0 国際ジャーナルの価格高騰に国際社会が何らかの対策を取る必要がある。(大学,部長・教授等クラス,男性)
21	4	4	0 基盤は劣化していないが,研究活動との結びつきに懸念が。(大学,部長・教授等クラス,男性)
22	1	1	0 政府の方針が,基盤的研究を阻害する方向を向いているとしか思えません。(大学,第1G,研究員・助教クラス,男性)
23	2	2	0 e-Journal の購読が多額の予算を必要としている。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
24	3	3	0 現時点で本学で不足であるという話ではないが,論文誌の購読コストの暴騰は早晩専門誌アクセスの悪化という形で大きな問題となると思う(2-11で補足)。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
25	3	3	0 知的基盤や研究情報基盤を管理運営する属人的能力のばらつきがあるので,組織的な教育が不可欠と思われる。(大学,第2G,理学,その他,男性)
26	3	3	0 学会側の電子化が進んでいるが,一部の分野ではそのアクセス料が高く,全学的な契約が難しい。よって,個人的に料金を払ってアクセスし,それを研究費で払う形で面倒が多い。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
27	1	1	0 論文を読むWeb環境が大学により大きな差がある。データも個人情報保護の側面が社会的に重視されているので,非常に扱いが難しく,研究するときの障壁になっている。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
28	1	1	0 電子ジャーナルやデータベースが高騰しているが,予算が不足して十分な整備が出来ない。状況は悪化傾向。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
29	1	1	0 改善はなされていますが,世界レベルにおいていません。知財の重要性や,何よりも知財を確保するモチベーションの確保が必須。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
30	1	1	0 電子ジャーナルの高騰は問題。対応を各研究機関に任せるのではなく,組織横断的に国(文科省)として何らかの対応を取るべき段階に来ていると思われる。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
31	2	2	0 情報基盤の共有化,活用方法の教育,人材育成が不十分。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
32	1	1	0 ○○○○○○研究所【公的研究機関名】が,校正サービスを一部停止してしまったため,精密計測ができなくなりました。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
33	2	2	0 産学官の情報共有やデータベースの充実レベルが海外と比べると不十分(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
34	3	3	0 データベースは必ずしも国単位で用意しなくても,海外の優れたデータベースがあるのなら,それを国の支援のもと利用し易い形で導入することも検討しているかと思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
35	3	2	-1 研究情報基盤・研究成果情報基盤ともに世界的に企業化,有料化が進み,大学として定常的な支出として確保する金額が大きくなり,予算硬直化の一因となりつつある。(大学,社長・学長等クラス,男性)
36	3	2	-1 運営交付金の削減で,電子ジャーナルが十分活用できなくなっている(大学,部長・教授等クラス,男性)
37	4	3	-1 米国などと比べると遅れが目立つ。(大学,部長・教授等クラス,男性)
38	3	2	-1 より厳しい状況に変化している。(大学,部長・教授等クラス,女性)

39	2	1	-1	共通機器の老朽化,論文データベースへのアクセス範囲の縮小などが研究環境悪化の原因であると考える。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
40	2	1	-1	諸外国の実態を知り,相対的な危機感が強まった(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
41	4	3	-1	国の投入状況の割には基盤整備されていると思うが,それでも強化は充分ではない。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
42	4	3	-1	国全体で見ると十分とはいえない。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
43	4	3	-1	アメリカに加えて中国の科学技術政策の急進を見ていると,日本の停滞が目立ってきているように思われる。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
44	4	3	-1	予算削減とともに図書館関係の予算が減り,電子データへのアクセスが悪くなっており,研究環境が劣化している。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
45	2	1	-1	電子雑誌の値上げにより,年々アクセスできる雑誌が減っている.個別に論文を購入する予算はなく,自費で賄うしかない(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
46	2	1	-1	悪化している(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
47	2	1	-1	図書購入費が足りなくて,毎年アンケートによって購入する雑誌を決定している状況で実際購入を諦めた雑誌も出てきます。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
48	3	2	-1	電子ジャーナルの価格高騰に伴って,購読可能なタイトル数が激減.一部契約を打ち切ることも検討中.図書館機能の脆弱化が著しい.大学たるには図書館の重点化が必要だと思う。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
49	2	1	-1	大学の予算が削られ,読むことのできる電子ジャーナル数が減少しているため。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
50	2	1	-1	データがあるはずなのにアクセス出来ない状況があるため。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)
51	2	1	-1	運営費交付金の減少とジャーナルの値上がりに伴い,研究活動に必要なジャーナルでも毎年その一部の購読を中止せざる得なくなっている。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
52	3	2	-1	データベースは整備されていないと思う。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
53	2	1	-1	ジャーナルのオープン化に,大学が追い付いていない(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
54	4	3	-1	学術誌の購読費の高騰により,論文へのアクセスが年々しづらくなっているように感じる。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
55	4	3	-1	J-Stageなどは便利だが,google scholarに頼る(一瞥で結果が出るなど,検索に秀でている)ことも多いので(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
56	2	1	-1	雑誌を購読するための予算を捻出出来ない大学が増えている。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
57	2	1	-1	予算の縮減によってeジャーナルにほとんどアクセスできなくなったため。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
58	5	4	-1	アクセスできない文献が多いと感じる。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
59	3	2	-1	ジャーナル購読料の高騰により,大学内で閲覧できるジャーナルの数がどんどん減っている.大学間格差も広がっている。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
60	3	2	-1	知財部門に専門分野の人がいないので正当な評価がされにくい.評価も特許が企業に売れるかどうか優先されている。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
61	2	1	-1	査読を行うための論文を取得することすら困難である。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
62	3	2	-1	決して十分とは言えないと考えます。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
63	3	2	-1	特に図書館の在り方が問われる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
64	4	3	-1	図書・情報関連経費の削減で,必要なオンラインジャーナル等の論文へのアクセスが困難な場合が起きている。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
65	2	1	-1	中国などへの警戒感が超不足している.securityをあげるべき.PJ成果をwwwで簡単に見れたりする現状も改めるべき。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
66	4	3	-1	電子ジャーナル経費が増加の一途で基盤研究費を大いに圧迫している。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
67	2	1	-1	雑誌購読料の高騰により,地方小規模大学は十分な論文アクセスができる枠組を維持しづらくなっている.ほぼ限界か,割り込んでいる感。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
68	4	3	-1	情報化が進まず,取り残されていると感じる産業があるため。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
69	4	3	-1	私の知る限りで,データベース等,数年前は整備する活動が活発だったが,今は,収束し,一部は陳腐になりかけている。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
70	2	1	-1	教育にかける予算が各所で大きく削られており,状況は悪化の一途をたどっている。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
71	4	3	-1	図書館においてある図書,特に学術雑誌の数が減少している。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
72	3	2	-1	オンラインジャーナルの費用高騰を受けて,年々雑誌数が減らされている。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
73	4	3	-1	情報基盤自体は充実してきているが,情報が溢れて,アクセスしづらくなっているように感じます。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
74	3	2	-1	電子図書の費用増大に伴い,購入雑誌の選別が行われている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
75	2	1	-1	共通的な予算の削減で,情報へのアクセス権が維持できなくなっている(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
76	2	1	-1	予算削減され,ネットワークやセキュリティなどを要求されても整備する余力がない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
77	4	3	-1	日本の研究者が生み出す論文に関して,他者の引用論文数・回数の国別順位を知れば,これでよいとは誰も思わない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)

78	2	1	-1	中国の動きを見ていると日本の基盤はますます比較して劣化していると感じる。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
79	3	2	-1	基盤として, 横断的に活用が促進される仕組みになっていない。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
80	4	3	-1	セキュリティに関する懸念が増している(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
81	4	3	-1	十分な知識はないが, 「データ」等はあるものと思われる。ただ, それを簡便につかえるような仕組みはまだ十分ではないように感じられる(個別バラバラの提供となっているのではないか)。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
82	5	4	-1	リソースがどこに存在するかの情報が共有されておらず, 見つけにくい。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
83	3	2	-1	情報の鮮度, カバレッジをとっても相対的に下がっていると思います。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
84	5	4	-1	研究室を維持する予算の確保に苦勞していると, 先生方から聞いている。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
85	4	3	-1	ネットワーク上の改善は期待したい, セキュリティーが不安。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
86	4	3	-1	相対的に必要とされる基盤レベルが上がっていると感じる。(民間企業等, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
87	5	4	-1	絶対値として低下している訳ではないが, 中国などの国策対応により, 世界全体から見ると相対的に低下して感がある。(民間企業等, その他, 男性)
88	5	3	-2	予算の削減が進み, 年ごとに悪化していると感じる。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
89	5	3	-2	特に電子ジャーナルの価格が高騰し, いよいよ大学からのアクセスがしにくくなってきている。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
90	4	2	-2	必要とされる情報が急速に伸びている中, 基盤が追いついていないように思われる。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
91	3	1	-2	各大学が予算削減のため, 年々, 学術雑誌へアクセスしにくくなっている。しかし, その努力・対応を各研究者・大学レベルに任せており, 日本全体としての対応が行われていない。(大学, 第1G, 工学, 部長・教授等クラス, 男性)
92	3	1	-2	いまだに秘匿になっていたり, 十分に情報が集約されていない状況にあると思います。(大学, 第3G, 理学, 部長・教授等クラス, 男性)
93	4	2	-2	海外雑誌論文などは個人で購入する必要があり, 限られた情報しか得ることができない。(大学, 第3G, 工学, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
94	4	2	-2	論文等の研究情報へのアクセス, 電子ジャーナルが十分に整っているとは言い難い。文献取り寄せにアナログなやり方では, 海外に比べて遅れをとっていると感じる。(大学, 第3G, 保健, 主任研究員・准教授クラス, 女性)
95	3	1	-2	広報が十分でない(大学, 第4G, 社長・学長等クラス, 男性)
96	4	2	-2	医療データなど個人情報を含む情報の利活用の取り組みが遅れている。(大学, 第4G, 社長・学長等クラス, 男性)
97	4	2	-2	運営費交付金等が年々減額されることと, 雑誌購読料の高騰で, 文献の入手が非常に困難になっている現状があるため。(大学, 第4G, 理学, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
98	3	1	-2	情報へのアクセスには費用がかかり, 資金力の弱い大学からのアクセスは制限され, 情報格差が年々広がっていることを強く感じる。(大学, 第4G, 工学, 部長・教授等クラス, 男性)
99	3	1	-2	大学の財政的事情により閲覧できる論文数が劇的に減少している。教育上でも問題である。(大学, 第4G, 工学, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
100	4	2	-2	海外と比較して, 充実しているとはいいがたくなっている。特に情報資源のプラットフォーム化は遅滞している。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
101	4	2	-2	データベースに不足感がある。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
102	4	2	-2	情報システム資源のクラウド化の整備速度が遅すぎて, 世界の潮流から遅れている。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)

Q207. 公的研究機関が保有する最先端の大型共用研究施設・設備の利用のしやすさの程度(利用に際しての手続、サポート体制、利用料金等)はどうか。

回答者グループ	2018年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						指数	第4 分点	中央値	第3 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年		
		1	2	3	4	5	6															回答者 合計(人)	
大学・公的研究機関グループ	338	160	405	461	371	154	27	1,578	4.0	2.6	4.1	5.7	4.3	4.2	4.0	-	-0.14	-0.12	-	-0.26			
大学等	275	143	353	386	297	133	20	1,332	4.0	2.6	4.1	5.7	4.2	4.1	4.0	-	-0.13	-0.14	-	-0.27			
公的研究機関	63	17	52	75	74	21	7	246	4.4	3.1	4.5	5.9	4.6	4.4	4.4	-	-0.16	-0.01	-	-0.17			
イノベーション俯瞰グループ	98	29	126	146	131	50	6	488	4.3	2.9	4.3	5.8	4.2	4.2	4.3	-	-0.02	0.07	-	0.04			
大企業	28	3	35	55	45	19	2	159	4.6	3.4	4.6	6.0	4.5	4.6	4.6	-	0.09	0.03	-	0.12			
中小企業・大学発ベンチャー	23	11	29	33	30	8	3	114	4.1	2.7	4.2	5.7	4.1	3.9	4.1	-	-0.21	0.20	-	-0.01			
中小企業	14	4	14	16	18	5	2	59	4.4	2.9	4.5	5.9	4.4	4.1	4.4	-	-0.25	0.27	-	0.02			
大学発ベンチャー	9	7	15	17	12	3	1	55	3.7	2.4	3.9	5.3	3.8	3.6	3.7	-	-0.18	0.09	-	-0.09			
橋渡し等	47	15	62	58	56	23	1	215	4.1	2.7	4.2	5.8	4.1	4.1	4.1	-	-0.01	0.02	-	0.00			
男性	375	168	484	554	464	182	29	1,881	4.1	2.7	4.2	5.7	4.3	4.2	4.1	-	-0.11	-0.08	-	-0.19			
女性	61	21	47	53	38	22	4	185	4.1	2.6	4.1	5.8	4.2	4.1	4.1	-	-0.06	-0.07	-	-0.13			
社長・役員、学長等クラス	51	24	88	125	107	37	1	382	4.3	3.0	4.4	5.8	4.3	4.2	4.3	-	-0.07	0.05	-	-0.02			
部長、教授クラス	164	66	235	246	198	77	9	831	4.0	2.7	4.1	5.6	4.2	4.2	4.0	-	-0.02	-0.14	-	-0.16			
主任研究員、准教授クラス	148	61	126	146	135	60	14	542	4.2	2.7	4.3	5.9	4.4	4.1	4.2	-	-0.28	0.06	-	-0.21			
研究員、助教クラス	60	38	63	79	48	26	8	262	3.9	2.4	4.0	5.6	4.3	4.2	3.9	-	-0.04	-0.36	-	-0.41			
その他	13	0	19	11	14	4	1	49	4.2	2.7	4.2	5.8	4.7	4.2	4.2	-	-0.56	0.08	-	-0.47			
雇用形態	130	65	165	201	160	68	9	668	4.1	2.7	4.2	5.7	4.2	4.1	4.1	-	-0.09	-0.07	-	-0.15			
任期あり	306	124	366	406	342	136	24	1,398	4.1	2.7	4.2	5.7	4.3	4.2	4.1	-	-0.12	-0.08	-	-0.20			
任期なし	4	6	23	43	40	10	0	122	4.4	3.4	4.6	5.8	4.3	4.2	4.4	-	-0.11	0.24	-	0.13			
業務内容別	36	2	36	51	30	6	1	126	4.1	3.0	4.2	5.3	4.2	4.1	4.1	-	-0.08	-0.07	-	-0.15			
学長・機関長等	281	138	318	332	262	124	25	1,199	4.0	2.5	4.1	5.7	4.3	4.1	4.0	-	-0.16	-0.14	-	-0.31			
マネジメント実務	17	14	28	35	39	14	1	131	4.2	2.8	4.5	5.9	4.5	4.5	4.2	-	0.01	-0.26	-	-0.26			
現場研究者	175	99	234	277	229	109	17	965	4.1	2.7	4.2	5.8	4.4	4.3	4.1	-	-0.14	-0.15	-	-0.30			
大規模Pの研究責任者	18	4	23	28	12	8	1	76	4.0	2.8	4.0	5.3	4.1	4.1	4.0	-	-0.04	-0.06	-	-0.10			
国立大学等	82	40	96	81	56	16	2	291	3.4	2.2	3.5	5.0	3.6	3.5	3.4	-	-0.12	-0.06	-	-0.19			
私立大学	30	20	43	61	59	31	7	221	4.5	3.0	4.6	6.2	4.8	4.7	4.5	-	-0.07	-0.17	-	-0.24			
大学グループ	66	26	72	81	74	41	3	297	4.3	2.8	4.4	6.0	4.5	4.4	4.3	-	-0.06	-0.14	-	-0.21			
第1グループ	60	48	101	111	48	21	1	330	3.4	2.2	3.6	4.8	3.8	3.5	3.4	-	-0.31	-0.11	-	-0.43			
第2グループ	113	46	130	121	95	30	6	428	3.8	2.4	3.9	5.4	3.9	3.9	3.8	-	-0.06	-0.08	-	-0.14			
第3グループ	32	18	33	47	38	22	8	166	4.4	2.9	4.5	6.2	4.9	4.7	4.4	-	-0.19	-0.23	-	-0.42			
第4グループ	75	42	100	92	77	43	6	360	4.0	2.5	4.0	5.8	4.3	4.2	4.0	-	-0.04	-0.23	-	-0.27			
理学	42	17	35	38	29	12	2	133	3.8	2.4	4.0	5.6	4.2	3.8	3.8	-	-0.36	0.02	-	-0.34			
工学	77	45	108	94	58	28	0	333	3.5	2.3	3.6	5.1	3.8	3.6	3.5	-	-0.17	-0.11	-	-0.28			
農学	68	22	105	119	117	45	6	414	4.4	3.0	4.5	5.9	4.2	4.2	4.4	-	-0.02	0.18	-	0.16			
保健	30	7	21	27	14	5	0	74	3.7	2.6	3.9	5.1	4.3	4.3	3.7	-	-0.08	-0.56	-	-0.64			
産学官連携活動あり(過去3年間)	28	12	54	61	53	21	2	203	4.2	2.9	4.3	5.8	4.4	4.2	4.2	-	-0.14	0.01	-	-0.13			
なし	43	8	36	41	42	13	2	142	4.3	2.9	4.4	5.9	4.0	4.0	4.3	-	0.07	0.27	-	0.34			
大学・公的研究機関等の 知財活用(企業等)	436	189	531	607	502	204	33	2,066	4.1	2.7	4.2	5.7	4.3	4.2	4.1	-	-0.11	-0.08	-	-0.18			
なし・分からない	43	8	36	41	42	13	2	142	4.3	2.9	4.4	5.9	4.0	4.0	4.3	-	0.07	0.27	-	0.34			
全回答者(属性無回答を含む)	436	189	531	607	502	204	33	2,066	4.1	2.7	4.2	5.7	4.3	4.2	4.1	-	-0.11	-0.08	-	-0.18			

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(利用しにくい)~6(利用しやすい))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものの。指数の範囲は0.0ポイント(利用しにくい)~10.0ポイント(利用しやすい)となる。

Q207. (意見の変更理由)公的研究機関が保有する最先端の大型共用研究施設・設備の利用のしやすさの程度(利用に際しての手续、サポート体制、利用料金等)はどうか。

	2017	2018	差	
1	1	3	2	最近,若い研究者は,比較的,大型の共用利用施設を使っていることがあり,それを考えると利用しやすくなっているのでは,と感じている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
2	2	4	2	料金は高いが大学のオープンファンシリティへのアクセス・予約・測定補助はうまくできている。ただ初回時講習が高すぎる。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
3	1	3	2	前回と比べて,研究機関(主に大学)側も政府も双方が努力した結果,整備されてきたと思う。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
4	3	5	2	利用しやすくなった。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
5	3	5	2	共用機器センターが新たにでき,ネットで他学部の機器も共通に予約できるようになった(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
6	2	4	2	昨年,〇〇〇研究所【大学共同利用機関法人名】を訪問して該当事項について丁寧な説明を受けたから。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
7	2	4	2	最近,公的機関の分析設備を利用して意識が変わった。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
8	2	4	2	公的研究機関のミッションとして産学連携やオープンイノベの基盤(風土)が整いつつある。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
9	2	3	1	共用による運用を可能とする制度が徐々に整備されつつある(大学,部長・教授等クラス,男性)
10	3	4	1	リーズナブルな料金で提供しているところがある。(大学,部長・教授等クラス,男性)
11	4	5	1	共同利用が進みつつある(大学,部長・教授等クラス,男性)
12	4	5	1	利用手続き等は確立している。しかし,維持費の増加による赤字の解消のため,利用料金の上昇圧力が増している。(大学,第2G,理学,その他,男性)
13	2	3	1	料金等は未だ検討の余地があると思われるが,徐々に共用施設は開かれていっているように思われる。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
14	2	3	1	〇〇〇〇センター【公的研究機関名】との連携が進み,かなり便利になった。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
15	2	3	1	技術支援をする人的サポート体制を改善(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
16	1	2	1	機関も担当者も,面倒と思わずに積極的に協力してくれるようになってきていると思う。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
17	3	4	1	創薬関係事業で支援に関する拠点が利用可能なため(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
18	1	2	1	ここ数年私の大学では,医学部図書館を通じてオンラインで読める研究論文雑誌の数が大幅に増えました。この要素はその組織の人間の研究能力に大きく作用しています。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
19	2	3	1	改善されたというよりは,認識の見直し(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
20	4	5	1	〇〇〇【公的研究機関名】と連携Labを持ったことで身近になった。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
21	2	3	1	認識できるレベルは,活用は,リーズナブルと思うが,もう少し簡略化,低コスト化は,考えてもよいのではないかと思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
22	2	3	1	少しずつ改善されているように思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
23	2	3	1	公的機関の利便性に関しては,改善の傾向が見られる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
24	1	1	0	地域が偏在している。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
25	2	2	0	機関・施設間の壁は依然として残っている。改善の余地が大きいと感じる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
26	4	4	0	ただし,料金設定に関する共通の基準がないことで戸惑うことも多い。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
27	5	5	0	利用料金は民間にくらべるとはるかに安い(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
28	3	3	0	協力(公開)できる人的,財政的余裕がない。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
29	2	2	0	個人的な共同研究関係にでもないと思えないのが実情。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
30	2	2	0	国の研究機関が優先であり,民間は利用しにくい(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
31	2	2	0	価格が高い(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
32	4	3	-1	老朽化陳腐化に対応できていない(大学,社長・学長等クラス,男性)
33	4	3	-1	予算の削減が進み,年ごとに悪化していると感じる。(大学,社長・学長等クラス,男性)
34	4	3	-1	研究設備の使い勝手は落ちている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
35	4	3	-1	利用するまでの敷居が高いように感じて,利用していない研究者も多いように思われる。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
36	3	2	-1	比較的利用しやすいと思うが,例えば,私が利用する〇〇【公的研究機関名】や〇大核物理研究センターの加速器予算は,年々絞られており,ビームタイムが減られ,せっかく世界最先端なのに有効に活用されていない。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
37	5	4	-1	共同利用施設の予算も最近厳しくなっているようで,数年前に比べると利用しづらくなってきている。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
38	2	1	-1	公開性がない(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
39	2	1	-1	サポート体制がない(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)

40	3	2	-1	利用手続き等は良くなってきているが、それらの組織も予算不足になっており、外部利用者のサポートが十分出来なくなっているようだ。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
41	2	1	-1	大型共用施設の利用も、大型プロジェクトを動かしている研究者や費用を支払える研究者は優遇されており、自由な発想に基づく開拓的・挑戦的な利用は困難になっている。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
42	3	2	-1	利用を支援する人的なサポートがもっとあるべきだろう(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
43	4	3	-1	大型機械の導入ができていないので設備が老朽化している。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
44	2	1	-1	従来型のスパコンは深層学習に向かず、高度な並列計算能力を提供する公的施設は現時点で存在しない。あつたとしても混雑が予想される。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
45	5	4	-1	工学系ではそのような設備が大学には少ない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
46	4	3	-1	文科省の財政支援が終わり優秀なオペレーターを大学が雇えない(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
47	3	2	-1	〇〇〇〇【公的研究機関名】の有線通信ネットワークテストベッド〇〇〇〇では、設備更新が遅れ利用価値が減少してきている。5Gの無線ネットワークテストベッドは守秘が厳しく参入のカベは厚い。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
48	5	4	-1	大型施設となると、利用する側にも知見が求められてくる。相談から載って戴けると、利用し易くなると思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
49	5	4	-1	経験として地域での技術支援の対応は良い。事務局の医療・環境・ITについての最前線に対するリテラシーが低い。事務局ももっと社外にでて勉強すべき。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
50	4	2	-2	他大学、公設試験場を含めてテクニシャン等人的サポート体制が未成熟であることを実感している。(大学,社長・学長等クラス,男性)
51	3	1	-2	手続きが煩雑であるだけでなく、利用料金も高いように思われる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
52	5	3	-2	共通機器の老朽化は進んでいる。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
53	4	2	-2	大型計算機等が使えなくなってきました。また、利用のための料金も上がってきました。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
54	5	3	-2	ナノハブなど、利用者の観点に立っていない部分も多い。例：〇大〇〇〇〇で5年期限切れのレジストを新しくしてもらおう依頼したら拒否されたり、ひどい例もある。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
55	4	2	-2	昨今の組織管理厳格化により、組織運営や施設運用の上で業務時間の制限がかかっている。そのため、公的研究機関の共用設備では、時間のかかる研究やリスクの伴う研究ができない。また、専門外の管理者が管理をすることで装置の性能を引き出せない事例をよく聞く。装置は研究者個人に紐付けされなければ、十分な効果は得られない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
56	5	3	-2	ある大学で共有設備のホームページがあるが、実際の申し込みがあるとは想定していない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
57	5	3	-2	受託業務を簡便にして欲しい(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
58	5	2	-3	年々高くなるので使いにくくなっている。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)

Q208. 公的研究資金を用いた研究成果や研究データを公開・共有するための取組は十分だと思いますか。

回答者グループ	分らない	2018年度調査						各年の指数					指数の変化									
		6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	116	153	414	572	423	203	35	1,800	4.2	2.9	4.3	5.8	4.4	4.3	4.2	-	-0.06	-0.09	-	-	-0.15	
大学等	97	129	354	479	350	168	30	1,510	4.2	2.8	4.3	5.8	4.4	4.3	4.2	-	-0.04	-0.11	-	-	-0.15	
公的研究機関	19	24	60	93	73	35	5	290	4.3	3.0	4.4	5.9	4.5	4.3	4.3	-	-0.14	0.00	-	-	-0.13	
イノベーション俯瞰グループ	39	29	160	171	138	44	5	547	4.1	2.8	4.2	5.6	4.1	4.1	4.1	-	-0.03	-0.03	-	-	-0.06	
大企業	12	3	57	56	45	14	0	175	4.1	2.9	4.2	5.6	4.1	4.1	4.1	-	0.01	0.04	-	-	0.05	
中小企業・大学発ベンチャー	12	13	37	40	26	8	1	125	3.7	2.5	3.9	5.2	3.7	3.5	3.7	-	-0.22	0.18	-	-	-0.04	
中小企業	8	5	20	21	12	6	1	65	3.9	2.6	3.9	5.4	4.0	3.8	3.9	-	-0.16	0.10	-	-	-0.06	
大学発ベンチャー	4	8	17	19	14	2	0	60	3.5	2.4	3.8	5.1	3.5	3.3	3.5	-	-0.25	0.21	-	-	-0.04	
橋渡し等	15	13	66	75	67	22	4	247	4.3	2.9	4.3	5.8	4.4	4.4	4.3	-	0.04	-0.19	-	-	-0.16	
男性	138	164	520	664	513	220	37	2,118	4.2	2.8	4.3	5.8	4.3	4.3	4.2	-	-0.05	-0.06	-	-	-0.11	
女性	17	18	54	79	48	27	3	229	4.2	2.9	4.2	5.7	4.5	4.4	4.2	-	-0.12	-0.18	-	-	-0.29	
社長・役員・学長等クラス	25	28	109	146	96	26	3	408	4.0	2.8	4.1	5.4	3.9	4.0	4.0	-	0.06	-0.04	-	-	0.01	
部長・教授クラス	58	62	255	308	213	91	8	937	4.1	2.8	4.2	5.6	4.2	4.2	4.1	-	-0.01	-0.10	-	-	-0.11	
主任研究員・准教授クラス	49	62	127	185	157	90	20	641	4.5	3.0	4.5	6.1	4.6	4.5	4.5	-	-0.15	-0.02	-	-	-0.18	
研究員・助教クラス	16	28	65	85	85	34	9	306	4.4	2.9	4.5	6.0	4.5	4.4	4.4	-	-0.09	-0.04	-	-	-0.13	
その他	7	2	18	19	10	6	0	55	4.0	2.8	4.0	5.4	4.4	4.4	4.0	-	0.02	-0.42	-	-	-0.40	
任用形態	45	58	182	251	178	75	9	753	4.2	2.9	4.2	5.7	4.2	4.3	4.2	-	-0.06	-0.12	-	-	-0.06	
任期なし	110	124	392	492	383	172	31	1,594	4.2	2.8	4.3	5.8	4.4	4.3	4.2	-	0.11	-0.05	-	-	-0.16	
業務内容別	2	5	31	51	30	7	0	124	4.0	3.1	4.2	5.3	3.8	4.0	4.0	-	0.23	0.02	-	-	0.25	
学長・機関長等	16	14	34	60	28	10	0	146	3.8	2.8	4.0	5.1	4.0	4.0	3.8	-	0.00	-0.18	-	-	-0.18	
マネジメント実務	89	125	315	420	330	166	35	1,391	4.3	2.8	4.3	5.9	4.5	4.4	4.3	-	-0.10	-0.09	-	-	-0.19	
現場研究者	9	9	34	41	35	20	0	139	4.3	2.9	4.4	6.0	4.4	4.4	4.3	-	0.01	-0.09	-	-	-0.09	
大規模Pの研究責任者	66	102	251	325	250	123	23	1,074	4.2	2.8	4.3	5.9	4.4	4.3	4.2	-	-0.08	-0.12	-	-	-0.20	
国立大学等	6	8	26	29	18	6	1	88	3.8	2.6	3.9	5.3	4.0	3.9	3.8	-	-0.07	-0.13	-	-	-0.20	
私立大学	25	19	77	125	82	39	6	348	4.4	3.1	4.4	5.8	4.3	4.4	4.4	-	0.09	-0.06	-	-	0.03	
大学グループ	11	20	43	70	64	37	6	240	4.6	3.2	4.7	6.2	4.8	4.7	4.6	-	-0.03	-0.13	-	-	-0.16	
第1グループ	20	18	84	105	84	45	7	343	4.4	3.0	4.4	6.0	4.6	4.6	4.4	-	0.00	-0.18	-	-	-0.18	
第2グループ	24	45	87	131	73	25	5	366	3.8	2.6	4.0	5.3	4.1	3.8	3.8	-	-0.23	-0.03	-	-	-0.27	
第3グループ	36	42	127	158	116	50	12	505	4.2	2.8	4.2	5.7	4.2	4.2	4.2	-	0.05	-0.07	-	-	-0.02	
第4グループ	12	19	39	51	47	25	5	186	4.4	2.8	4.5	6.1	4.6	4.5	4.4	-	-0.10	-0.16	-	-	-0.26	
理学	29	40	102	115	93	44	12	406	4.2	2.7	4.2	5.9	4.4	4.3	4.2	-	-0.16	-0.09	-	-	-0.25	
工学	10	15	31	54	43	21	1	165	4.3	3.1	4.5	5.9	4.6	4.5	4.3	-	-0.12	-0.15	-	-	-0.28	
農学	22	30	92	127	86	41	12	388	4.3	2.9	4.3	5.8	4.4	4.3	4.3	-	-0.01	-0.08	-	-	-0.09	
保健	25	22	125	141	124	40	5	457	4.2	2.9	4.3	5.7	4.2	4.2	4.2	-	0.00	0.02	-	-	0.02	
産学官連携活動あり(過去3年間)	14	7	35	30	14	4	0	90	3.4	2.4	3.5	4.8	3.8	3.7	3.4	-	-0.16	-0.25	-	-	-0.41	
なし	14	13	62	70	54	18	0	217	4.0	2.8	4.1	5.5	4.0	4.0	4.0	-	0.02	0.00	-	-	0.02	
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	20	10	57	46	41	9	2	165	3.9	2.6	3.9	5.4	4.0	3.8	3.9	-	-0.22	0.10	-	-	-0.12	
なし・分からない	155	182	574	743	561	247	40	2,347	4.2	2.8	4.3	5.8	4.3	4.3	4.2	-	-0.05	-0.08	-	-	-0.13	
全回答者(属性無回答を含む)																						

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したも。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q208. (意見の変更理由)公的研究資金を用いた研究成果や研究データを公開・共有するための取組は十分だと思えますか。

2017	2018	差		
1	2	5	3	日本の税金で実施した科研費での研究成果を英語で世界に公表することの意味がどれほどあるか検討すべき。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	2	5	3	最近、研究データの公表が進んでいるため、かなりの情報がインターネットで得られると思います。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
3	2	4	2	以前より良くなってきていると感じている(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
4	2	4	2	大学内にリポジトリ登録の部署が出来た(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
5	2	4	2	科研費の申請を中心にresearchmap等の活用がはじまり、結果として、研究成果の共有が進んでいるようには思う。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
6	3	5	2	文科省の事業に共用促進化に採択され、かなり改善した。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
7	2	4	2	情報・データの社会的共有・公開を目的とした研究プロジェクトが重視されている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
8	3	4	1	データ共有のプラットフォームが整備されている(大学,部長・教授等クラス,男性)
9	2	3	1	論文のオープンアクセス化などの動きが少しずつ進んできている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
10	1	2	1	KAKENデータベース等の活用は充実しつつある。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
11	4	5	1	広報活動が活発になってきている。但し、情報の分かり易い提供になる様に工夫する余地は大きい。(大学,第2G,理学,その他,男性)
12	2	3	1	科研費dbの外部連携(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
13	2	3	1	公的データベースの整備(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
14	2	3	1	だいぶ整ってきていると思われ(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
15	2	3	1	Research Mapの活用(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
16	2	3	1	TCGA, ICGCなどがゲノム・パブリックデータを活用している(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
17	5	6	1	他の先進国と比べ、この点に巨額の予算を配置する必要はない。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
18	2	3	1	科研費等でオープンアクセス化を奨励されている。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
19	3	4	1	謝辞欄に記載する内容の義務化などが定着されつつあるため(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
20	2	3	1	日本の科学技術研究におけるオープンアクセス化は欧米に比べると不十分であるものの、科研費については「科学研究費助成事業データベース」の研究成果の公開が徐々に進んでいると感じられる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
21	3	4	1	インセンティブ等については、まだ十分ではない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
22	2	3	1	国内へはもっと共有を進め、かつ、中国へのsecurityをあげるとよい。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
23	4	5	1	少しずつではあるが、オープンアクセスが増えてきた(大学,第4G,主任研究員・准教授クラス,女性)
24	2	3	1	オープンアクセス化は進みつつある印象がある(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
25	5	6	1	NEDOが主体的に研究成果のビデオを作って公開していただける。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
26	1	2	1	論文のオープンアクセス化の案内、科研費データベースの改善などの取り組みが増加していると判断された。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
27	2	3	1	研究者成果のみならず研究者自体のプロフィールをデータベース化して公開すべき。その点で本年度より科研費の申請とresearchmapをリンクさせた点は一歩前進。多くの情報が更新された。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
28	3	4	1	オープンアクセスがすこし浸透してきており助かります。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
29	3	4	1	SNSや小冊子で、公的資金を用いた研究成果や研究データが見れるようになった。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
30	3	4	1	少しずつですが整備が進んできています。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
31	3	4	1	発信の機会は増えている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
32	2	3	1	オープンアクセスの取り組みが進みつつある。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
33	2	3	1	論文のオープンアクセス化やResearchmapの科研費申請との連携など、近年目に見えた変化があった。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
34	1	2	1	最近、学会会員数が減っていることを調査してください。応用物理学会、日本金属学会、日本希土類学会など。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
35	2	3	1	Web検索でヒットすることが増えたように思う。機関の研究者紹介や主要成果など。インセンティブは？(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
36	1	2	1	不十分です。改善の余地はあるが、全く見れないわけでもないの、レベルを見直しました。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
37	2	3	1	企業がまだ、公開を拒む(省略化)する傾向があるが、改善されてきている。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
38	3	4	1	研究成果の公開は、いろんなやり方があると思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
39	2	3	1	データを共有するプラットフォームの整備が多くの分野で進みつつあるから。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
40	2	3	1	機関毎に温度差がある(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)

41	1	2	1	取り組みを行う事で状況が分かってきました。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
42	2	3	1	共有は進んでいるものの,改善の余地はあると考える。(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
43	2	3	1	プラットフォーム構築は進んできていると聞く。(民間企業等,その他,男性)
44	3	3	0	JST支援などが厳しさを増している。(大学,その他,女性)
45	2	2	0	KAKENデータベース等の活用は充実しつつある。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
46	3	3	0	外国への情報流出が重大問題。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
47	2	2	0	取り組みはあるが,十分ではない(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
48	1	1	0	早く電子論文を自由に見れるようにしてほしい。研究者を選定して包括的な研究機関(そこが電子ジャーナルと契約)を兼任させるとか。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
49	1	1	0	米国に比べてデータ共有システムは未熟。形が先行するので,不要なメタデータを大量に打ち込む必要がある。グローバルのデータベースとの連動などを考えないと,日本の研究者のみ,多数のメタデータを準備する必要が出て,研究時間の浪費となる。いっぽうで,データを出さない研究者もいるのも課題と考えられる。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
50	4	4	0	公開する(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
51	2	2	0	論文のオープンアクセス化には金がかかり,予算の確保が難しい。また,オープンアクセス化を悪用したハゲタカジャーナルが跳梁跋扈し,一部の無能教員がそれを悪用して業績の水増しを行っている。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
52	2	2	0	各種の重要なデータベース維持に予算を投入すべき(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
53	2	2	0	公的研究資金であっても,企業が関係する事業が増加し,守秘性が高くなっている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
54	3	3	0	変化は感じない(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
55	3	3	0	取り組み内容がよく分からない(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
56	2	2	0	データベースへのアクセスや検索機能の向上が必要と思います(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
57	3	3	0	学会でのプレゼンなども活用すべきではないか? NIHなどは学会のExpoでブースを設けるなど,積極的に公開・共有する努力を行っている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
58	5	5	0	実際にそうであることを知った。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
59	1	1	0	共有とは,アップすることとは異なると感じられる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
60	1	1	0	有識者以外の市民への公開への取り組みがまだ薄い感じがする。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
61	3	3	0	生物関連のデータベースが不十分だと思います。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,女性)
62	2	2	0	自動車関連では,公開・共有に留まることが多く,実用的に活用する取組みが必要に感じる(民間企業等,研究員・助教クラス,男性)
63	5	4	-1	世界水準から考えると更なる展開が必要と考える。(大学,社長・学長等クラス,男性)
64	3	2	-1	研究データの公開は手間がかかる作業であるが,それに合ったインセンティブがない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
65	4	3	-1	研究支援者が不足し,データを準備登録するための研究者負担が増えている(大学,部長・教授等クラス,男性)
66	4	3	-1	形式的になりつつあることが懸念。(大学,部長・教授等クラス,男性)
67	2	1	-1	研究者へのインセンティブがあったものは開示してPRに努力してください。面倒くさがって協力的でないことが一般的です。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
68	5	4	-1	データ公開・共有する研究者へのインセンティブの実効的付与はあまり大きくない。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
69	3	2	-1	研究資金に,論文公開化を義務化するなどの努力が不足している。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
70	4	3	-1	昨年はオープンアクセス方針策定の広がりや「オープンサイエンス基盤研究センター」(〇〇〇〇〇研究所【大学共同利用機関法人名】)新設などの動きがあったが,未だ研究データ公開・共有までには至っていないため。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
71	3	2	-1	プラットフォームはResearch Gateなど公的でないほうが進んでおり,オープンアクセス化のための支援もない(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
72	3	2	-1	海外と比較するとあまりにも不十分(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
73	3	2	-1	オープンアクセス化に予算が必要であるが十分とは言えない(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
74	2	1	-1	オープンアクセス化するための資金を実験用資金とは別途用意してくれないと高額なオープンアクセス費用を払いにくい。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
75	5	4	-1	世界水準から考えると更なる展開が必要と考える。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
76	4	3	-1	最近のバイオ系のオープンアクセスが主流になり1件20万円以上の掲載料がかかり,多くの教員は負担の大きさを痛感している。何らかの支援が必要である。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
77	3	2	-1	研究データを公開・共有する研究者へのインセンティブ付与は無いと思います。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
78	4	3	-1	インパクトファクターの高い雑誌に論文を掲載させるために,かなりコストがかかっている。研究成果の評価基準をインパクトファクターに頼りすぎないようにする必要がある。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
79	2	1	-1	研究者へのインセンティブ付与が不十分(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
80	2	1	-1	所属機関で購読していない重要論文誌も多く,そういった経験から論文のオープンアクセス化を積極的に推進している。ただ,オープンアクセス論文の公開に関して,インセンティブ付与などの促進する試みがなければ,オープンアクセス論文はなかなか増えないのではないかと,とも思う。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
81	3	2	-1	オープンアクセスの取組が遅れている。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)

82	3	2	-1	オープンデータの掛け声は大きいですが、それを自由自在に使いこなすためのAPIやソフトウェアが不十分である。ICT技術を生かしたそうした取り組みに対する競争的研究費に対する理解がどの分野でも後回しになっていて、提案してもなかなか通りにくい。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
83	2	1	-1	オープンアクセスジャーナルに投稿するためには数十万円の投稿料を支払う必要があるが、研究資金が十分ないためそれも叶わない。資金のない研究者は、情報へのアクセスが制限されるだけではなく、情報発信も制限されるようになってきた。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
84	2	1	-1	論文をオープンアクセスにするには、多額の資金が必要となるため。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
85	4	3	-1	年々ゆとり(いろいろな意味で)がなくなるとおもわれる。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
86	4	3	-1	オープンアクセスの必須化が未だ行われていない点は、十分とは言えない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
87	5	4	-1	データの統合化・ユーザー目線での検索しやすさについては進んでいない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
88	2	1	-1	要求に対して予算、補助がない状態である。すべて現場に丸投げ。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
89	2	1	-1	オープンデータ、オープンサイエンスの取り組みは組織ごとに異なり、意識を共有する状態にこぎつけるまでに時間がかかりすぎる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
90	4	3	-1	論文等の公開はかなり進んでいるがインセンティブの付与などは十分とは言えない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
91	2	1	-1	データの共有化が進んでおらず、異なる研究所間で、同じ研究を繰り返している。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
92	2	1	-1	研究データ(個人情報を含まない)の利用に各種の規制があり、研究者間の共同研究であっても困難である。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
93	2	1	-1	研究データを公開・共有するためのトータルなプラットフォーム構築が遅れていると考える(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
94	5	4	-1	科研費の研究成果に関していまい詳細が見えないのが不満です(例えば図表付きの成果にアクセスしたい)。もちろんあまりに過剰な成果物を求めてしまうのも本末転倒ではありますが…(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
95	3	2	-1	公開はしているが、共有は不十分。勝手に見る、というだけでは共有できない。同じような研究に繰り返し予算が使われている現状を見ると、共有の仕組みに問題があると思われる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
96	3	2	-1	研究者にとってモチベーションとなるようなインセンティブが働いていない。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
97	3	2	-1	完全な集約は無理としても、その方向で進めていただきたい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
98	3	2	-1	METIのファンディング機関であるNEDOは公的研究資金からの論文投稿費の支出を認めていない。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,女性)
99	4	3	-1	中国を敵対視する動きが強まり、中国人大学院生に対して、情報を秘匿する動きが見られる。(民間企業等,その他,男性)
100	4	3	-1	研究成果の共有が遅れている。(民間企業等,その他,男性)
101	3	1	-2	学会や研究者レベルで、オープンアクセス化に取り組んできた事例は把握しているが、「我が国」が取り組んだ事例を知らないため。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
102	5	3	-2	オープンアクセス誌の価格高騰が著しい。科研費等をここにすぎ込むと、実際の研究に使用する部分が減ってしまうので、この部分への補助が必要になる。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
103	3	1	-2	退官に伴い、研究で得られたデータを引き継げず、かなりの部分が失われるケースが実際に身近で見られたため。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)
104	3	1	-2	研究データを公開・共有する研究者へのインセンティブ付与等はない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
105	5	3	-2	前は、研究データの公開・共有の重要性を深く認識していなかったため、良い点数を付けていたが、データ駆動型の研究をはじめ、データ公開・共有へのインセンティブのなさを実感した。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
106	5	3	-2	公開・共有を進めているが、フィードバックが軽視されている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
107	4	2	-2	サーバの設置等、セキュリティインシデント対策で過剰に制約をしているように見える(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
108	6	4	-2	英語への対応、英語しか話さない研究者への対応が不十分(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
109	3	1	-2	今や論文の電子化が進んだので、欧米の出版社が支配する論文誌から独立した学会を中心として公的プラットフォームを構築すべき。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
110	4	2	-2	海外研究発表などの機会が不足(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
111	4	2	-2	データベースの公開が単に論文集になっており広まらない。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
112	5	2	-3	データの公開はちゃんと行われているが、補助金終了後の維持が難しいようだ。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)

Q209. 科学技術に関する政府予算は、日本が現在おかれている科学技術の全ての状況に鑑みて十分だと思いますか。

回答者グループ	2018年度調査											各年の指数					指数の変化				
	分からない	6点尺度回答者数(人)						指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
		1	2	3	4	5	6														
大学・公的研究機関グループ	55	875	623	227	80	41	15	1,861	1.7	0.9	1.8	3.1	2.1	1.9	1.7	-	-0.25	-0.19	-	-0.43	
大学等	43	750	521	187	64	31	11	1,564	1.6	0.9	1.8	3.0	2.0	1.8	1.6	-	-0.25	-0.18	-	-0.43	
公的研究機関	12	125	102	40	16	10	4	297	2.0	1.0	2.1	3.3	2.4	2.2	2.0	-	-0.25	-0.22	-	-0.47	
イノベーション俯瞰グループ	28	189	220	84	36	22	7	558	2.2	1.2	2.3	3.5	2.7	2.4	2.2	-	-0.31	-0.15	-	-0.46	
大企業	8	48	82	28	12	8	1	179	2.4	1.6	2.5	3.6	2.7	2.6	2.4	-	-0.12	-0.24	-	-0.36	
中小企業・大学発ベンチャー	9	35	55	19	12	3	4	128	2.5	1.5	2.5	3.9	2.8	2.5	2.5	-	-0.33	0.01	-	-0.32	
中小企業	6	19	28	12	6	0	2	67	2.4	1.5	2.5	3.8	3.1	2.7	2.4	-	-0.39	-0.28	-	-0.67	
大学発ベンチャー	3	16	27	7	6	3	2	61	2.7	1.6	2.6	4.0	2.6	2.4	2.7	-	-0.27	0.29	-	0.03	
橋渡し等	11	106	83	37	12	11	2	251	2.0	1.0	2.1	3.3	2.6	2.1	2.0	-	-0.45	-0.15	-	-0.60	
男性	72	952	774	273	104	60	21	2,184	1.8	1.0	2.0	3.1	2.2	2.0	1.8	-	-0.27	-0.17	-	-0.44	
女性	11	112	69	38	12	3	1	235	1.7	0.9	1.8	3.2	2.2	2.0	1.7	-	-0.22	-0.28	-	-0.50	
社長・役員、学長等クラス	18	174	163	45	20	9	4	415	1.8	1.0	2.0	3.1	2.2	2.0	1.8	-	-0.29	-0.18	-	-0.47	
部長、教授クラス	18	434	365	115	38	19	6	977	1.7	0.9	1.9	3.0	2.1	1.8	1.7	-	-0.28	-0.17	-	-0.45	
主任研究員、准教授クラス	27	294	207	94	35	23	10	663	1.9	0.9	2.0	3.3	2.3	2.1	1.9	-	-0.20	-0.12	-	-0.33	
研究員、助教クラス	16	141	92	40	20	11	2	306	1.9	0.9	1.9	3.3	2.4	2.2	1.9	-	-0.23	-0.29	-	-0.52	
その他	4	21	16	17	3	1	0	58	2.2	1.2	2.5	4.0	3.0	2.3	2.2	-	-0.62	-0.17	-	-0.79	
任用あり	38	318	276	101	43	16	6	760	1.8	1.0	2.0	3.2	2.3	2.1	1.8	-	-0.17	-0.26	-	-0.43	
任用なし	45	746	567	210	73	47	16	1,659	1.8	0.9	1.9	3.1	2.2	1.9	1.8	-	-0.31	-0.14	-	-0.45	
業務内容別	1	61	48	11	5	0	0	125	1.4	0.9	1.7	2.8	1.7	1.6	1.4	-	-0.16	-0.22	-	-0.38	
学長・機関長等	5	61	68	23	3	2	0	157	1.7	1.1	2.1	3.1	2.0	1.8	1.7	-	-0.19	-0.14	-	-0.33	
マネジメント実務	47	687	457	174	66	35	14	1,433	1.7	0.9	1.8	3.1	2.1	1.9	1.7	-	-0.27	-0.19	-	-0.45	
現場研究者	2	66	50	19	6	4	1	146	1.7	0.9	1.9	3.1	2.1	1.9	1.7	-	-0.18	-0.19	-	-0.37	
大規模Pの研究責任者	24	569	349	124	43	22	9	1,116	1.5	0.8	1.6	2.9	2.0	1.7	1.5	-	-0.26	-0.18	-	-0.45	
国立大学等	4	33	35	16	3	3	0	90	2.0	1.1	2.2	3.3	2.2	2.1	2.0	-	-0.11	-0.13	-	-0.24	
私立大学	15	148	137	47	18	6	2	358	1.8	1.0	2.0	3.1	2.2	2.0	1.8	-	-0.24	-0.18	-	-0.42	
大学グループ	5	131	72	22	13	8	0	246	1.5	0.8	1.6	2.9	2.2	1.9	1.5	-	-0.35	-0.34	-	-0.69	
第1グループ	10	173	117	42	10	8	3	353	1.6	0.9	1.7	3.0	1.9	1.7	1.6	-	-0.18	-0.15	-	-0.33	
第2グループ	10	191	108	55	14	8	4	380	1.6	0.8	1.7	3.1	2.0	1.8	1.6	-	-0.25	-0.11	-	-0.36	
第3グループ	16	230	199	62	23	7	4	525	1.7	1.0	1.9	3.0	2.0	1.8	1.7	-	-0.20	-0.16	-	-0.37	
第4グループ	2	110	47	22	6	10	1	196	1.6	0.7	1.5	3.0	2.0	1.8	1.6	-	-0.24	-0.20	-	-0.44	
大学部局分野	16	201	134	51	18	10	5	419	1.7	0.9	1.8	3.1	2.1	1.9	1.7	-	-0.28	-0.16	-	-0.44	
工学	6	90	48	16	11	2	2	169	1.6	0.8	1.6	2.9	1.8	1.6	1.6	-	-0.27	-0.01	-	-0.28	
農学	14	179	142	53	14	5	3	396	1.6	0.9	1.9	3.1	2.1	1.9	1.6	-	-0.20	-0.27	-	-0.47	
保健	16	158	180	73	29	22	4	466	2.2	1.2	2.4	3.6	2.7	2.3	2.2	-	-0.35	-0.11	-	-0.47	
産学官連携活動あり(過去3年間)	12	31	40	11	7	0	3	92	2.1	1.2	2.3	3.3	2.6	2.5	2.1	-	-0.10	-0.34	-	-0.44	
なし	10	67	94	39	13	7	1	221	2.2	1.4	2.4	3.5	2.7	2.6	2.2	-	-0.08	-0.40	-	-0.49	
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	17	47	72	22	15	7	5	168	2.5	1.5	2.5	3.9	2.9	2.4	2.5	-	-0.48	0.12	-	-0.36	
なし・分からない	83	1,064	843	311	116	63	22	2,419	1.8	0.9	2.0	3.1	2.2	2.0	1.8	-	-0.26	-0.18	-	-0.44	
全回答者(属性無回答を含む)																					

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したも。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q209. (意見の変更理由)科学技術に関する政府予算は、日本が現在おかれている科学技術の全ての状況に鑑みて十分だと思いますか。

2017	2018	差	
1	2	4	2 科学技術に対する予算の総額は、それほど少なくないように思うようになりました。ただし、そのうち、間接経費が不足しています。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	1	3	2 GDP等に対する額面だけを見れば現在の日本の状況下では十分と言えると思うため。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
3	1	2	1 総額としては増えている分野があることはありがたいと思っています。(大学,部長・教授等クラス,男性)
4	1	2	1 他国との比較の議論が溢れているが、量的には決して不十分では無く、配分の仕方によって課題が集中投資が叫ばれ、基盤強化を行ってきたことが問われている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
5	4	5	1 配分の仕方のみなおしが必要。その判断をする人、機関の見直しが必要(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
6	1	2	1 統計的な国際比較などを見ると、日本の科学技術への支出は特に減ってはいないように見えます。実情は、運営費交付金が減少し、その分が競争的資金によって補完されているようです。このため、競争的資金が得られない研究室は研究を行うことがほぼムリとなっています。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
7	1	2	1 研究費が占める割合は比較的高いと思われるが、予算の配分が十分ではないと思われる。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
8	2	3	1 AMEDなどの拡充により状況は改善していると思う(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
9	1	2	1 総額は増えているが、必要なところまでいきわたっているかといえば疑問(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
10	1	2	1 総額よりも配分比率を是正してほしい。申請書,ヒアリング,報告書等の手間により研究時間が減っている。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
11	1	2	1 他の先進国と比べるとまだまだ少ない。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
12	1	2	1 額は増えているが、研究費自体の目的指向が強く、科学技術の底上げにはかえって悪影響を及ぼしている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
13	2	3	1 多様な施策が打たれている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
14	1	2	1 総額自体が問題ではないと考えたため(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
15	1	2	1 長期的に見れば増加/横ばいの傾向だが、GDP比率が他国に比べ低すぎるのでは。中国製造2050は、危機感の現れ。日本は？(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
16	1	2	1 SIP,NEDOへの重点的な投資が増え、やや改善の動きがみられる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
17	2	3	1 2年前から予算アップされており評価をアップするが、技術立国へ再挑戦するには十分とは言えないと思う。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
18	1	2	1 基礎研究にまわる資金は少ないが、少し改善している。(民間企業等,その他,男性)
19	1	1	0 2018年度の研究費総額に占める政府負担3.8兆円は他のOECD諸国に比べると低い水準であり、改善されるべきである。(大学,社長・学長等クラス,男性)
20	1	1	0 地方国立大学の予算が減り続けている。(大学,社長・学長等クラス,男性)
21	1	1	0 年々ひどくなっている(大学,部長・教授等クラス,男性)
22	1	1	0 中国その他の国に比べると伸びが小さくなっている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
23	2	2	0 現在の部署に変わり、分かるようになった。(大学,部長・教授等クラス,男性)
24	1	1	0 行き過ぎた選択と集中があり、基盤の研究経費はさらに少ないため。(大学,第1G,研究員・助教クラス,男性)
25	1	1	0 たとえ5兆円でも、中国には圧倒的に劣る。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
26	1	1	0 諸外国と比較して極めて少ない(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
27	2	2	0 金額がすべてではないが、やはり少ないと思う。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
28	2	2	0 社会保障費など財政を振り分けなければならない状況を考えますと、不十分ですが、贅沢は言ってはいけないと考えております。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
29	1	1	0 高等教育は我が国と世界の未来に不可欠。世界の多くの国が研究費を増額している中で、我が国は削減が続いている。大学教員と雖も、研究の土俵に上がることができない人数が増えている。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
30	1	1	0 重点化の名のもとに配分がなされているが、これでは先の長い研究はほぼできない(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
31	1	1	0 競争的資金の比重が高まり、基礎研究や基盤研究が手薄になっている(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
32	3	3	0 基盤的経費の減少分を一見科研費の増額が補完しても、その有意な割合が科学研究以外(製品開発等)に使われているのであれば実質減であり、また雇用資金として使いづらく不安定の人材確保に難を来している、という指摘は正にその通りであると思う(2-11で補足)。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
33	1	1	0 関係経費の総額よりも、経常的経費と競争的経費の割合が問題である。競争は必要だが、過度になると弊害の方が深刻になる。(大学,第2G,理学,その他,男性)
34	1	1	0 基礎的研究資金が全く不足している(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
35	1	1	0 全く思いません。一部にしか予算が流れずの状況は全く変わりません。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
36	1	1	0 少なすぎる。科学技術立国を目指すなら、もっと予算を拡充し、薄く広く配布すべき。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)

37	2	2	0	若手研究者の人材育成のために、基礎研究費の拡充を希望します。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
38	1	1	0	基礎研究にも予算を配分して欲しい。日本の研究力の低下が心配である。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
39	1	1	0	全く不十分です。一見科研費は伸びているかの錯覚を持ちますが、大学自体の資金不足の前では心もとない現状です。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
40	1	1	0	額の大小よりも、霞が関主導で計画されること、審議官・担当者が短期で交代してしまう、が問題と感じる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
41	1	1	0	地方大学には予算がない(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
42	1	1	0	全体としてはある程度十分な部分もあるが、そのほとんどすべてが競争的資金であるため、地味で時間のかかる(世間受けの悪い)基礎研究への注力が不十分な状況が続いている。基盤的な研究経費をある程度各研究者に配分できるようにしてほしい。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
43	1	1	0	大学や個々の研究者が自由な発想で研究に取り組むことができる資金が枯渇している。科研費がそれを担うのであろうが、科研費とてある程度予備実験ができており、実行可能性を示すことができないと獲得できない。資金がないと、その準備すらできない。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
44	1	1	0	海外に比べて不十分。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
45	2	2	0	非常に不十分だと思うが、予算を受けるに値しない無能教員が多数存在するのも事実である。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
46	1	1	0	ライフサイエンス分野は驚くほど遅れている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
47	1	1	0	競争的資金は増えているかもしれないが、基盤的資金の減少は大学の研究に大きな負の影響を与えている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
48	1	1	0	非常に不足している。一般会計以外も含めて割合を示すべきである。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
49	6	6	0	もっとあるに越したことはありませんが。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
50	1	1	0	OECD国中、日本の対GDPで研究・教育費はかなり低いと思います。これでは、日本の科学が他国に遅れを取ってしまいます。資源のない日本の資源は研究と教育という知力だと思います(都道府県で言うとかつての愛媛県、現在の秋田県のような戦略)。研究・教育にもっとエネルギーとお金を注いで下さることを望みます。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
51	2	2	0	過度の選択と集中による歪みが生じている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
52	1	1	0	全くもって不十分。若手の研究者への寛容な研究資金配布を検討する必要あり。AMEDは成果を求めすぎなので、別の組織が必要。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
53	1	1	0	科学技術関係費の定義(範囲)を変えてまで、対GDP比を対外的に大きく見せる方針は、あまりに場当たりの。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
54	4	4	0	大型の科学系予算は、大学では理学系ばかりである。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
55	2	2	0	欧米に対する科学技術の将来投資レベルはまだ低いと感じています(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
56	1	1	0	海外だと、軍事予算から、科学技術に使われている場合があります。これも含めて考察するべきだと思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
57	1	1	0	不透明な部分が多すぎる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
58	2	1	-1	益々充足感が薄れている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
59	3	2	-1	科学技術の進展に寄与するような国家的な枠組が他の先進諸国に比して脆弱であるように思われる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
60	2	1	-1	悲劇的な状況になってしまっている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
61	2	1	-1	学部・研究科共通の設備を購入する予算が極めて限られている状況が長く続いている。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
62	3	2	-1	決して充分ではないが、現在の日本の国力の結果と判断せざるを得ない。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
63	2	1	-1	社会保障に回しすぎ。未来への投資が必要。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
64	2	1	-1	充分かもしれないが、特定研究者に集中する配分方法が悪い。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
65	3	2	-1	科学技術先進国の中でも日本の予算は横ばいを続けており、十分とは思われない。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
66	2	1	-1	学術の為の基礎研究が、社会の役に立たない研究扱いされているような印象をうける。なんの役に立つかわからない、そして、社会の役に立たない、そういう研究こそ、国が先導して応援して、予算配分や人材育成をして欲しい。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
67	3	2	-1	国際的に高いレベルでない(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
68	3	2	-1	国際競争力が低下していることを考慮すれば、決して十分とは言えない。国際的な日本のプレゼンスを高めていくためには、予算を増やしていくことも必要ではないかと思う。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
69	3	2	-1	景気が上向いてきたなら、研究資金も増やすのが妥当だと思う。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
70	2	1	-1	諸々削減されている印象があるため(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
71	4	3	-1	科研費ですら一極化の傾向が認められる。広く浅く、さまざまな基礎研究ができるようにとの考えから。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
72	3	2	-1	一部の研究機関では十分かもしれないが、それ以外に関しては全く不十分である。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
73	2	1	-1	全体として、縮小傾向にあるようで、厳しいと考えている。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
74	2	1	-1	ますます悪くなっている(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
75	2	1	-1	研究に要する金額が上昇しているため(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
76	3	2	-1	さらに多様な支援が必要。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)

77	5	4	-1	歯学部への配分が少ないから。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
78	3	2	-1	科学技術予算の配分が短期間での成果を求める課題を重視する傾向にあり,基礎科学,基盤的な科学技術に対する予算が制約を受けているのではないか。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
79	2	1	-1	基礎科学に対する予算はますます厳しくなる一方で,日本の将来に不安を覚える(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
80	3	2	-1	施設の老朽化が進んでいる(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
81	3	2	-1	他国の状況を鑑みて悪化していると思う。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
82	3	2	-1	必要予算が措置されない状況のため。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
83	3	2	-1	総額は確保されているように思つか,目・字の基礎研究部門への予算配分は不十分(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
84	4	3	-1	総額には問題はないかもしれないが,無駄が多いのかもしれない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
85	3	2	-1	他国と比べて,規模の小ささを感じる。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
86	3	2	-1	研究に集中するための人材も予算も足りない。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
87	2	1	-1	将来を予測した資金供給にはなっていない。時期時期での研究予算を付けるキーワードがありきたりです。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
88	3	2	-1	エネルギー分野,IoT分野で偏りあり(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
89	2	1	-1	国家プロジェクトは後半になるに従い,予算が必要になるのに,実際は予算が少なくなる。これでは,国家プロジェクトの成果をあげることに無理がある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
90	2	1	-1	関係予算の配分において,適切な重みづけや集約下といった戦略性かみられない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
91	3	2	-1	国際競争力を期待するという観点からは,不十分。科学立国はどうなったのか?(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
92	2	1	-1	特に大学の基礎的な研究費が不足していると感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
93	5	4	-1	少ないと思います。日本の力が弱っている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
94	5	4	-1	近隣諸外国が科学技術で急速に追いついており,現状の科学技術予算では競争に敗れる可能性が大きくなってきた。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
95	5	4	-1	政府予算は十分だとは思いますがその結果としての産業創生につながっているかは疑問(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
96	2	1	-1	競争的研究資金以外の自由枠資金が必要。関係人材(国立・機関)向け。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
97	4	3	-1	予算配分が一部の大学に偏っているように思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
98	3	2	-1	AIによる製造分野やエネルギー,医療,食料,福祉等戦略的な分野明確なビジョンとともにインパクトある予算・投入をすべき。当然成果に対し責任ある投資が必要と考える。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
99	4	2	-2	基礎的な研究に対する研究費を充実させるべき。競争的資金だけでは,短期的な応用研究に偏る傾向がある。(大学,社長・学長等クラス,男性)
100	4	2	-2	諸外国の実態を知り,相対的な危機感が強まった(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
101	4	2	-2	諸外国に比較して相対的に減少傾向にある。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
102	4	2	-2	定常的な予算が少なくなり,短期間プロジェクトが増えたため,長期的な取り組みが出来ない。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
103	3	1	-2	選択と集中の失敗に関して誰も総括せず,責任も取っていない。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
104	4	2	-2	政府予算は十分とは言えないと考えます。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
105	4	2	-2	大学間の格差が広がりつつある。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
106	4	2	-2	新しい技術領域が増えたこと,SPEEDが求められる事,社会で価値のある科学技術の対象が,商品から,産業システム,社会システムに代わってきており,大規模になっていること(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
107	4	2	-2	もっと増やすべきと思う(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
108	4	2	-2	誤った成果主義が横行しているように感じ,適正な予算分配が行われていないと感じることがしばしば(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
109	4	2	-2	十分な予算が与えられる分野に偏りがある。地味で基盤的な分野に対しても長期継続的に予算が与えられるべき。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
110	4	2	-2	国立大学法人や国研に従事する人員数が多すぎるのが大きな問題だが,一律で交付金を引き下げるのは非常に危険。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
111	5	2	-3	科学研究に充てられる予算が減り,個人の割り当ても減り,学会にすら参加することができない状況にある。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
112	6	1	-5	選択と集中をやめないのであれば回答が変わると思います。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)

Q210. 政府の公募型研究費(競争的研究資金等)にかかわる間接経費は、十分に確保されていると思いますか。

回答者グループ	2018年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分から ない	6点尺度回答者数(人)						指数	第4 分点	中央値	第3 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最 新年		
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	180	360	444	409	264	170	89	1,736	3.7	1.9	3.6	5.6	4.0	3.8	3.7	-	-0.23	-0.10	-	-	-0.33		
大学等	145	319	382	340	211	140	70	1,462	3.6	1.9	3.5	5.4	3.9	3.7	3.6	-	-0.20	-0.14	-	-	-0.34		
公的研究機関	35	41	62	69	53	30	19	274	4.2	2.4	4.2	6.1	4.4	4.1	4.2	-	-0.36	0.13	-	-	-0.23		
イノベーション俯瞰グループ	90	70	182	117	70	42	15	496	3.5	2.2	3.3	5.1	3.8	3.6	3.5	-	-0.15	-0.10	-	-	-0.25		
大企業	46	14	60	42	9	13	3	141	3.4	2.3	3.2	4.6	3.5	3.4	3.4	-	-0.11	-0.01	-	-	-0.12		
中小企業・大学発ベンチャー	25	20	40	24	16	7	5	112	3.4	2.0	3.2	5.0	3.3	3.4	3.4	-	0.11	-0.04	-	-	0.07		
中小企業	21	8	20	12	5	2	52	3.4	2.1	3.2	4.9	3.2	3.5	3.4	-	0.24	-0.04	-	-	0.20			
大学発ベンチャー	4	12	20	12	11	2	3	60	3.3	1.9	3.2	5.2	3.4	3.4	3.3	-	0.02	-0.05	-	-	-0.03		
橋渡し等	19	36	82	51	45	22	7	243	3.6	2.2	3.4	5.5	4.1	3.8	3.6	-	-0.30	-0.19	-	-	-0.49		
男性	233	387	573	474	301	197	91	2,023	3.6	2.0	3.5	5.5	3.9	3.7	3.6	-	-0.20	-0.09	-	-	-0.28		
女性	37	43	53	52	33	15	13	209	3.6	2.0	3.6	5.4	4.2	3.9	3.6	-	-0.36	-0.22	-	-	-0.58		
社長・役員、学長等クラス	51	69	146	102	39	20	6	382	3.0	2.0	3.1	4.5	3.2	3.1	3.0	-	-0.11	-0.11	-	-	-0.22		
部長、教授クラス	63	163	288	225	139	79	38	932	3.6	2.1	3.4	5.3	3.9	3.6	3.6	-	-0.26	-0.05	-	-	-0.30		
主任研究員、准教授クラス	91	127	126	127	115	70	34	599	3.9	2.0	3.9	6.0	4.3	4.2	3.9	-	-0.13	-0.26	-	-	-0.39		
研究員、助教クラス	59	59	52	57	35	39	21	263	4.0	1.9	3.9	6.4	4.3	3.9	4.0	-	-0.33	0.12	-	-	-0.21		
その他	6	12	14	15	6	4	5	56	3.7	1.9	3.6	5.3	3.6	3.7	3.7	-	0.13	-0.01	-	-	0.12		
雇用形態	102	122	204	172	106	61	31	696	3.6	2.1	3.5	5.4	3.9	3.8	3.6	-	-0.13	-0.14	-	-	-0.27		
任期なし	168	308	422	354	228	151	73	1,536	3.6	2.0	3.5	5.5	3.9	3.7	3.6	-	-0.25	-0.08	-	-	-0.32		
業務内容別	2	20	48	42	9	5	0	124	2.9	2.0	3.1	4.3	3.1	2.9	2.9	-	-0.16	-0.03	-	-	-0.19		
学長・機関長等	7	28	55	46	15	9	2	155	3.1	2.0	3.2	4.5	3.2	3.1	3.1	-	-0.08	-0.02	-	-	-0.10		
マネジメント実務	163	284	302	285	219	145	82	1,317	3.8	1.9	3.8	5.9	4.2	4.0	3.8	-	-0.23	-0.14	-	-	-0.37		
現場研究者	8	28	39	36	21	11	5	140	3.5	2.0	3.5	5.2	3.8	3.4	3.5	-	-0.41	0.10	-	-	-0.31		
大規模Pの研究責任者	95	241	272	224	150	107	51	1,045	3.5	1.8	3.4	5.5	3.9	3.7	3.5	-	-0.21	-0.11	-	-	-0.32		
国立大学等	8	13	20	26	13	11	3	86	4.0	2.4	4.0	5.7	4.4	4.2	4.0	-	-0.20	-0.27	-	-	-0.47		
私立大学	42	65	90	90	48	22	16	331	3.5	2.0	3.5	5.1	3.9	3.7	3.5	-	-0.18	-0.22	-	-	-0.40		
大学グループ	21	63	52	40	36	23	16	230	3.6	1.5	3.3	5.8	4.1	3.8	3.6	-	-0.31	-0.25	-	-	-0.56		
第1グループ	33	79	91	73	45	31	11	330	3.3	1.7	3.2	5.2	3.7	3.5	3.3	-	-0.15	-0.20	-	-	-0.35		
第2グループ	38	76	88	85	54	33	16	352	3.6	1.9	3.6	5.5	3.9	3.7	3.6	-	-0.19	-0.14	-	-	-0.33		
第3グループ	45	96	142	120	67	46	25	496	3.6	2.0	3.5	5.3	3.8	3.7	3.6	-	-0.19	-0.06	-	-	-0.25		
第4グループ	23	39	40	36	27	23	10	175	3.8	1.9	3.7	6.0	3.9	3.8	3.8	-	-0.16	0.05	-	-	-0.12		
大学部局分野	47	89	96	78	63	41	21	388	3.7	1.8	3.5	5.7	4.1	3.8	3.7	-	-0.30	-0.13	-	-	-0.43		
工学	20	34	35	36	25	14	11	155	3.8	1.9	3.7	5.8	4.2	3.9	3.8	-	-0.21	-0.17	-	-	-0.38		
農学	38	88	88	80	55	37	24	372	3.7	1.8	3.5	5.7	4.1	4.0	3.7	-	-0.09	-0.37	-	-	-0.45		
保健	62	55	148	102	61	40	14	420	3.6	2.2	3.4	5.3	3.8	3.7	3.6	-	-0.15	-0.03	-	-	-0.18		
産学官連携活動あり(過去3年間)	28	15	34	15	9	2	1	76	2.7	1.9	2.8	4.2	3.3	3.2	2.7	-	-0.12	-0.49	-	-	-0.61		
なし	38	22	77	50	20	18	6	193	3.5	2.2	3.3	4.9	3.6	3.6	3.5	-	-0.05	-0.08	-	-	-0.14		
大学・公的研究機関等の 知財活用(企業等)	48	24	55	30	17	7	4	137	3.1	2.0	3.0	4.7	3.3	3.2	3.1	-	-0.15	-0.04	-	-	-0.20		
なし・分からない	270	430	626	526	334	212	104	2,232	3.6	2.0	3.5	5.5	3.9	3.7	3.6	-	-0.21	-0.10	-	-	-0.31		
全回答者(属性無回答を含む)																							

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q210. (意見の変更理由)政府の公募型研究費(競争的研究資金等)にかかわる間接経費は、十分に確保されていると思いますか。

	2017	2018	差	
1	1	4	3	欧米で実績がない、未知の分野には資金が出ないように思う。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	4	6	2	大学側が間接経費の使い方はもっと考えるべき.基本的には研究者の裁量で使用すべきものとする。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
3	2	3	1	間接経費によって組織としてのメリットが出てくることで,結果的に研究環境が改善される効果があります。(大学,部長・教授等クラス,男性)
4	3	4	1	現在の部署に変わり,分かるようになった。(大学,部長・教授等クラス,男性)
5	5	6	1	間接経費は十分すぎるので減額されるべきだと思います.不要な事務員の雇用確保に使われているだけにみにみえます。(大学,第1G,農学,主任研究員・准教授クラス,女性)
6	2	3	1	間接経費の制度に対する理解は深まっていると感じる.ただ個別の大学での取り扱いには不明朗な点(どんぶり勘定のため)もある。(大学,第2G,理学,その他,男性)
7	1	2	1	少しずつ良くなっているように思える。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
8	1	2	1	総額自体が問題ではないと考えたため(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
9	2	3	1	間接費30%以下のガイドが文科省,経産省の国プロで一般化してきている(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
10	2	2	0	間接経費が少なく,電気代の増加が大学の研究経費を減少させている。(大学,社長・学長等クラス,男性)
11	2	2	0	間接費が十分に活用されているかが問題で,マネージメントが問われている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
12	1	1	0	海外では個別案件に応じて間接経費が設定されている.一律なのはおかしい。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
13	2	2	0	大学が吸い上げる(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
14	6	6	0	間接経費の一部は研究者に戻す規則を作るべき。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
15	5	5	0	十分だが,大学の本部が間接経費を何に使用しているのかよく分からない。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,女性)
16	1	1	0	各大学が自主規制をかけ,そのため研究者の環境改善には回っていません。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
17	2	2	0	間接経費がブラックボックスで,その支出内容に対して外部資金代表者の意見が述べにくい.少なくとも,直接経費で支えない部分の支出をしてもらえないケースが目立つ。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
18	1	1	0	組織運営に費やされており,個々の研究者の研究を補助する予算にはならず,消えてなくなっている印象。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
19	1	1	0	すべての研究予算の間接費は30%は確保すべきで,その間接費の半分は研究代表が直接使えるようにすべき。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
20	1	1	0	所属大学では間接経費は全額大学に取られる。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
21	2	2	0	間接経費の使途について,教員にも公開してほしい.大学執行部が恣意的に使用している恐れがある。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
22	3	3	0	研究者個人が自由に使用できる経費ではないため,どちらもいえない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
23	1	1	0	大学が独立行政法人化し,間接経費が研究設備に十分廻ってこなくなりました.研究費の使途が組織内でブラックボックス化しているようです.研究費は研究に使えるような法律または指針による整備を望みます。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
24	4	4	0	間接経費の使い方が研究者を取得した研究者のためになっていないことが問題です。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
25	5	5	0	多過ぎるのではないか?(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
26	2	2	0	厳格化する経理処理手続きに間接費の多くが割かれており,管理的業務を研究者が行っており,研究効率を落としているように感じる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
27	2	2	0	制約が多過ぎるように思われる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
28	1	1	0	どこの大学でも研究ができるような経費配賦の仕組みが必要.特定大学に拠点が集中することで独創的な研究が育ちにくい環境になっている。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
29	2	1	-1	交付金が甚だしく減少している現状をみると間接経費を増加させないと競争的資金を獲得しても研究が実行できない可能性がある。(大学,その他,男性)
30	2	1	-1	間接経費を大学が吸い上げて研究者に全く返ってこない.大学側の問題である。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
31	3	2	-1	間接経費は大学全体,所属部局,所属学科に配分される割合が高すぎて,申請者にはほとんどこない.もっと申請者にインセンティブを与えるべきである。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
32	2	1	-1	間接経費はありますが,それがどのように自分の研究のためになっているか実感できない。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
33	2	1	-1	偏りを感じてやまない(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
34	3	2	-1	運営交付金が減少するなか,間接経費を増やしていく必要があると思います.但し,最初から減額が前提となる経費申請の現状はよくないと思います。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
35	3	2	-1	必ずしも間接経費が確保されているとは限らないものが増えてきたように感じられる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)

36	4	3	-1	間接経費を使えなくなった。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
37	3	2	-1	間接経費30%は大きい,基盤的資金が減少しているので,それを考えると増やしてもいいかもしれないが,大学間の差が大きくなる危惧もある。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
38	3	2	-1	競争的資金に偏重しすぎているように思う(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
39	3	2	-1	額は増えているが,研究費自体の目的指向が強く,科学技術の底上げにはかえって悪影響を及ぼしている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
40	4	3	-1	間接経費の考え方が変わってきているように思う。(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
41	3	2	-1	特許出願も成果として管理していくのであれば全く足りない。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
42	3	2	-1	不十分だという学の声をししばし耳にするから。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
43	2	1	-1	経産省や文科省の活動に多少関わりがあるが,スタッフでの集まりなどの予算が確保されていないことがある。(民間企業等,その他,男性)
44	4	2	-2	間接経費の大部分は,それぞれの研究に必要な環境整備に使われているとはいえない。各機関の種々の固定費として使われていることが多いのではないか。(大学,社長・学長等クラス,男性)
45	5	3	-2	運営費交付金の削減がよいよ大学運営を厳しくしており,間接経費で補うにしても限界にきている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
46	6	4	-2	補助者などを雇用してレベルの高い研究者の時間を稼ぎ出すだけの額としては不足。(大学,部長・教授等クラス,男性)
47	6	4	-2	間接経費で事務スタッフを雇用している場合は,必ずしも十分とは言えない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
48	5	3	-2	十分に確保されていると思うが,その使用用途が研究支援以外のところにあるように思われる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
49	3	1	-2	競争的資金は,予算配分や成果評価において審査が必ず行われている。しかし,審査員自体の能力に大いに疑問があり,適切な審査や競争が行われていないと感じる。(年配の方が審査員になられる方が多く,審査員の知見が最新でないため,焼き直しテーマが高い評価を得る傾向が強く,将来展望も短期的に感じる場面が多い。)公平な競争・審査に基づく競争が理想であるが,実際にはほとんど実現できておらず,弊害のほうが大きいのが現状であると強く感じる。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
50	4	2	-2	運営交付金が減額される中,間接経費のさらなる確保は必須。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
51	3	1	-2	研究費の重点配分を見直すべき。A-STEP,NEDO,ERATO,CRESTなど廃止を検討するべき(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
52	3	1	-2	間接経費を40%から50%に引き上げる議論がされているが,それでは研究費として使える金額がのこらない。また間接経費で事務職員を雇用しても教員個人の研究活動のサポートに反映していない(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
53	5	3	-2	十分な予算が与えられる分野に偏りがある。地味で基盤的な分野に対しても長期継続的に予算が与えられるべき。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)

Q211. 研究環境及び研究資金等の状況について、ご意見をご自由にお書きください。

(201) 研究費も部署によっては不十分だが圧倒的に人件費が不足している。外部資金を除くとほとんど何もない状況である。日本国内においては恵まれていると思うが、世界に伍して科学技術研究を行っていくには、基盤的経費の底上げが必要である。研究室に配分される運営費のみで研究を行うことは絶対に不可能である。(202) 全学が協同して進めることができるタスクを、部局毎に行っている部分も多い。(入試関連業務や一部の授業も、全学で分担可能と考える。) 各大学や部署の工夫でどうにかなる話ではなく、全体の教育研究予算増が必須。サポートする事務員、効率的な情報共有等不十分である。委員会・会議の数を減らすなど積極的に取り組んでいる。研究時間確保の問題は、すでに機関レベルの問題ではない(政策レベルの問題)だと感じています。会議の削減、事務職への権限移譲、URAの導入など方向性は正しいが、さらに加速させる必要がある。(203) 専門人材を雇用するための資金がない。取り組みが行われているが、まだ十分とは言いがたい。URA的人材を採用して活用しているが、研究活動の更なる円滑実施を目指し、より積極的な運用が望まれる状況である。スタート地点に立った状態であり、多少長い目でURAを育成する根気が必要であろう。(204) 諸外国と比しても、かなり恵まれている方と思う。各教員が外部資金を獲得すると研究設備は充実している。優れた研究施設・設備が導入されている。(205) junior PIが育たない大きな理由がここにある。本部局のワンストップのような機器共用の枠組みをもっと拡充して、junior PIとして挑戦してみようと思わせる環境の醸成が必要。十分とは言えない。共有するためには設備を管理する専門員を雇用する必要がある。研究施設・設備・機器を共用するための取り組みが行われているが、①周知の徹底(例: つくば共用研究施設データベース<http://oft.tsukuba-sogotokku.jp/>), ②大学連携研究設備ネットワーク <https://chem-eqnet.ims.ac.jp/>), ③利用申請機会の増加などの観点から、改【続く】

善する余地があると考えられる。共用の仕組みはあるが、有効に機能させるのは極めて困難。URAと同様に、設備共用もマネージする人材に負うところが多く、制度を作って満足してはならない。(206) 海外の電子ジャーナルへのアクセスは非常に不安定かつ不十分。基礎的なデータの収集についての資金・評価システムが貧しすぎる。近年非常に充実しつつある。(207) 共用とされた研究施設・設備に関しては、利用をさらに促進するために、研究施設・設備の見える化(機器情報、予約管理、利用成果など)について、常に改善を心掛けていく必要があると考えられる。手探りながらよい方向には動いている。ただし、個別例で恐縮だが、発表成果がないとSPRING-8の利用申請ができなくなるなど、成果主義に走りすぎていることに懸念を抱いている。(208) 情報系では、すでに論文、ソースコード、利用したデータを再現性のために公開することが一般的になりつつある。論文のオープンアクセス化: まだ不十分であり、徹底されていない。一方、オープンアクセス化には費用がかかるため、全ての論文をオープンアクセス化すべきかどうかについては、議論が必要である。データの公共性を個々の教員ではなく、組織として担保していく必要がある。(209) 文教科科学予算は、国の将来への投資であるため、国の予算の中における比率をより多くするべきである。少なくとも中国や米国と伍しうる予算ではありえない。限られたパイの中の予算配分を考える必要がある。民間資金が大学に流れる仕組みを多面的に構築することが必須であると考えられる。十分とは言えない。(210) 十分とは言えない。(211) 短期的で特定の領域に偏った予算配分が多い。予算を、短期、中期、長期の3つのカテゴリーに分け、長期的な戦略での研究にも予算をつける必要がある。研究環境(研究設備ではない)は諸外国に比べ劣悪である。広さ、使いやすさ、安全性にも乏しく、現在の国立大学の研究環境は最悪であると言わざるを得ない。科研費の基盤(A)の審査方法が昨年より変わり、専門家による審査が十分ではないと感じている。また一方で、民間企業との研究を【続く】

行う際には守秘義務などのために研究成果を公表できない場合があり、その際には外部資金獲得にはいたらず、資金の獲得は容易ではない。大型研究予算を獲得すればするほど忙しくなるというジレンマに襲われる。十分な間接経費の確保と、研究をサポートする専門スタッフ・組織の整備が必要不可欠である。基盤的な研究費が十分でない。各教員の頑張りによりそれなりの外部資金が獲得でき、研究環境と研究資金は最低限確保されているが、安定的な基盤資金が圧倒的に不足している。研究には、アイデア・時間・マンパワー・資金が必須である。まず、研究の肝となる良いアイデア創出には、時間の確保が極めて重要である(切迫している環境下では、良いアイデアは出ない)。現在、大学運営費の削減・定員削減により、マンパワー・資金は減り続けているため、競争的資金(競争することは極めて重要であるが)の獲得が必須であるが、その獲得のために過度の時間がとられるようになってきている。さらに、評価方法が多様化(これも極めて重要であるが)してきているため、論文執筆以外の様々な活動が求められ、研究時間が削られてきている。結果的に、良いアイデア創出のための時間が削られ、研究がシミュレーションという負のスパイラルが日本全体で発生していると考えられる。正のスパイラルを生み出す仕組みを日本全体で考えるべきである。経済学、社会選択理論的に言っても、競争になじまない分野にまで競争的資金の原則を貫徹することは、中長期的に見て、応用的研究の成果も貧しくする可能性がある。知識大国になりうるかどうかは、政策的にきわめて重要な課題であるにもかかわらず、この点、表面的な「役に立つ」という評価が行きすぎ、かえって日本の科学の力をそぎ落としている。ノーベル賞受賞者が繰り返しているように、現在の受賞は法人化以前の成果である。一刻も早く「競争させればいいものができあがる」という幻想を投擲すべき。研究費全体の増額、特に安定的資金の増額が必要だと思えます。大型予算では、光熱費や追加的面積(プロジェクト面積)に関する支出を直接経費で支出できるようになったことは非常に良い。一方で、【続く】

1 前に比べて研究予算の直接費に占める人件費やこれらの間接的経費の割合が増えており、純粋に研究費として用いることができる金額が相対的に減る傾向にあることも考慮すべきである。(大学、第1G、社長・学長等クラス、男性)

2 競争的研究資金が、応用サイドに寄りすぎている。若手に広く浅く研究資金を与えるような工夫が必要。例えば、科研費の若手研究Bを300万以下とし、採択率を70-80%に上げる。(大学、第1G、部長・教授等クラス、男性)

3 基盤的経費と、競争的経費を分けて考え、前者は薄くてもいいから長期間コミット(たとえば10年)し、後者はあまり特定の研究者に集中しないように、公平に分配する必要があります。(大学、第1G、部長・教授等クラス、男性)

4 大学側の問題であるが、せつかくの間接経費を大学が吸い上げて、研究者の必要な経費に回ってこない問題がある。間接経費の使用の透明化が必要である。あるいは、間接経費は、外部資金を獲得した研究者の管理下にすると縛りが必要である。(大学、第1G、部長・教授等クラス、男性)

5 使い勝手の悪い資金が多い。研究開始日と研究終了日が省庁によって違うにもかかわらず、備品購入締め切り日は一緒である。年度をまたぐことのできない予算が一般的で、人件費、ソフトの契約に支障をきたすことがある。現場の立場に立った血の通った予算配分は夢の夢なのでしょうか。(大学、第1G、部長・教授等クラス、男性)

6 結局は人材不足が問題である。人数が減った分、成果が減るのは当然。研究費でポスドクを雇用しても、いずれは転職するため、恒常的には組織が成長しない。(大学、第1G、部長・教授等クラス、男性)

7 競争的資金に対して、社会実装を問う評価がなされることが多いが、基礎研究を5年支援したら実用もしくは社会実装できるということと自体があり得ない。そのため支援もせずに評価だけする助成機関のあり方、あるいは評価委員の人選に疑問を感じる。(大学、第1G、部長・教授等クラス、男性)

- 8 毎年毎年、ノーベル賞受賞科学者が言っていますが、選択と集中は反対。それで研究費を得た人たちが、どの程度、社会に貢献する成果を出したか? が、しっかりと評価されない以上、ただの無駄使いだと思う。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 9 科学技術に国の将来をかけるつもりがないなら、現状は妥当。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 10 研究費の使途などに関する規制が厳しくなりすぎており、弾力的な研究を実施することがほぼ不可能になっている。多くの費用は「研究費」では無く「事業費」と整理され、契約時点で詳細な使途と成果との記述が求められる。即ち、研究成果が既に出ている、ある意味「費用を使うだけ」のプロジェクトしか無いと思われる。また、選択と集中の名の下に、政治的に定まった「事業」が増え、研究者の自主的な研究への「前提無し」の研究資金提供は行われていない。これでは自由な発想での研究など発展しようはずが無い。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 11 目的が限定されない基盤的経費の減少は自由な研究テーマ推進の危機となる。多くのノーベル賞学者などが訴えているが、改善が見えない。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 12 競争的資金に税金を集約しても論文数は増えません。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 13 研究者の研究時間を確保するためには事務補佐員や技術補佐員の雇用が必須であるが、そのためには外部資金の調達が必要状況になっている。外部資金の中には事務補佐員の雇用が許可されていないものもある。また、外部資金の獲得額が多いほど運営費が減らされる状況も生じており、研究室内の環境整備に支障が生じている。これらの歪みの根本的な原因は、大学全体への予算の慢性的不足であり、是正を求めたい。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 14 若手の研究者のほとんどが外部資金の任期付き雇用であるが、短期的な成果の見込める研究のみになってしまう。常勤で雇用し待遇を良くしないと研究環境を整備していかないと優秀な人材が集まらない。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 15 人件費を削りすぎである。適切な執行管理には欠かせない事務補佐員や職員の仕事を適切に評価する気があるようには思えない。実態にそぐわない制度ばかり押し付けているので、大学に使命に理解をしてくれて安い時給でも働こうとしてくれる方々のやる気をひたすら削いでいるのが実態。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 16 ラボの運営上、額ではなく、連続性が大事だと思う。基金化をもっと進めるべきだと思う。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 17 科研費の採択率を上げることが重要である。また、継続的な科研費申請が評価されるシステムも重要である。一部の研究者に重点的に研究資金が集まるような状況では、学術研究の幅広い発展は望めない。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 18 定期的な共通設備の更新が出来なくなっている大学が多い。競争的資金だけで共通機器を更新するのは無理である。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 19 大型基礎科学の支援は国だけに可能であり、将来の国を支える重要な要素でしょう。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 20 所属する機関では比較的、研究環境や研究資金に恵まれているが、日本全体で見たとき(特に地方大学において)、どちらも諸外国に比べて非常に劣悪な状況にある。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 21 研究環境は外部資金等で賄うことが可能だが、教育用の設備や環境整備の資金が全くない。通常の運営費を回さざるをえず、学生の研究環境も良くならない。研究データの共有は、多くの場合海外の研究機関に依存している。多くの貴重なデータが共有されずに埋もれている。科学技術関係予算が不十分のため、多くの若手研究者が軍事関連予算への申請を考える歪んだ状況になっている。基礎研究と銘打った軍事関連予算は科学技術関係予算として提供するべき。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 22 基盤経費を増やさない限り、いずれ早い内に、人口でも研究費でも勝る中国に完全に追い越される。多くの日本人が勘違い、油断している根源は、基礎研究力とイノベーション力の間の強い慣性力のことを意識していないことにある。つまり、基礎研究の発見が実用化(製品化)されるまでに、通常、10年から15年かかる。ノーベル賞は30年である。このタイムラグを強く意識していなければならない。多くの政治家は「まだまだ日本は基礎研究力や人材育成力は、ものまねばかりしていてオリジナリティーの無い中国には勝っている」と思っている。確かに、優れた車や電気製品、パソコンなどは、韓国や日本が勝っている。しかし、中国では、1人あたりの研究費が日本を越えつつあり、人口は10倍、トップジャーナルの占有率は米国をも越え始めている。基礎研究力は積分すれば中国は既に米国や日本を抜いている。従って、10~15年後には日本の産業界も中国の優れた製品で圧倒されていることであろう。単純な考え方もかもしれないが、相手が10倍いるのなら、日本は個人への投資単価を上げざるを得ない。運営費交付金は人材育成費であって、これを削るとは何たる国家滅亡の策であるか。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 23 欧米に比較して各段に低い額である。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 24 外部研究費を取得すれば、人を雇うことで余裕を持つことが出来るかもしれないが、人件費は高いので結局は学生と教員で頑張らざるを得ない。学生も頑張らなければ教員が疲弊する一方であるように見える。やる気があって研究者を目指そうという大学院生も少ない。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 25 間接経費がその研究を間接的にサポートするためにはほとんど使われておらず、関係ない研究を間接的にサポートしている。研究に関する事務書類を簡素化・効率化して、研究者の時間を増やすための努力を大学の事務がするべきである。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 26 競争的研究資金が当たらない年は運営交付金は少ないため学生を含めて何も出来ない。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 27 長期間かかる基礎研究を安定に行うための予算が欠けている。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 28 教員が本当にやる必要にあるのかわからない雑務に時間を割かれている(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 29 大型資金を少数の研究者に限定して数年だけ配分するのではなく、年間100万円程度の研究費を10年以上にわたって配分するのが望ましい。人を雇用する資金も足りない。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)

- 30 研究を行う資金に対する選択と集中の考え方が強く、競争的資金となって多くに行き渡らないため幅広い萌芽的な研究に繋がっている状況ではないと考えています。現状では結果がある程度見える課題のみに資金が行くため、全体としての先細りが明らかに見えてきている。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 31 科学研究と教育に関する資金が十分ではないことについてはすでに大学教員には広く認識されていると思うが、その一方で近年は防衛省の科学研究資金が増加しつつある。政府全体としてこの資金を学問研究に資する予算だというのであれば、直接的に学問研究のための予算として確保すべきであると思う。研究費が不足しているという深刻な状況に付け込んで、政策的な予算ばかりを増やすことは健全な科学の発展を阻害すると危惧する。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 32 増税してでも研究開発投資を増やし、未来に投資しないと中国には勝てない。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 33 運営交付金の減少、電子ジャーナルの値上がり、電気代の不安定さから、基盤的な資金による運営は年々苦しくなっている。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 34 目的のある研究費は多く措置されるようになってきているが、基礎研究,あるいはアンダーテーブル的な研究に対し自由に使用する基盤経費が激減してきているように思われる。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 35 科学研究費補助金の採択率を大幅に上げることにより、日本の研究力は確実に上がると思います。超大型資金による選択と集中のスタイルは害の方が大きく、事後評価も甘く(中間評価すら行われない事業もあります),廃止すべきでしょう。その資金を広く再配分した方が、結果的に日本全体の研究力強化に貢献し、20年後のノーベル賞に繋がると思われます。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 36 高額装置の導入は、研究推進の大きなドライビングフォースとなる。一方で、それを維持させるための費用、人件費の確保は非常に厳しい。重要大型設備に対しては、その管理能力が成果に直結する。技術職員の増加策が、良い研究成果を導くことになる可能性もあり得る。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 37 多くの日本人ノーベル賞受賞者がすでに指摘されているように、研究資金の額が諸外国に比べて少なすぎ、国力の低下に直結するのではないかと危惧している。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 38 基盤的施設・研究のサポートと、広く様々なテーマへの研究資金のバランスが重要。ちょっとお金になるように見える研究資金が多いのではないかと。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 39 数年で配属が変わる事務員に専門的な能力を要求することは困難です。大学で研究支援者,リサーチアドミニストレータを大学が養成していくという視点が必要だと思います。人件費が固定費になるのを恐れすぎて、大学に必要な人材を育成していく余裕がないことが問題だと思います。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 40 研究環境:問1-15で回答したように研究に割ける時間が年々減少している。研究資金:SIP第2期で報道されたように、大型の予算にも関わらず、公募期間が短く、とても公募開始後に計画を練って申請することができると思えない公募が散見される。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 41 競争的資金から運営費交付金への予算配分調整をもっと行うべき、選択と集中は無意味(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 42 これは散々指摘されていることで、いまさら私が述べる必要があることが不思議であるが、予算を運営費交付金から競争的資金へ振り分けることで、予算の利用効率が悪化している。どの面をとってみてもそうだが、一例として人材獲得を見ると、パーマナントポストが競争的資金に紐付いた任期つきポストに振り返られている。リスクの増大は魅力の低下 = 同じ給与を支払ってもその価値が低下していることを意味する。予算は増えていないため、獲得できる人材は以前と比べて平均的に低くなっていることが推測される。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 43 科学研究を支える基盤技術を維持する取り組み,ネットワーク化する取り組みがもっと必要(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 44 予算が減額される中,ビルトアンドスクラップの議論は徹底すべき。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 45 大学の運営費は大学研究のボトムラインを守るために減らすのはもつてのほかで、増やすべきだと思います。最低限のレベルを国が守ることが日本全体の研究水準を維持する必須条件です。このままでは日本の科学技術は消滅同然です。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,女性)
- 46 GDP比など日本全体で考えると研究資金は比較的良好であるが、その分配に問題がある。透明で実力に基づいた分配,能力に基づく思い切った傾斜配分が必要である。(大学,第1G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 47 研究資金の取得状況を周辺で聞いた印象から、配分分野に偏りがあるように感じた。私の所属する農学系は比較的应用的視点が重視されるので特に不都合はないが、全体的に基礎研究が軽視されていると感じる。応用研究は企業や営利団体でも積極的に参入することを考えると、大学こそ基礎研究に力をいれなければ日本のアカデミアの将来は楽観視できないのでは。(大学,第1G,農学,研究員・助教クラス,女性)
- 48 研究環境はすでに世界トップクラス,研究総額としては十分だと思うのでしっかりした審査体制で配分することが重要と考えます。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 49 研究資金の配分,とくに小額の研究資金の配分に大きな時間が割かれており,研究者の時間が不足することになっている。「時間」というリソースを有効に使う為には,中規模(年間500-2000万円程度,生命科学分野の場合)の予算を増やし,小規模なものを減らすなどの改善が必要ではないかと。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 50 基礎研究への配分が少ない(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 51 社会保障に予算を回しすぎ,研究や教育など未来への投資が必要。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)

- 52 研究費予算全体の増額が望ましい。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 53 研究費の集中などの是正が行われていない。また,研究分野によって必要な予算は全く異なるにもかかわらず,科研費等が同じ金額配られていることは問題がある。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 54 高額機器は,個々の研究室ではなく施設として保有し,多くの研究室が利用できる仕組みを作るべきだと思います。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 55 研究資金の獲得が,今後,競争的研究資金等がメインとなってくるのは致し方ないが,我が国における研究費総額が少なくなるのは,科学技術立国の基盤を揺るがしかねないので,手厚い配慮が必要であると考えます。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 56 研究資金のマネジメントに関して厳格な運用が求められる一方で,短期のアウトプットが必要だと感じます。長期的な視野に立てば,国際間の連携も含めて幅広い人材の育成にも研究資金が利用できるようになるとますますよいと思います。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 57 学会運営にまつわる雑用によって潰れる時間も馬鹿にならない。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 58 研究費申請数の増加に合わせて国の予算が増額されていない。採択率を下げない操作を行う為か,充足率が下げられている事により,計画通りの研究を行うことが難しい状況となっている。また,消費税が5%から8%に変更された際にも,研究費額は同じであった為,可処分研究費は減少した。消費税は国庫に戻るものなので,結果として,国の予算に占める研究費は消費税が5%の時より減ったことを意味する。来年度,計画通りに消費税が10%に引き上げられると,さらに,研究費は2%減額となる。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 59 研究環境及び研究資金等の状況について,悪くなることはあっても,良くなったことはありません。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 60 特定のPIに巨額の予算が付いている状況なので,それ以外のところは下請けのようにになっていることも多い。研究費は,薄く広くばらまいて芽が出るのを待つべきで,重点領域を設けるのは構わないが,程度問題。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 61 研究設備等は整っているがそれに対して管理する人間が少なく,研究者が研究時間を犠牲にして整備にあたるという現実がある。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,女性)
- 62 ・学問の細分化と,それらに必要とされる実験機器の多様化から,スペースや設備がともに不足している。共通機器管理システムや共同研究スペース(貸貸式のスペース)を作るようにする。・知的基盤や研究情報基盤の状況について,大学が個々に管理するのではなく,国レベルでのデータ管理体制が整うとよいと思う。・大学では間接経費を増やしていかないと将来性のある研究が育たない。・科研費の増額が日本の科学基盤の底上げに必須。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 63 運営費交付金から個々の研究者への支援は極めて不十分しかできない。一方,たとえば科研費について考えてみると,その採択率は30%に満たない。これらのことは,科研費に採択されなかった研究者はまるで高校の先生と同じ状況におかれることになる。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 64 文部科学省からの施設整備費(建物補修,立て替え)が激減している。建物補修を自己財源で行うといっても,運営費交付金は年々減っており,機能強化のお金があるだろうと主張しているが,建物補修に使えないなど,用途が限定されており最悪である。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 65 首都圏の大学と比較して,インフラの整備状況が遅れている。地方再生(創成)のためにも,地方大学の研究環境整備は不可欠。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 66 府省の大学改革に関わる補助金が,定額ではなく年ごとに減額され,その負担を大学に求める仕組みが定着しつつあるのは非常に残念である。私立大学の場合は学費による自己資金や間接的経費等をやりくりしてその分を補填しなければならない。一方で,間接的経費は競争的資金につくだけである。間接的経費は大学全体の研究環境・設備を改善する上で非常に重要であるため少なくとも府省の補助金には必須とする仕組みが必要である。また,民間との共同研究においても,間接的経費の意味の理解と十分な措置が必要である。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 67 基盤的研究経費が削減されたことにより,新たな研究の種が生まれ難い状況になっています。競争的資金による研究では,研究計画の段階で研究の意義が明らかでなければならず,これまでの概念を超えるような新規性の高い研究を実施するのは難しいと考えられます。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 68 大学院生は,いつかは独立した研究者に,との希望をもちつつ我が国の研究を支えている。しかし,授業料を支払いつつ,将来の就職の見通しもつかない中に立たされている。博士号取得者が,より受け入れやすい企業風土に変わってくれることを強く望んでいる。国・公私立いずれにおいても,研究において優れた業績を上げ,教育に熱心な若者を公平に雇用できるよう,変わってくれることを望んでいる。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 69 ネットワーク技術の革新により,科学的資産が論文にまとめられた結果から,その結果を導くに至った実験データそのものに移行しつつある。このトレンドに対応した研究環境整備が望まれる。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 70 首都圏の大学と比較して,インフラ整備状況が遅れている。地方再生(創生)のためにも,地方大学の研究環境整備は不可欠。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 71 公募型研究費は,減少傾向にある。科学技術の発展を考えると,むしろ増加させることが望ましいが,いっこうにそのような風潮にならない。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 72 課題に特化して,短期集中的に資金を配分する方法は,見直すべき。人材,設備,装置への投資が有効に活用できない。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)

- 73 間接経費は増えているが、サポート体制の強化につながっていない。間接経費が研究機関の運営費に回っていて、本来得られるはずの直接経費が減っただけになっている。また、政府予算は競争的な比重が高まり、AIやロボットといった大衆受けする研究分野に予算が集中し、基礎研究や基盤研究に予算が配分されないという悪循環に陥っている。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 74 研究資金のトータル額は増えているかもしれないが、中身はプロジェクト型の研究に多くの資金が配分され、内閣府ImPACTでは若いProgram Managerを多数採用し、危ない研究が行われている。科研費への配分額を増やし、研究者ピラミッドの低層部に対する手当を増やし、全体のレベルアップを図るべきである。研究者の自由な発想に基づく科研費は、プロジェクトリダ制の資金に重心を移し、基盤研究や若手研究、挑戦的研究などはそれほど増えていない。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 75 研究環境は悪化の一途をたどっている。たとえば文部科学省の設備共用化の動きは方針が不明確であり、すべてを自助努力に任せ現在の方針は、大学間の研究環境格差を一層拡大し、全体を地盤沈下させる可能性が大きく強く危惧される。基礎研究の研究資金は政府系のものでしかなく、大型の設備整備は特定分野に限られてしまう。設備、システムは常に老朽化していくもので、その維持を行う努力は特定の職員の犠牲の上に成り立ち、かつ最先端性の維持は長くは続かないだろう。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 76 米国,中国に比較すると、研究資金の絶対量が少ない。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 77 研究開発活動にかかる予算の配分を競争的資金を中心とした考え方を推進する場合、研究開発をサポートする体制をより強化していく必要がある。しかし、現在の間接費の考え方(割合等)は欧米のそれと比較して、十分な内容とはなっていない。(大学,第2G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 78 CSTIのまるでわかっていない人たちが課題を設定するのではなく、科研費主体で研究費を配分すべきである。CSTI議員の目利き力がまったく評価されず実現不可能なこと(台風をそらすなど)が課題として設定されそこに金が投入されるのは税金の無駄遣いである(大学,第2G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 79 基盤の経費について、最低限人事院勧告に従って増額してほしい。特に都市手当増額分に対して何の措置もなく、該当大学で努力せよというのは不公平であり、やめてほしい。都市手当増額は大都市やその周辺の一部の大学だけであり、これをその大学の努力で何とかせよとなると、その大学が人件費に対して余計な努力をすることになり、(都市手当増額のない)他大学と公平な競争ができなくなる。実際、当大学では、人件費が工面できず、転出教員の補充もままならなくなっている。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 80 校費など基盤研究費が軒並み削減されている現状では、科研費基盤cに相当する比較的少額の研究費の件数をもっと増やすべきである。文科系の某研究者が数億円の科研費を受給していた事例などはどう考えても納得がいかない。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 81 政府は運営費交付金を継続的に減らして競争的資金を増加させたが、運営費交付金の削減は既に限界を超えており、大学の基礎体力の低下は著しい。また、論文雑誌料金の高騰もあり、必要な論文雑誌の購入継続を断念するケースが増加している。これは現在の研究者だけでなく、将来の研究者に対しても不利益を与える。研究環境の整備を長いスパンでも考えて戴きたい。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 82 科研費の挑戦的萌芽研究に代表されるような、アイデアを試行するタイプの研究資金について、採択率が下がっており、獲得が難しくなった。新しいイノベーションのタネを探索するこの手の研究資金としては、もっと広く提供するものがあってほしい。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 83 第一段階として、科研費などの基礎研究費は、なるべく多くの研究者に数100万円程度/年の予算を配分することが、日本全体の研究力回復および論文数増加につながると考えている。採択率を50%以上に引き上げる等して、アクティブな研究者数の底上げが必要に思う。第一段階の成果を基に、さらに高額予算(科研費の上位種目やCRESTなどの目的指向型)へステップアップしていくシステムが良いのではないかと。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 84 研究資金への応募の案内他は以前よりよくなったし、大学全体での共通機器利用の仕組みに対する取り組みも年々良化している。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 85 公費がほとんどなく、一度、科研費に落ちたら、私費を投入するか、研究をやめるしかない。私は、今年度、これまでの人生で初めて外部資金の獲得に失敗しました。今年度は、子供を大学に通わせるために積み立てていた私費を投入し研究を続けています。科研費は25%も通りません。常に科研費を取れるわけではないので、万が一落とすと、このような事態になります。来年も落としたら、家族を犠牲にできないので、私は研究を諦めます。これまでの30年で積み上げたものは無に帰すでしょう。このような状況は一定の無能な研究者には仕方がないとお考えですか。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 86 ある研究領域にだけ焦点を当てて本来必要のない巨額の研究費を注ぎ込むような配分方法は新たな可能性を生み出すことには繋がらない。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 87 装置はよいものがあふれているが、研究資金のほとんどは依然として新しい装置購入に充てられる。今足りないのは研究するスタッフではないかと思われるが、競争的資金ではせいぜいポスドクを雇うことしかできない上にリスクも高く数年しか雇えないとなると人を雇うことは難しい。大学の場合は、運営費交付金を増額する以外には解決方法はないのではないかと。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 88 大型装置を大型予算を獲得したラボ内に設置するような予算の使い方は規制し、共同機器の活用をはかるようにしてほしい。一極集中型の大型予算よりも、特に若手研究者に技術補助員を充当できるような人件費配分が可能な(あるいはそのような制約のある)競争的資金も考えるべき。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)

- 2-06補足:論文誌購読コストの暴騰(出版社による価格設定の釣り上げ)は,早晚購読の縮小と専門誌アクセスの悪化に繋がらざるを得ず,研究の継続には死活問題である.この点,数学などではプレプリントサーバの一般化による世界的なオープンアクセス化が進んでいるが,それだけで十分とも言えない(公開するかどうかは著者次第である為).予算措置は望ましくはあるが,額の大きさを考えれば費用対効率のよい方法かは分からず,むしろ学術界として商業出版社によらない論文誌の拡大等を目指していくべきではある.但しこれは行政主導より学術界の自主的取組として行われる事が自然かつ無理のない事ではあるが,いずれにしても予算的裏付けは必要であろう(編集・配布コスト等はどうしても発生するため).2-11補足:十数年来の基盤的経費の減額の結果ポジションの(実質的)減少と給与抑制に繋がっているのが現実であり,そのため優秀な若手を採用できない・優秀な学生がアカデミックキャリアを志向しない傾向が出ている事は,中長期的な我が国の研究力の維持には大きな問題である.「貧すれば鈍する」で,予算が厳しくなれば「特異な」突出した才能にいか八かで投資して育てる余地が益々少なくなり,安全牌として「そこそこ」人材ばかりを採用する様になるものでもある.イノベーションに賭ける我が国の有望な未来を保証する体制ではない.またCOE・GCOE等のプロジェクト資金には学生・ポスドクの時分大変お世話にはなったが,毎度異なるスキームの作成が多大なマネジメント労力を発生させ研究力を阻害した事も言われるとおりである.すなわち競争的資金(科研費以外)の拡充は学術界にとって必須ではあったが,単純に政治的な理由から過大過ぎるマネジメントコスト(労力)を発生させ,研究余力を削った事が問題である.こうしたプロジェクト資金は終了後は独自財源を獲得する事を前提としていたと聞くが,そもそも基礎研究のほとんどは企業から資金援助を得られる種類のものではなく(iPSのように数十億の寄付金を集められるトピックは,例外中の例外というべきである),継続的な支援がマネジメントコスト【続く】
- 89 の低減のためにも必要である事を,文科省のみならず財務省・政府にも共有して頂き,ただか5年ではなく数十年といったスパンを見据えた科学の振興・支援を是非お願いしたいと思う.(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 90 研究とは異なるが,一昨年のリオのオリンピックや今年のアジア大会等での若手の活躍(メダルの獲得数)に目覚ましいものがあった.彼等は10代後半から20代で「ゆとり世代」と言われる若者達である.彼等の活躍には,「ゆとり」の効果の他に「優れたコーチ陣」と「整ったトレーニング施設と設備」が寄与したと考えられる.研究においても同様に考えるべきで,研究成果の創出に当たって,研究者への「ゆとり,指導者,施設・設備」の充実が望まれる.これら研究環境の整備の基盤となるのが,研究資金の確保である.運営費交付金の削減はこれに逆行している.(大学,第2G,理学,その他,男性)
- 91 若手,中堅,シニアを問わず,環境は着実に悪化している.(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 92 科学技術に関する政府予算は,ある一部の研究者が多くとられていると思ってます.もう少し,広く配分ならびに若手研究者にいきわたるようにお願いしたい.(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 93 基盤的経費の削減による影響が極めて大きく,研究者の自由な発想に基づく研究開発は全く困難である.(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 94 もうすこし設定の少ない研究資金公募が欲しい.やれることが規定されてしまう.(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 95 多くの研究者の皆さんから指摘されているように,基礎研究の多様性を確保するためのベースとなる予算の削減は,今後長期的にマイナスの影響がでてくると思われます.他の国々が科学技術に力を入れている現状では,相対的に日本の科学力が低下すると考えられる.(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 96 運営交付金の定常的削減により,プロジェクト資金の確保,民間からの資金確保の問題が定常課題となり,研究そのものに費やせる時間が確実に減った.また応募しても当選する確率が低く,研究者のマンパワーの空費につながっている.(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 97 前述したように,巷では大学に対して,経営改善や国際的な論文指標の生産性の低さが喧伝されています.しかしながら,我が国の国立大学は営利団体でないことは勿論,これまで日本の産業界を始めとして高度人材を実際に多数輩出し,将来的にも期待され責任を持たされていると受け止めています.そのためにこそ国費(税金)の投入が正当化され,実際にも投入されてきたと認識しています.すなわち,高いレベルの研究が行える研究環境やそのための研究資金は,このような高度人材を育成するために必要です.また,研究施設や大型機器類は必然的に維持費が必要で老朽化も進みます.さらに,科学技術の進歩や他国との競争は激化していきます.そのため,科学技術立国とそのための人材育成を目的とするのであれば,常に予算の拡充と取捨選択が必要です.財源がないのであれば,教育国債や寄附金の控除などで対応可能.(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 98 研究資金の配分について,配分額に対する論文生産数(一定水準以上の学術誌)を評価するべきである.研究費に対し人的リソースが不足する場合には,高額な機器の購入,研究分析の外部委託,研究人材の短期雇用のみで終始するあまり,借り物の研究となりがちで,人材育成や学術成果の定着に結びつかない.(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 99 科研費の「基金」分がなくなったので,年度を超えた支出が不自由になった(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 100 諸学国に比べ大幅に少なく,中国や韓国に追いつけられているどころか抜かれてしまっている.こんな劣悪な研究環境では,夢を持って進学したいなどという学生は皆無に等しい.天然資源に乏しい我が国は,科学技術や教育への支援なしに発展など期待できない.このような政策が続くのであれば,科学技術立国日本などという看板は下ろした方がいい.競争的研究費も大切だが,研究が花開くかどうかは随分先の話である.すぐに役立つ実用化研究は企業が実施すればよく,大学は基礎研究と人材育成に徹するべきであり,基盤的経費の充実が重要である.目先の結果にとらわれずしており,研究の目利きができていない.(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 101 直接経費の額を減額してでも,各大学の間接経費や,補助金を増やすべきだと考えます.事務員等の雇用ができなくなっており,大学の研究者の多くが事務作業に膨大な時間を割いています.研究に当てられる時間は,非常に少なくなっており,研究資金があっても研究自体ができなくなりつつあります.(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 102 自由度の高い基盤的研究経費の削減は,全く愚かしい.活力と創造性を奪っているだけで,日本は理系的に自殺したいのかと思う.賢明な政治家,賢明な官僚の出現を望む.(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 103 基礎研究に対する認識は相変わらず低いと言わざるをえない.特に経費面で確保されているとは言い難い.外部資金ではある程度の成果が求められるため,見通しの良い短期的な研究が中心になってしまい,リスクがある又は派手さがない基礎的な研究は所属機関からの資金に頼ることになるが減額の一途であり,今後回復の見通しもない.(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 104 科研費等の研究資金の厳格化は良いのだが、大学事務が過剰に反応することでお金が非常に使いづらく、研究に必須のものでも購入が困難な時がある。公的な科研費の利用範囲について、各大学の基準を適応するのであれば、もう少し具体的な指針を出すべきである。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 105 公募はあっても、新参者、有名研究室以外は全く相手にされない状況は、変わることはないです。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 106 長期的な視点で考えると、出来るだけ数多くの分野の、多様な研究を支援することが日本の研究力の強化に繋がる。現在は1人の研究者が複数の競争的資金を確保することが可能であり、1人に重複した分だけ支援される分野が少なくなり研究の多様性が失われている状況である。より多様な研究を推進するために、科研費だけではなくCREST、NEDO、ERATOなども含めた全ての競争的研究資金での重複を避ける制度が必要である。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 107 これからは明らかに多様性の時代なので、大型の研究費ではなく、多様な研究を支援するための少額の研究費をより多くの研究者に行き渡らせる方が戦略的に有効と感じている。大型資金を受給している研究者の実態をより正確に把握すべきである。多くのお金が無駄に使われている。実感的には、年間2000万円を超えてくるとかなりの無駄が発生していると感じる。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 108 バカみたいなの、ムーンショット型研究公募を今すぐやめるべき。こういうのは、型にはめる・出口を前提に考えるのではなく、基盤経費を幅広く、薄く配分すれば自然と出てくる。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 109 分析機器など実験装置の更新のための十分な予算が確保されていない。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 110 間接経費が直接経費に対する単純割合だけで措置されるので、直接経費額が小さな研究の場合不足するケースが多いと感じます。研究テーマごとの固定分、直接経費に対する比例分とするようなら、研究環境整備により適切に使用しやすいと思われます。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 111 若手に独立した研究環境を作ることを促しているが、科研費の若手Aがなくなるなど、大型装置を購入する機会が失われているのが残念。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 112 公募型の研究資金について、現在は少数の研究者に多額の資金を配分するタイプの公募が多いように思える。それを獲得した研究者は潤沢な資金を使って、さらに大型の予算を獲得することができるため、少数によって資金の大部分が独占されている印象を受ける。しかし大多数の研究者は少額であっても安定した研究資金を望んでいるので、小口の資金枠をより増やし、競争的資金獲得のために費やす労力を減らしてほしい。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,女性)
- 113 変更理由欄にも書きましたが、一般に日本のマスコミで報道されていることは異なり日本の科学技術関連予算は総額としては減ってはいないようです。大学教員としての実感は大幅に減少しているように感じますが、実際には、運営費交付金の占める割合が大きく減少し、その分競争的資金によって総額としては補完されているというのが正しい現状認識なのかもしれません。ただ、そのような予算形態への変革が、日本の科学技術にとって良い方向への舵取りになるのかどうかは正直分かりません。広く浅く予算を配分するからこそ予想もしないところから芽が出てくるのではないのでしょうか。今の予算配分では、今の時点で社会に役立つ可能性が高い研究だけに厚く配分するという方式であるために、日本の科学技術がこの先50年100年と国際的に一定のプレゼンスを維持できるのか非常に懸念しています。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 114 トップダウンの目的研究予算は増えているが、研究者の柔軟な発想に基づく研究を実施する予算が減っている。10年後、20年後の我が国の科学技術に負の影響が懸念される。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 115 運営費交付金の削減に伴い、大学運営(光熱水費、Journalなど)が公募型研究費の間接経費に頼らざるを得ない状況が生まれている。老朽化した施設等の整備に関わる経費も捻出しなければならず、それらが教員研究費を圧迫している。競争的資金の間接経費による配分が大学の研究力アップに良い結果をもたらしたのか、一度検証してもよい。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 116 学内の共用研究設備は用意されているが、これらを維持する予算が不足しており、故障するといつまでも使用できない状態になりやすい。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 117 研究環境・研究資金の状況が年々悪化していくのが顕著となっている。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 118 この10年間で、研究環境や研究費における政府等の改革が行われてきたが、若手研究者として過ごしてきて、研究時間、研究費の確保がより難しくなっているように感じます。特定領域などの流行りの研究に資金が流れ、独創的な研究をする研究者が減ってきており、研究の多様性が失われてしまっている。所属機関からの研究資金はコピー代くらいしかなく、純粋な研究目的を捨てて研究費が取れる研究に終始してしまい、多くの研究者が実は大きな挑戦が出来ていない状況にあると感じております。競争によらない一定の研究費の配分も必要だと強く思います。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 119 国が出す研究補助金が減っているのは日本だけでしょう。緊縮財政から目を覚ませ。日銀に金をすらせて政府が使って、いったい何が問題になるのか、ちゃんと説明できる人はいないだろ。インフレになる？いまデフレだろ！(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 120 国立大学の運営費の年1%減を10年続けたことの弊害が大きく出ている。これでは、研究環境は悪くなる一方である。科学技術立国を目指すと言いながら、やっていることはその逆。将来的な国力低下につながってしまうことを憂慮している。科学技術はすそ野を広くしないと高くはならないはず。一部のテーマばかりに重点的に配分するのではなく、予算そのものを今よりもかなり大きくし、薄く広く配布すべき。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 121 企業から資金を呼び込む努力をさらに加速すべき。企業にとってメリットとなる研究者の優遇・高評価も必要。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 122 研究以外の業務が増えすぎている。本学は大学院生も多く、資金もそれなりに獲得しているため研究を進めることができているが、大学院生が少ないところでは研究を進めるのは実質的に不可能ではないかと感じる。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 123 外部資金を獲得するために書類作りや、獲得後の報告書等の提出も多く、その作成に時間がかかり、実際に研究する時間が減ってしまう。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 124 科学技術の各分野間における政府予算に差がありすぎる。長期的な国策というよりは、世論の影響を感じる為、せめて有識者により各分野での10年後の目標の様なものを立て、それに必要な部分に予算を投下して欲しい。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 125 災害が頻発している状況にあつて政府予算をもっと研究に費やしてほしいとは言えない(被災地支援などに回してもらいたい)。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 126 研究環境は改善されつつあると思われるが、偏った支援や設備投資が目立つように感じる。必要と思われる研究設備も、一部の利用者だけが恩恵にあずかっている状態は決して良いとは言えない。また、必要に迫られて設置された施設であっても、利便性に欠け、設備の運営資金も賸えないというような状況は改善されるべきであり、新規の設置に際しては事前の調査や準備がもっとなされるような仕組み(体制)づくりを期待する。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
- 127 RAなどの部門が新設されて人も雇われているが、実際に研究者の負担を軽減したり業務を円滑化しているかというところかなり疑問符が付く。研究者のニーズに必ずしも即した形でサポートがあるとは思えない。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
- 128 設備の老朽化が激しい。また、大学カリキュラム変更に伴う業務や研究費申請により、研究を行う時間が絶対的に不足している(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 129 外部資金制度の工夫によって、一定の成果を出している研究室PIが基盤研究B程度を十分採択できるような制度設計を期待する。また、このアンケートが科研費の申請時期(9-10月)に行われるため、時間を割く余裕がない。ぜひ、締め切り後の11月に行っていただきたい。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 130 イノベーションを生み出すためにも基盤的経費(内部研究費)の安定的な供給が不可欠であると思う。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 131 成果を求めすぎる上、成果を出す可能性がある人をあらかじめ決めた上で公募されていることがある。つまり、公平な審査が行われていない場合が見られる。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 132 研究成果の公表努力(論文などを除く)や研究報告書の作成に時間がかかり研究時間を圧迫している。例えばReserachmapなどの粗悪なシステムに入力を強いるのは時間の無駄。若手に研究資金を与えるのはよいがその分シニア研究者の研究資金を削るのではなく、若手分を増やすべき。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 133 大学連携研究設備ネットワークの設置により超大型機器の共用は進んでいると思うが、トップ大学は別にして、標準的な大学におけるより小型の機器の整備状況は、文科省の研究設備整備の概算要求に対する財務省のゼロ査定がこのところ数年間続いているので、著しく劣化していると思われる。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 134 基盤的経費の削減が毎年実施されているため研究への利用は非常に狭められている。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 135 科研費などの公的資金は相変わらず集中した配分となっている。審査する側も個人に偏らずに配分すべきであり、特定の個人に偏って配分すると結局は年度末に使いきれずに研究費不正がおこる温床となっている。各省庁での研究費も全てを見通して偏りが少ないように配分すべきである。基礎研究にも予算を配分して欲しい。日本の研究力の低下が心配である。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
- 136 大型共用研究施設では、利用申請の審査の上、広く研究者に利用を行っている施設がある(例えば○○○○○○○○○○機構【大学共同利用機関法人名】)一方で、一部の研究者のみが寡占的に使用している大型設備もある。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 137 効率的な研究環境の見直しが必要だと思われます。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 138 直ちに産業化、事業化に繋がらない、マイナーな基礎研究に対する研究資金の配分が少ないと感じる。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 139 人件費を賄う安定資金がないことで、事務方の人手不足に伴う研究者の事務負担が増加している。また、研究室あたりの研究者数を減らしていることで、マネジメント業務が増えており、研究をする時間が減っている。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 140 政府による大学機関への運営交付金の減額が厳しく、年々研究費が減額されていく一方である。そんな中、少子化が進んでいるにもかかわらず、新たに大学を設置する必要はないように思う。以下の負のスパイラルに埋もれていきそうで不安。政府の運営交付金減額→大学は人員削減→一人当たりの講義数や事務作業増加→教育・研究の質の低下→科研費等の外部資金が当たらない→研究できない→教育だけに絞る→大学からは業績不足とみなされる→基盤研究費がさらに下がる(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 141 基礎研究および挑戦的研究に対する資金が少ないと感じる。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 142 共通機器に関して、それらを保守する費用が皆無であることと、専門の技術職員がいないため、活用されていない例が目立つ。研究に関わる事務職員の能力が低すぎる。例えば英語の書類の英訳が求められることがある。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 143 科研費などの採択率や大学への助成金をもっと上げるべき。日本の科学技術の衰退を危惧してしまう。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)

- 我が国の研究環境の劣化と研究資金の自由度のなさによって、萌芽的な研究を興して、それを遂行する人材を育成することはほぼ不可能である。スポーツなどと同様に、裾野から人材や組織を育成することが、研究競争力の強化には不可欠であるが、研究の集中という名のもとに育成に必要な環境整備や研究資金がまったくおざなりにされる傾向にある(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 144
- 145 科研費の採択率が下がっている印象を受ける。要望額から減額されてもいいので、採択率を上げて欲しい。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 146 間接経費の割合については高すぎる。というか、間接経費の効果を感じられない使い方になっていると思う。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
- 147 研究資金がごく一部の研究者に集中しすぎていると感じている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 148 わが国の研究力低下が懸念される。このままでは世界をリードする研究成果は出にくくなる。研究費の増加を期待する。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 149 研究とたとえば管理業務とのエフォート配分に困難が生じる場合が多い。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 150 運営費交付金の削減により、環境も資金も悪化している(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 151 経済優先の国策のひずみが如実に表れている。本質的な打開策が必要。研究資金の見返りとして短期的な成果のみ求める傾向がある。改善を望む。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 152 URAの雇用を積極的に推進したいが、私学には助成制度がない。研究大学採択大学には、雇用人件費が計上されている。私立大学にも経常費補助金でPD,RA等に雇用補助があるように、URA雇用補助を期待したい。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 153 年度繰越や使途範囲の拡大等が緩和されつつあるが、事務手続きの管理工数が増えたため、経費が増加した。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 154 外部資金の中には間接経費が充当される物もある。その場合には、研究者にも間接経費として配分できる仕組みを作ってもらいたい。外部資金で賄いきれない部分を大学運営経費にて充当したいが、その経費の減少が続いているために、外部資金を獲得しても、研究が有効にできない場合もある。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 155 大学が独自に機能強化を進める上で資金的余裕は乏しく、間接経費率は現状よりも高い水準が妥当と考える。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 156 競争的資金の獲得に伴う事務的な処理量の増加も研究者並びに事務職の負担となってきている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 157 研究者として最低限の研究資金が確保されないと研究者の多様性が担保されない。広く薄くセーフティーネットを張ることの重要性を国の予算配分の中でも考慮してもらいたい。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 158 施設の老朽化、機器の更新などに対する措置は、旧帝大においては速やかに成されているようですが、地方の国立大学においては、ままならない状況であることは変わりません。文科省と相当のやり取りがあつてようやく認められるということで、それに費やす雑務の為の時間は、研究者の大きな負担となっていると思います。研究資金にしても、重点配分の必要性は認めるものの、長期的視野に立って育てていく研究もあるので、ある程度の最低ベースを各研究者が確保出来る仕組みを整えて頂きたい。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 159 研究環境については、施設、設備とも老朽化陳腐化が目立ち、最先端の研究推進ができる環境とは言えない状況。共用設備の活用については、設備サポート事業など文科省の支援を受けながら環境整備を図っているところ。研究資金については、運営費交付金や学納金を財源とする基盤研究費は激減しており自由に使える研究費が極めて少ない状況。個々の教員の外部研究資金の獲得努力のほか、大型の競争的資金等の獲得については組織的に戦略性をもって取り組んでいる。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 160 研究者の研究をサポートする人材がいない、あるいは少ない(ポストドク,大学院生)(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 161 大型機器の全学的な共用のためのバーチャルな研究センターのようなものを構築する構想が始まった(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 162 URAの雇用を積極的に推進したいが、私学には助成制度がない。研究大学採択大学には、雇用人件費が計上されている。私立大学にも経常費補助金でPD,RA等に雇用補助があるように、URA雇用補助を期待したい。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 163 研究資金が実用的な研究に偏っている。基礎研究に幅広く支援する必要がある。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 164 研究資金については、「基礎研究」礼賛でありミッションの明確化十分ではなくややバブル気味ではないかと思われる。特に競争的研究資金の公募では研究課題の企画に幅広く産業界の意向を取り入れて目指す点の明確化を進めてゆく必要がある。公募課題の評価などでは、目標値を達成しているとは言え、その目標値の設定時の検討から全く世界の動向や産業界の意向が反映されていないものがあるように思われ、研究環境や研究資金の準備が「基礎研究」だけのための研究が散見される。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 165 公財政支出に占める科学技術予算が少なく、官民格差が著しい。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 166 競争的資金を獲得するための競争(倍率)は年々高まっている。研究資金を獲得した場合、研究成果に対する要求が高まっており、かつ短期間で成果を求められる傾向にある。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)

- 167 研究資金よりも研究従事時間の確保のほうが喫緊の課題(大学,第3G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 168 科研費総額の半分が一つの大学に行っている(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 169 基礎自然系の多くの教員は大学院の教育・育成に科研費等の研究資金を使っている.この状況は純粋に研究を学びたい学生でも,教員の外部資金獲得が無ければ学べないことになり,学生側にとっては理不尽な問題が生じている.大学院への進学率も低下している.(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 170 大学内の基盤的研究費が絶対的に不足しており,基盤的な実験機器・設備等の維持・更新ができない.本来,新たな機器等の購入に当てるべき競争的研究資金でなんとかしのいでいるのが状態である.さらに競争的研究資金は公平である,という意見もあるが,そもそも学生の研究意欲や能力があまり高くない地方大学等と,それらが比較的高い上位大学では,同じ条件でも必然的に上位大学の生産性が高くなり,資金獲得も上位大学に集中するのは自明である.このままでは近い将来,地方大学等では基礎研究はできなくなる可能性が高い.また,特定の研究項目に研究資金が偏っており,それに合わない研究では研究資金を獲得しづらい.そのため,新たな研究の芽が育たず,結果的に日本の研究力がますます低下すると予想される.(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 171 近年,大学の予算の削減により,研究費が不足している研究者が増えていると思います.一方で科研費の各種目での上限金額は増えておらず,しかも最近は大体3割りカットなので,みな予算不足です.(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 172 超大型の研究予算がごく少数の研究者に与えられる一方で,生命科学研究には全く不十分な研究費しかない研究者が大半を占める.また,応用に繋がると見えない研究には研究費の配分が少ない,という現在の状況は,我が国の科学の発展に悪い影響を及ぼしている.(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 173 トップダウン型の目の利潤を追求するプロジェクト研究を減らし,ボトムアップの研究を活性化するために基盤的研究費を増やすべきである.ただし,基盤的研究費も配分に際しては研究の活力(論文数など)を評価した上で,傾斜を付けて配分すべきである.悪平等にならないように配慮が必要.(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 174 研究資金の偏りが問題だと思えます.あるところにはあるが,ないところにはないという格差が大きくなっていると感じます.より平たく平等に分配することで,育つかもしれない芽を救うことになるのでは?と思います.(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 175 ここ何年かノーベル賞受賞者などが日本の基礎研究の環境を危惧した発言が続いている.それは20年以上前から言われてきたことだったが,政府は聞く耳を持たなかった.今はノーベル賞が続いているが,この10-20年の教育,研究政策の報いは今後来るので,それが怖い.(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 176 基幹的経費が増えることはない.一方で重要な外部資金獲得手段である科研費の申請が不用意に変わってなお負担になった.企画側がこのような申請を我々研究者がどのように捉えているかを知っていない感じが今回の申請方法の変更で感じた.(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 177 現状は政治的に強い一部の研究者に大型研究費が集中している.挑戦的研究ができるよう,(特に若手には)ある程度のバラマキ型研究費が必要ではないか.(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 178 年々高騰する電子ジャーナルの費用や装置の管理など,資金は必要となっていくが,そのサポートはあまりにも乏しい.(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 179 現状では科研費を頂いているので,なんとか研究活動ができています.しかし,科研費に採択されないと,論文を購読し1本論文を書くだけで経費を使い切ってしまう,研究活動が滞ってしまう.このような状況が心理的に大きな圧力をかけている.(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 180 所属大学では資金不足により,昨年から複数の有力出版社の論文に関してフリーアクセス権を放棄せざるを得ませんでした.最新の情報へのアクセス権を失うということは研究機関として致命的な問題ですが,多くの研究機関において同様のことが起きており,国全体の研究力の低下を招いている一因となっています.出版社側の問題も大きい一方,このことに関し国として対策する必要があると考えます.(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 181 毎年,運営交付金が減少していく中で,装置の維持もままならない(故障した装置も修理できない)状況で,まともな研究環境であるとは言い難い.(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 182 大学から配られる研究費は少なすぎて何もできない.外部資金も一極集中が進みすぎているように感じる.また,成果発表のオープンアクセス化が求められているが,そのために必要な追加の資金がどこからも出てこないのは全くおかしい.(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 183 「選択と集中」はやめてほしい.その分を広く配分するべき.たとえば運営交付金や科研費基盤Cの増額(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 184 設備の老朽化のために現代が求めるスピード感とは程遠い.消耗品レベルの研究資金であれば調達することも可能であるが,設備レベルでは一人では限界がある.これらを更新するには組織レベルである程度の資金が必要であるが,昨今の経費節減のためはそれも難しくなっている.そのような状況下でも,研究を促進できるようにアイデアを出したりや工夫したりしているが,それでも限界もあるため,全体的に閉塞感を覚える.(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 185 研究資金では引き続き厳しい状況が続いています.研究費が少いと,それに応じて,学生に提供できる研究機会自体が減るため,研究と教育の質が同時に下がって行きます.最低限ランニングコストを賄えるだけの予算が確保された上で,さらなる挑戦のために外部資金が獲得できるのであれば理想的だと思いますが,最低限のランニングコストを賄うための外部資金獲得が主な目的になっている気がしています.(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 186 短期の研究成果が研究資金の獲得に繋がっている現状を考え直す時期に来ている.10年,20年,30年のスパンを考えた施策が必要である.(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)

- 187 非競争的資金の減額が、日本の科学技術の土台を揺るがしているのではないだろうか。非競争的資金には、確かに無駄が多いが、それ以上に長期の基礎的な研究をサポートし、研究シーズを育てる意義が大きい。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 188 運営費交付金から研究費を確保してきた昔の方法は多様性の確保やすぐに結果が出ない研究を継続する推進力になっていました。昔の官僚は、頭が良く日本人に合った方法を考え抜いて制度設計していたのだとつくづく感じます。改革した偉い先生方への付度はせずに早く元に戻した方が良いでしょう。あと10年でつげがきそうです。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 189 イノベーションエコシステムが強く叫ばれているが、エコという横文字に騙されて、それが超競争社会、自然淘汰の社会、世知辛い社会の醸成であることに気が付かなかった。あらゆる場面で人材育成が以前にも増して強く求められるようになったが、研究と教育とは一体であり、エコシステムを導入することには違和感を感じる。環境も資金も、人材育成という観点で全体的大幅な底上げを図るべきである。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 190 研究室を安定的に運営する資金が年々縮小され、厳しい状況にある。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 191 競争的研究資金等の効果について定量的な評価を試みるのがいいと感じている。また、過去、日本の研究レベルは今より高かったといわれている。なぜだったかの検証が必要と思う。施策の時系列の評価、過去からの学習、ほかの国からの学習をもっとすべきであるかと思う。退官後の教員、研究員などを使えば、経費も少なく、できるのではないかと思う。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 192 有識者会議で指摘されている基礎研究の不十分さは否めない。近視眼的研究成果を求める競争体制は真の国際競争力を失わせる。何か技術の隔絶が起こった場合に対応できなくなる。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 193 研究あるいは資金の選択と集中というが、適切ではない。寡占状態になっている。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 194 例えば科研費では基盤研究(B)以上の採択率をもっと高めて欲しい。大型プロジェクトに属さなくても研究・開発が行えるような3年間で1500万円程度の競争的資金を増やして欲しい。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 195 研究資金の配分が一部の研究者に大きく偏っていると感じる。すでに大きな研究費を持っている研究室に追加で大きな研究費を与えるよりも、いいアイデアを持っているが資金の不足している若手に大きな研究費を与えた方が色々な意味で効率的である。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 196 競争的資金の拡大は評価できるが、資金獲得に対する事務的な業務の増加、自立化、短期間の雇用者の確保、プロジェクト終了後の処遇等、本業以外の業務に忙殺されている。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 197 任期付きという環境での研究活動が行われているが、その結果、日本の大学力は低下していると思われる。毎年研究費が削減されておりこれらを補充するために民間からの外部資金(共同研究)の獲得が求められる。共同研究は産学連携を進める上で良い面があるが、一方、成果の取り扱いなど、扱いにくい面もある。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 198 研究資金は国立、私立の別無く公平に配算されているか。また日本中に蔓延している悪平等の制度を払拭すべく動いて頂きたい。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 199 間接経費が研究環境補助に充てられておらず、単なる全学経費になっている。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 200 科研費の30%が間接経費として取られ、余っても資金を獲得した代表者には全く戻ってこない。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 201 大型研究に研究費を費やす「選択と集中」の結果、日本の論文数や研究のインパクトは、他の主要国が軒並み増大するのは逆で、減少し続けている。これは、2000年以降における研究費の分配方法「選択と集中」「運営費交付金の削減」が間違っていたことを示している。私立大学の教員であるが、国公立大学の教員から聞く苦悩は、研究とは全く異なる次元の話である(私立大学も大きな影響を受けているが)。単純でわかりやすい「選択と集中」ではなく、日本の研究・教育環境を丁寧に分り、基礎研究を重視するという観点から研究費の分配方法やあり方を考えるべきである。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 202 研究機関が何らかの手段で研究費の強制(科研費などの公募を、本人の意にかかわらず促進すること)をしているのはなんとかならないかと思います(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 203 研究資金配分に審査は必要であるが、不採択によってまったく研究ができない状況は疑問である。研究するための資金調達、資金調達が目的となり、その業績で評価されるのは、目的と手段が逆ではないか。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 204 地方大学で研究することに、限界を感じ始めている。有り難いことに国内外、産学官から共同研究の話多数頂戴しているが、既に10件を超え、私1人の体力でどこまで持つか自信がない。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 205 設備は整備されているが、スペースが狭小であり、研究活動が限定されることもある。研究資金は、公募型を除けば不十分であり、恐らく基盤的資金だけでは研究はできない。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 206 校費からルームチャージと電気代が徴収されるとほとんど校費は残らない。また、外部資金を獲得するための書類作成に時間をとられ、新しい研究を展開する余裕がほとんどない。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 207 国からの研究資金が削減され、競争的研究資金を獲得しないと研究できない状態にある。今年度は科学研究費が不採択であったため、研究費が底をついてしまい、進捗は臨めない状況。急いで共同研究を探しているが、最新の研究は行えない場合が多く、食いつなぎのためのアルバイトと化している。何か救済策を検討願いたい。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 208 研究室の講座制をやめてほしい。教授は同じ講座の准教授や助教が出す成果に乗っかっているだけで実質研究を行っていない場合が多々あると感じる。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 209 大型測定機器等の経年劣化が著しく、更新・維持のための(概要要求等大型の)予算がつかないと研究が立ちゆかなくなる(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 210 問2-03でも書いたが、非正規雇用の研究支援者が5年で雇い止めされている現状はどう考えてもおかしい。正規職員のポスト数をむしろ減らして大学で、5年で正規雇用にできる目処もほぼ無いにも関わらず、何故この制度を受け入れたのか、理解に苦しむ。名誉教授とか、特別荣誉教授とか、そんな名目で退官した教員を雇い直すくらいなら、こちらに予算を割くべき。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 211 運営交付金が減少するなか、競争的資金の間接経費を増やしていく必要があると思います。但し、最初から減額が前提となる経費申請の現状(科研など)はよくないと思います。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 212 大学から配分される研究費は今年度は微増した。しかし、雀の涙ほどである。資金獲得のプレッシャーが大きい。研究についてじっくり考えたりできないことが度々ある。ある程度の基盤的研究費が大学内で各教員に配分されるように、国には予算の拡大をお願いしたい。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 213 大学から配当される基盤的経費は少なすぎて、ほぼ意味がない。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 214 研究設備、機器の老朽化が深刻(大学,第3G,農学,社長・学長等クラス,男性)
- 215 古くなった設備や機器の更新が資金不足で困難になっている。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 216 基盤的経費の削減は限界に来ており、競争的資金への依存が極端に高まっている。そのため、若手研究者が競争的資金獲得のため、短期的成果が出る研究にますますシフトしている。中長期的に日本の科学技術のペースが崩壊するのではないかと危惧している。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 217 大学への運営交付金が減少し、競争的資金への依存が増えている。そのため、継続的な研究、特に基礎的な研究や時間がかかる研究を行う環境が確保されていないため、研究力低下や学生・院生への研究面のサポート力の低下が強く危惧される。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 218 科学技術は日本の未来の根幹であることから、少なくとも予算の5%程度は必要ではないか?(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,女性)
- 219 講義日数も多く、実習などもあることから教育活動および事務仕事で1日のほとんどの時間が失われる。資金の問題も大きいですが、研究の質を高めるためにも、教育への負担の減少が必要である。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 220 研究費の分配や研究環境(特に機器)に関して、大学や研究室間で偏りが見られる。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 221 大学では外部資金の獲得が強く叫ばれているが、一方で外部資金を獲得した研究者への間接経費の十分な還元がないため、結局、直接経費では外部資金の目的外として調達できない研究室で使用するPCのような備品も購入できないということに陥っている。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 222 研究を進める上で、既存機器のメンテナンスにかかる費用ですら全く足りないだけでなく、電気などの使用量すら制限がかかっており、末期状態に陥っている(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 223 間接経費のうち、大学運営に使われる割合が多すぎるため、モチベーションが上がりにくい。3割程度は研究者の裁量で使えるようにして欲しい。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 224 基盤的研究費が削られている状況で、外部資金を確保できなかった場合に研究水準を全く維持できなくなる。そのしわ寄せは教員だけでなく、学生の教育・研究にも及んでいる。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 225 研究費より時間がない。私大は学生が多く教育(研究でなく)に費やす時間も長い。研究費についてもそれにとまらぬ事務作業が煩雑すぎる。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 226 運営交付金の分配が大変少ないため、外部資金に教育と研究室運営を頼っている。このまま国からの分配が少ない状況が続くと、日本の研究はこれ以上に失速する懸念がある。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 227 「競争的」ではない研究資金の拡充が必要。大学あるいは学部として研究を行うための環境整備と維持に係る経費について、研究者個人の稼ぎに頼りすぎている。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 228 将来を見据えた研究支援のために、目の当たらない研究にも予算を配分できるシステムが必要。現状、流行りの研究やすぐに成果が出そうな研究に予算が流れている傾向を感じます。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 229 競争的資金獲得の為の書類作成や、獲得後の事務処理に非常に多くの時間と労力が必要で、実質的に研究に割リソースが減少していると感じている。個人の研究者が簡素な事務手続きで、年間100万円程度の研究費があれば、有り難い。現在の地方大における博士課程において、国内の学生が進む事はまれであり、優秀な学生ほど、就職する傾向が強い。地方大の博士課程に魅力的なキャリアパスが必要と感じる。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 230 間接経費は、取り扱いには施設の環境整備と研究者の環境整備と両方が記載されているものの、結局大学での管理になるので、大学内でばらまかれて本来の正しい使い方がされていません。特許経費あるいは文具さえも、間接経費でしか出せない(直接経費では出せない)ので、間接経費が本来の競争的研究費を獲得して、それを進めるべき研究者に正しく還元されておらず困窮しています。間接経費の取り扱い(省庁合意)を変えて、必ずそれを取得した研究者にある程度還元する、ということを明記することが一番だと思います。また研究に関する人事も、研究費の取得(つまり客観的外部評価を受けた公正性)に基づき行うよう、国レベルでの指導がなければ、地方大学での自治は難しい、結局は日本全体の研究が停滞すると思います。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)

- 231 論文のオープンアクセス化の交渉は、欧米のようにグラントを配る側が行う方がよいと思います。(例えばJSPSからのグラントを得て発表する場合は、全てオープンアクセス化する、などの方針を作れないのでしょうか。)ジャーナル購読料の高騰により、大学内で閲覧できるジャーナルの数がどんどん減っている。大学間格差も広がっていると感じています。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 232 研究機器が故障した場合に、1)ちょっとした修理費の確保が難しく埃をかぶるケースが目立ちます。2)ヘビーユーザーが異動や退職でいなくなってしまう場合に、他に利用者もいないために、十分使えるにも関わらず、埃をかぶるケースもあります。2)の場合、特に同じ施設(大学)内でユーザーがいない場合は、それを必要とする他施設への融通や譲渡ができるようになれば、せつかくの装置が無駄にならずにすむのにと思うことが多々あります。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 233 科学研究は国の柱です。明日に成果は出ませんが、10年先の国力をきめます。政府の各階層がその理解をしていただきたいと思います。一方で、大学についても、定員割れを起こしている大学も増えています。スクラップ&ビルドも必要なのでは。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 234 研究環境と研究資金の状況は、ごく少数の特定の分野に偏る傾向が年々増加している。一方で、特定の分野以外(大多数)では研究環境と研究資金は年々状況が悪化している。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 235 プロジェクトの枠が画一的であり、短期間での研究成果を求める傾向に拍車が掛かっている。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 236 基礎研究への過度な集中配分により研究現場が疲弊している。AMEDの予算配分が〇〇〇〇Bに牛耳られており、身内にしか配分していない。しかも業績なものにまで配分している。科研費の改革により業績欄をなくしたため、その傾向に拍車がかかっている。現場では10年後にはインド、インドネシア、タイに科学力で日本は遅れをとると危惧している。(既に中国、韓国の後塵を拝している。)これは基礎研究に広く予算をつけないことがもっとも問題である。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 237 iPS細胞研究などに偏った研究費配分がされ、広い範囲の研究資金になっていないように思われる。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 238 大学へ配分される運営費交付金が年々削減されるため、削減率以上の負担が学部で課せられている。歯学部各講座への配分額は約30万円(大学によっては、100万円を大きく超えている)となり、講座所有の備品の修理や維持費に費やされ、研究費はもとより、教育用品なども購入が困難となっている。学長の要求は、外部資金を獲得し、それで研究を行うようにとのことで、研究ができなくなると外部資金も獲得できなくなり、負のスパイラルに突き進んでいる。今後、配分額はさらなる減額とのことで、教育さえできなくなると考えている。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 239 日本は研究や技術に投資しなければ国家として成長が難しいのではないかと思います。多様な研究を支える研究環境(人事制度)や研究資金は重要だと思います。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 240 当大学は地方大学の割には研究機器は揃っているように思える。一方、研究費については大学からの支援はほとんどないため、外部資金がなければ研究はできない。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 241 iPSや癌研究など、すでに研究者が多い分野に研究資金や環境整備が偏っている。研究者がまだ少ない分野への継続的な支援が行われていない。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 242 基盤的経費が必要不可欠、新しい課題にチャレンジするための研究費の準備が困難。他課題研究費を流用することも問題あり、類似課題に使用できないことに問題ある。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 243 基盤的資金として論文発表の件数など成果に応じて最低限確保され、増える仕組みが必要です。現在の競争的資金は、ギャンプル性が高く「当たった」とか「はずれた」という表現で多くの研究者が話しています。これは健全ではないと思います。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 244 大学からは研究費が来ない。寄付を募ったり、民間の共同研究を受託して研究費を賄っている。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 245 研究環境整備や研究資金配分に関わると高齢の先生方には、それぞれの先生方がこれまでに置かれてきた環境と、若手研究者が今置かれている環境との違いがあまり伝わっていないように感じる。多数の先生方が、研究環境整備(大学の中期計画への対応なども含む)や研究資金配分(科研費審査など)などのマネージメントで忙殺される中、どうしても場当たりのになり、今の環境への理解、将来の姿の想像、そして何より、研究に対する創造性自体も失われていっているように見える。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 246 私は附置研に属していますが、共通機器の更新がここ数年全く無くなってしまっています。高額な機器を単独分野で購入することは出来ないで、研究所全体の共通機器として購入するのが良いと思いますが、個人だけでは無く、共通機器の予算を拡充して欲しいと思います。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 247 研究費の分配に偏りがあり、優秀な若手研究者への研究費が行き届いていない。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 248 競争的資金を増やした為、研究よりも書類仕事が多くなってしまふ。また額よりも期間を延ばしてほしい。たとえば、2億円/年で5年間で総額10億円出すよりも、1億円/年で8年で総額8億円の方が無駄な支出が減ると思う。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 249 研究資金については、業績を出すことで獲得すべきであることは多くの研究者が認識している。ただ、〇〇〇【大学内部組織名】全体で研究費を獲得する方向ではなく、個人の裁量に任されているため、もう少し大学主導での研究費獲得の努力が必要と感じている。研究環境については、施設の老朽化が著しく、特に本学では〇〇〇【大学内部組織名】の研究施設の老朽化はかなり進んでいる。ただ、大学の事情ではあるだろうが、〇〇〇【大学内部組織名】ではない研究科の施設整備はかなり進んでおり、その点平等な研究施設整備を進めていくべきではないかと考える。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)

- 250 研究者が科研費等の競争的資金に応募して、外部資金を調達するのは当然、行うべきことだと思いますが、ステップアップを図るために、上位(または大型)の研究費に挑戦した時に、失敗すると現状の基盤経費に含まれる内部研究費のみとなり、これでは実際、積極的な研究活動に著しい障害が生じます。今回、私自身がそれを体験いたしました。このような場合を考慮し、基盤経費が十分あるか、またはそういうチャレンジをした人を対象に救済経費の設置等により、研究者の挑戦をサポートしてもらえる体制があれば、より多くの人が挑戦することで、研究の内容を発展させるチャンスを得られるのではと考えます。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 251 科研費改革の目的や変更点が浸透しつつあり理解は深まってきている。一方、採択率30%の目標が小区分単位で実行されるとすると、以前の細目でも見られた問題であるが、その区分内の採択基準(採択レベル)が一定かどうかの検証が行われずまま審査が進むことになる。もちろん、分野により研究者の業績等の評価方法は異なるので一概に数値で標準化することがいいことではないが、応募数がそのまま母数となって採択率3割で採択数を計算しているのか、という点については疑問が残る。例えば、明らかに応募数の水増しと思われる劣悪な申請書類は母数から除外するなどの処置は必要ではないかと考えられる。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 252 研究費の額は他の先進国と比較して充分でないにしても、すごく不足しているわけではないと思う。しかし、少数の組織の少数の有力研究者が多額の研究費を占有している感は否めない。新学術領域のグループ研究や、AMEDなどのトップダウン研究の傘下に入らないと研究費が不足するような事態は良くないと思う。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 253 間接経費は大学(学部)のローカルルールにより、直接経費獲得者にほとんど反映されていない。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,女性)
- 254 どんどんと研究費は削られ、また、取得しても様々な制限が多く、自由な研究活動を妨げている。また、大学自体のトップの考えによっては非常に研究活動がしにくい。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,女性)
- 255 基礎研究に分配される予算が少なすぎる。集団の研究ばかりでなく、個人の研究を大切にしないと次世代の研究の芽は出てこない。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,女性)
- 256 看護学部の教員の研究環境、時間を確保しないと、他の領域に比べて、国際的に研究の発展が遅れると思います。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 257 研究資金が減少している背景の中で、補助金獲得にシフトした研究となっていることが懸念される。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 258 基盤的経費(機関の内部研究費)による研究資金は不足していると言わざるを得ない。一方、若手に見られるが、ハングリー精神が不足しており、大型プロジェクトに手を挙げない傾向がある。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 259 ・本学の研究環境については、キャンパスマスタープランに基づき計画的に改修更新を図っているが、予算措置は十分とは言えない状況である。なお、学内スペースの有効利用促進のため、全学的共同利用スペースや学長裁量スペースの拡大を進め、スペースチャージ制による運用を図っている。・本学では、共同研究等に係る間接経費の計上について対応手続きを進める必要があると考えているが、現状では対応する人員不足のため困難な状況である。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 260 研究資金は各人で確保してください、というのは非常に心苦しいが、現状はそのようになっている。基盤経費としての研究費の確保がどうしても必要であると思う。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 261 日本の科学技術基盤を支える「科研費」は、日本の将来に投資する意味でもきわめて重要で、「増額」が必要である。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 262 運営費交付金の減少と科学研究費の増加では、トータルで減少している。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 263 大学院博士後期課程の学生を雇用することによって学生数を増やす努力をしないといけないが、今の研究費では雇用するには少なすぎる。1件当たりの研究費の額を増額することによってこの問題を解決しないと日本の未来はないのではないかと。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 264 大型の研究費には、無駄が多い(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 265 国の科学技術に関する予算の適切な配分の選択と過度にならない集中がより必要になると思われる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 266 過度な重点化ではなく、一定水準以上の研究能力を持つ教員にだけ、広く研究資金を分配すべきである。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 267 一部の助成資金では、間接経費が零となっているので、一定基準の枠組が必要であると思われる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 268 研究経費の減少に伴い、補助金を獲得するための研究にシフトしていくという懸念がある。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 269 基盤的経費が縮小され、その分競争的経費が拡大し、申請書の作成や成果報告など研究以外の仕事が増えている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 270 政府の公募型研究における間接経費を含めて、外部資金の提供者からも、間接経費への理解が乏しいと思われる。間接経費であっても、その用途が研究テーマに直接関わる内容かどうかを問い、かつ証拠書類の提出を求めてくる場合もある。本来的に、光熱水料や部屋、装置の維持管理を含めて研究環境の基本使用料であったり、研究費の資金管理などの事務経費として扱われるべきことを徹底してもらいたい。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 271 研究資金の獲得倍率が年々増加している。審査の手間も増え、結果採択にかかる時間が減る採択審査の質が落ちる、=コメントが単純化。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)

- 272 今後、設備の老朽化に伴う更新が大きな問題になると予想される。基盤的設備の更新のための予算配置も考慮願いたい。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 273 研究機器等が老朽化して、世界の最先端の研究競争に負けると思う。大学の概算要求で要求しても機器の購入・更新等が実現できなく、将来が危ぶまれる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 274 一部の研究に大型資金をつぎ込むのはよくない。広く薄く資金を配布することも大事。(大学,第4G,社長・学長等クラス,女性)
- 275 研究設備については、共同利用・共同拠点設備の活用や学内予算で共通の研究設備を計画的に整備するなど工夫できる余地はあると思います。研究時間の確保については、業務運営責任者の役割を明確にしてマネジメント能力の向上を図り、数多くある委員会を整理していく必要があると感じています。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 276 現在の研究予算の年度繰り越し制度は実用的とはいえない。研究予算が全体的に減少する中、欧米のように研究機関全体での管理による研究執行の柔軟化によって少ない予算の効率化を図る必要がある。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 277 私の属する工学分野においては、素材研究・基礎研究(TRL1~3)にくらべて、応用研究や実用化研究(TRL4以上)への支援が少ないと感じる。科学技術研究が取り組むべき対象をもっと広く設定してほしい。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 278 地方大学には予算がない(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 279 ハードウェアの整備は行き届いているが、その維持管理,更新に関しては後手。箱物公共投資に近い状況。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 280 政府予算の総額は十分だが、馬鹿げた研究モドキを選択し集中的に資金を投じている現状を変える必要がある。そのためには科学技術イノベーション会議の廃止が必要。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 281 大学における研究環境は益々悪くなってきており、研究に必要な分析機器類なども含めて老朽化も進んでおり、大学で先端的な研究はむつかしく成ってきている。研究資金については、特に大学からの経費は少なく、シーズを掘り起こすような研究を行うのが難しい状況である。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 282 研究においては、当初の計画から変更する場合は非常に多いが、研究資金計画からの変更は、当初の研究計画の欠点では無いと認識してほしい。予算返上や、追加予算申請が容易な研究資金制度を用意してほしい。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 283 同じようなテーマに集中して資金配分されるので、研究者が、数年単位でテーマを大きく”はやりのテーマ”に変える傾向にある。これは、成果の実用化から見ると、大きな社会的損失である。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 284 特定の研究者や施設に資金が集中する傾向にあり、これからの人材が育っていくための資金援助が十分でない(大学,第4G,部長・教授等クラス,女性)
- 285 研究に必要な物を購入しているのに、そのために揃え、提出を求められる書類が多すぎる。また、そこまで書かないといけないのかという(本質的とは思えない)細かい理由書きなども多すぎる。そんなことのために、研究者の時間と、事務職員の時間(=人件費)を浪費するのは大変な無駄である。(大学,第4G,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 286 4月から新しい大学に移ったが、前にいた大学に比べると研究施設・設備はやや不十分と思われる。ただ、他大学の研究者との共同研究などにより、現在のところはその点は大きな問題ではない。また、利用できるデータベースやオンラインで閲覧可能な論文の種類も限られる。幸いに、現在のところ研究資金はある程度あるため、大きな問題はないが、将来的にはやや不安を感じる。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 287 競争的資金で購入した設備などが資金の途切れた後に故障した場合、大学によっては修理等が困難な場合がある。そうした維持のための共通した経費があるといいかと思う。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 288 競争的資金が切れると、研究ができなくなる。学校からの資金は毎年減っている。申請書のために多くの時間を費やす。研究時間が足りない。学生のモチベーションが低い。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 289 研究環境は悪化の一途で、予算が無いので研究設備に更新どころか維持もできなくなってきた。また資金が無いので、研究補助員どころか、研究自体が立ちゆかなくなっている(研究資料・試料などの購入が不可能)。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 290 研究予算の傾斜配分が強まり、富むものは富み、貧するものはさらに貧する。大学を4タイプに分け、土台から頂点を支える仕組みを崩壊した。土台と頂点のピラミッドがタイプごとに発生し、研究型大学の底辺が疲弊し、地方型大学の頂点が楽をする(?)。日本の科学研究がこの大学タイプを超えたピラミッドで支え合ってきたことを否定した。高等教育予算はGDP比でOECD各国の平均値である1%を目指すべき。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 291 幾つかの研究拠点となる大学以外では、研究ができる環境ではない。ただ、研究大学で育成された若手研究者はそれ以外の大学に就職することが多く、いい研究成果を挙げたものが大きな大学に職を得る流れができていない。そのため、切磋琢磨することができない。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 292 日本で、大学共同利用機関と称するところが、予算配分も多く、結局は無駄に、そこにいる人たちが90%くらい得るように使われている。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,女性)
- 293 今年のノーベル賞受賞者からも意見が出されているように、国レベルで科研費,JST等の総予算を増額し、採択率を上げる方向へ動くことで、基礎研究全体のボトムアップ,裾野の広がりを図ることを切に希望します。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 294 本学では大学から支給される研究費は業績や外部資金の有無にかかわらず教員一律同額である。研究能力に応じて傾斜をつけて配給すべきで、研究費を一律均等に分配するのは効率的に使用できておらず不公平でもある。研究費は不足しているが、研究費を増額し単にばらまくことには反対である。研究費を使用する側もしっかり勉強し、研究のトレーニングを十分に受けた者のみが使用できる制度を構築した上で研究費を増額し適材適所で使用すべきである。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 295 与えられた研究環境で全力を出す,というのも一つの才能ではないかと思えます。その点,恵まれていると思えます。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 296 研究環境についてはその土地土地特有の問題もあるので,なんとも言いがたい面もあります。研究資金については,国が設定する科学技術研究費の総額としては満足とは行かないまでもある程度十分であると認識しておりますが,現状そのほとんどすべてが競争的資金であることが大きな問題のひとつと思えます。現状運営費交付金として配分される予算で研究ができるような状況ではないため,すべての研究者が世間受けのよい,派手な研究で競争資金獲得に動いており,ともすれば地味で世間受けの悪いが長い目でみると科学技術の根幹を成す重要な基礎研究にきちんと注力している研究者が減っているように感じます。この状況が継続されると,ノーベル賞を多く獲得していた事実など,過去の栄光となり,世界から置き去りにされ,相手にされない国に成り下がってしまうことが危惧されます。それを回避するために,世間的には無駄と一刀両断されそうなのですが,少なくとも国の機関である国立大学の研究者がある程度外部資金を獲得できなかった場合でも,贅沢を言わなければ,基礎研究を行うことができる一定の予算を配分するほうがよいように思います。競争的資金を獲得すればよいといわれるかもしれませんが,そもそも研究ができないければ競争的資金を獲得するために必要な成果も上がらないわけですから,特に若手の研究者が資金獲得することはできないと考えます。限られた予算の中からの配分ですから,難しいのは重々承知しておりますが,ご一考いただければと思います。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 297 基礎研究の分野の研究資金がかなり不足している。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 298 研究資金が少なく,出張等にも行けない状態が続いています。外部からの研究資金を得るために研究分野を変えることを要請されるなど,研究者の知的好奇心に基づく自由な研究環境からは程遠い状況です。(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 299 公募型研究の間接経費は全額大学(1/2大学本部,1/4学部,1/4系)に吸い上げられてしまうため,研究設備の修繕や充実などに使用可能なはずの間接経費が全く使用できないという現状は大きな問題に感じる。また大学からの公費は現在年間で10万以下となっており,外部資金を獲得しない限り全く何もできない状況にも大きな問題があると感じる(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,女性)
- 300 研究費の多くの部分が,大学ではなく,企業等に流れている状況は,日本における基礎的な研究基盤の脆弱化を招いている。また,国立の研究機関へも多くの資金が,大学から見ると簡単に交付されている状況は,日本の研究レベルを押し下げる要因となっている。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 301 総額よりも,紐付きで合理的な支出を認められにくい(事務局判断に回しても意味のあるタイミングで返事がない)資金が多い。また,人件費に使える部分がまったく足りない。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 302 研究費が毎年少なくなってきました。そのような環境に適応して研究しています。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 303 研究資金の配布額が,毎年単位で,細切れになる傾向がある。2~3年の範囲でまとめて支給される方法,やや高価な設備を購入する上で,有効と考える。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 304 競争的資金にすることの弊害は大きすぎる(成果の短絡化,深度の低下)。そのことを政府はよく理解すべきである(全く現場の声が反映されていないことは極めて不当であり,反映されないならこのような調査時間を割くことは無駄以外何物でもない)(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 305 競争的研究資金の部分は必要ではあるが,一方で,ベースとなる固定的な研究資金もそれなりに確保されている必要がある。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 306 大学の研究は末期的である。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 307 地方の国立大学の現状は非常に厳しい。論文へのアクセスが制限されているだけではなく,十分な予算がないため,読者の多いオープンジャーナルなどへの投稿すらままならない。競争的資金の割合が増えることで予算の偏りが生じ,大学間の貧富差が年々拡大している。国家予算に占める科学研究費の割合がそれなりに高くても,学問的自由を担保できる方向で予算付けされていないため,大学の自由度の拡大には貢献しておらず,短期的には成果は出ても長期的視点が欠けており,将来における発展の種がまかれていない。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 308 私はソフトウェアの研究者なので,研究資金はさほど必要としていない。ただそれでも海外出張や学生の会議参加のために年間300万円程度は必要であり,大学の予算は絶対的に足りないと感じる。ただ毎年必要な外部資金は得られているので,それなりの努力をすれば(ソフトウェア研究であれば)資金確保は可能だとも思っている。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 309 研究環境や資金に関しては,日本は一部(旧帝大など)を除いて危機的だと感じる。周囲の教授とは,日本国は基礎学問を守るつもりはない,と話している。若手研究者は原理的な基礎研究は(評価されず,予算が取れないので)やりたがらない。おそらく10~20年後の日本の科学技術はかなり低いレベルになると感じる。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 310 公募型,競争型の資金が増加しているが,採択されなかった提案を作成するために使われた時間,人の量を日本全体で考えれば膨大な時間と能力が失われている。国力の喪失につながっている可能性があると考える。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 311 間接経費を全額大学が徴収することを禁止してほしい。本来の間接経費の意味がなくなる。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)

- かつてのように、全ての教員に平等に多額の研究・教育経費を配分するのは間違いであり、適度な競争原理は必要不可欠である。ただ、昨今の科研費の採択率(萌芽や新学術は10数%、基盤研究でも20数%)は低すぎる。せめて30%は確保しないと、「新しい研究の芽」がつぶれてしまう。研究環境整備、研究資金の充実が必要であるが、適度な競争原理の導入や無能教員のリストが必要不可欠であるのは十分に認識している。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 312
- 研究費が一部の大学に集中しすぎていると感じます。集中している旧帝大ではお金が「余っている」のに対して、地方大学は研究費不足にあえいでいます。研究費の配分方法にまだ問題があると感じます。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 313
- 研究費の採択の可否が妥当だったかどうか事後評価するシステムがあると良いのではないのでしょうか。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 314
- 研究装置は外部資金で賄う覚悟や必要性は理解しているが、研究環境が整備できない状況が厳しい。一世代も二世代も前の環境では、学生の最先端科学に触れている気概をそいでいるように思える。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 315
- 欧米で実績がない、欧米よりも進んで行っている技術に対する理解が得られにくいと思う。実際に実用化研究で、日本では理解されず、予算がつかなかった技術に、米国の企業が製品化を申し込んできている。日本発とか世界最先端技術を我が国から世界へという割りには、「欧米で実績がない技術は日本では実用化しない」と面と向かって何度言われたことかわからない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 316
- 2015年より、大学より配分される基盤的経費が半減した。現在もその状態が続いているため、外部資金を獲得できないと研究を実施するのが困難な状態が続いている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 317
- 研究現場にお金がおいてこない:我が国が支出する研究費の総額が問題ではなく、研究支援・研究管理部門で中抜きされており、研究現場にお金がおいてこないことが問題である。共用設備では装置の性能を引き出せない:昨今の組織管理厳格化により、組織運営や施設運用の上で業務時間の制限がかかっている。そのため、公的研究機関の共用設備では、時間のかかる研究やリスクの伴う研究ができない。また、専門外の管理者が管理をすることで装置の性能を引き出せない事例をよく聞く。装置は研究者個人に紐付けされなければ、十分な性能を引き出せず、投資の効果は得られない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 318
- 地方大学の研究環境は劣悪である。研究を実施しない、すなわち、学術論文を出さない教授にはなんらかのペナルティーをつけるべきではないか?我々は教育大学ではないので研究を実施する義務があると思う。また、委員会を無駄に開催し、研究教育の妨げにすることはやめるべきである。会議族でなにもしない人が増えているように思うし、その空気が蔓延し、自分も研究をやらなくなると思うと非常に怖い。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 319
- 不十分であることは明白である。しかしながら、激甚災害が多発しており被災者救済や災害防止、社会保障、核廃棄物処理、科学技術、人材育成、地方創生など多額の予算を要する課題が山積している。官民学それぞれの環境および資金の改善を図る様々な工夫・協力が必要であり、豊かな15年後を目指して臥薪嘗胆やれることをポジティブに考え実行したい。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 320
- 外部資金への偏重は健全な科学の発展を阻害している。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 321
- 大学から配られる基盤的経費は非常に少なく(実験系のため)、新しい機械を買わなくて、ただ学生が実験するだけだが、その資金にもなっていない。何か機械が壊れれば、実験がストップするような状態である。分野によって違うかもしれないが、競争的な資金以外の最低限の資金は確保できるような、システムや研究費を望む。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 322
- 大学から研究者に割り当てられる研究費および研究スペースは極めて少ないと感じる。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 323
- 研究環境に関しては、例えば教員が交代(前教員が退職,新教員が着任)があった場合、大学から整備費が手当てされないで、新教員が負担せざるを得なくなってしまっている。本来、負担する必要はないはずなので、大きな問題と思う。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 324
- 大学(研究室)において、教育の質を高めるための費用も実際には研究資金として獲得する必要があり、研究、教育、マネジメントのスパイラルを継続的にうまくまわすことに不安を感じる(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 325
- 研究分野にもよることは承知しているし、重点支援を行うことの重要性は認められているところである。また、各機関の自助努力も必要である。しかしながら、すぐには改革、結果を出すことが困難な分野もあることも事実であると思われる。このため、最低限の研究・教育活動を行うことのできる環境の実現を保証いただくことも検討いただけるとありがたい。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 326
- 研究者(教授,准教授,助教にかかわらず)1名以上の事務 or 専門職 が必須。現状、事務(サポーター)の人数が少なすぎる。これは、予算や、能力ではカバーできないと思う。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 327
- 数千万や億円単位の装置を共用するための仕組みは整ってきていると思う。一方で研究室で日常使うような数百万〜一千万円程度の装置を入手するのが資金面で困難となっている。若手がこれらを手に入れるためのまとまった額の研究費はなかなか無い。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 328
- 一部の有名研究者に多くの資金が集中したり、特定の大型プロジェクトが既得権的に大きな予算を確保するのは非効率。多くの研究は継続が重要であり、大型研究費の規模を少し削って基盤C,若手Bクラスを拡充の方が余程意味がある。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 329
- フレキシブルな予算管理方式にしていきたい。予算額は、研究機器等の相場(物価?)と連動させるべきである。中途半端で使いにくい予算は逆に管理が困難。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 330
- 研究資金の年齢制限は一度キャリアを変更した若手にとって厳しい場合があるので(若手35歳までなど)、中間層にも機会を与えてもらえる有り難いです。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
- 331

- 332 研究サポート人材の人件費を含めて研究資金は不足しており、日本の研究競争力の低下を招いていることが心配である。(大学,第4G,農学,社長・学長等クラス,女性)
- 333 基盤経常経費が削減され、短期的な技術展開に直結する研究に偏重配分されているため(科学研究費補助金を除く)、基盤研究の継続性や長期的視点からの研究がより困難になってきている。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 334 やはりお金がないので、大学として大胆な投資ができなくなっている。今は組織再編に労力とお金が使われており、研究には力が注がれていない。大学そのものがなくなると意味がないので、生き残りのために努力することは致し方ないことであるが、若手は業績を積む時間がなくなっているのでステップアップも困難であると思われる。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 335 研究を社会にどのように活かすかについてのビジョンやモデルケースをもっと広く公開してほしい(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 336 校費が圧倒的に不足しています。年間の研究費が10万円もない状況を多くの国民に知らせるべき。このままでは地方国立大学は消滅してしまう。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 337 少子化とリンクしているが、大学における教員・研究者数が激減している。さらに、運営費交付金の削減により、校費等の形での基本的研究予算がほぼないため、目先の成果にとらわれた研究のみに大型競争資金という形で研究費が流れている。おそらくイノベーション(今までなかったような革新的な新規発見・発明・開発)につながる基礎研究成果は出にくくなると想像する。一見無駄・非効率に見える研究の重要性が軽視され始めている。文科省はその点を把握されているが、財務省を説得できていないのだろうと推測する。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 338 概算要求における研究設備の更新など、かなり難しくなっている。設備・機器の更新が滞るケースが増えている。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 339 公募型研究が自由でない紐付きであることが見受けられるようだ。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 340 兎にも角にも、基盤的経費が少なすぎる。基盤的経費だけでは、学生の卒論・修論の実験はとても行えないし、材料の維持・管理も厳しい状況である。これでは、研究機関での設備・機器が充実しても、全く利用できない(利用のための消耗品すら買えない)。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 341 企業からの研究支援を受けられているため、金銭的に逼迫しているわけではない。ただ、手を動かして実験したりデータ整理したりする時間がないため、秘書や実験補助員がいないとほとんど研究できない状況であり、その意味で予算が不足している。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 342 雑務が多すぎている状況が慢性的に続いているため、到底、まともな研究環境の確保は困難です。公的なものでも学内のものでも、一つ一つの手続きが煩雑すぎます。あれほどの報告書をもとめて、それが活かされているのか?本当に必要なのか?無駄な事務手続きを徹底的に削減してほしいと切に願います。たったそれだけで、日本国内の研究レベルは確実に上がるのではないのでしょうか。一体どれだけの研究者をどれだけの長期間、ただの事務作業員にしているのか。国や機関の上層部はいつ本気で考えるのでしょうか。悲しい。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 343 時間的な余裕がない。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 344 近年、オープンアクセス論文・雑誌が多様化し、それに伴い論文掲載の為に高額な費用がかかるようになっていきます。素晴らしい成果が出ても、お金の問題でいくつかの雑誌への投稿を諦めざるえないというのは異常な状況です。折角、獲得した研究費が高い掲載料にとられていくのは辛いところです。これは国際的な問題であり、国の調査アンケートで意見しても意味はないかも知れませんが、一研究者の声として書かせてもらいました。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 345 9月19日付〇〇新聞には、「研究開発費が欧米に比べて2桁以上小さい中、どこまで巻き返せるかは不透明だ。(※)」とさらりと記載されています。「日本:欧米 = 1:100」です。「ランチェスター戦略」によると、「戦力は兵力の2倍に比例する」ことが指摘されています。したがって、「日本:欧米 = 1:10,000」です。これでどのように勝機を見つけるのでしょうか?※
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO35511580Z10C18A9X90000/>(大学,第4G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 346 日本のGDPに占める科学技術予算の割合は他国と比較して高い水準にあるにも関わらず、日本だけ論文数が減少している。これは予算の総額が問題なのではなく、配分に問題がある気がしてならない。(大学,第4G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 347 他の先進国と比較した際に科学研究や高等教育への配分が小さすぎる。官庁が議論で用いている資料は適切に解釈されていないものも多く、結論ありきの議論が多い。大型予算の配分方針は不透明で、失敗と目されるプロジェクトが延命するケースが目立っており、少ない予算が非効率に執行されるという最悪の事態に陥っている。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 348 大学の運営方針は外部資金の獲得を目指しているが、研究環境の改善や研究成果を上げるための具体的な施策は見いだせない。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 349 もっと基礎研究に目を向けるべき。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 350 いまだ一國一城(個人商店)的に各研究室が運営されているため、機器等の相互利用や有効利用は難しい。この点の解消は研究費の有効利用にもつながる。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 351 地方大学でも医学部はまだ研究環境としては恵まれている方だと思う。そのため、忙しくて研究ができない(あるいはやらない)→研究業績が出せない→研究費が取れないという負のサイクルからどうにか脱出させてあげたい。医師の勤務時間の徹底化は、どこからが勤務時間かという線引きの議論も含めて、図られるべきだと思います。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 352 本学は、研究設備費がなく、研究設備の補充ができない。また、既存の研究機器の修繕、保守費がなく、研究環境の維持が難しい。教員の補充がない。教員は、教育業務や学内委員会業務に追われ、研究時間が取りにくい。大学院生の確保が難しい。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)

- 353 主要な大学(特に国立大)に公的研究資金を集中投下する傾向が近年見受けられる。ブレイクスルーに繋がる研究は、決して主要大学においてのみ行われているわけではない。研究の多様性を確保する為にも、様々なバックグラウンドを持つ多くの研究者が、公的研究資金を得られる様にしていきたい。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 354 良い研究をするためには、十分な資金が重要と考えるが、近年、企業からの資金提供は受けにくくなっている。これは、仕方ないことと思うが、国からの研究費の増額が望まれます。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 355 過去5年以上にわたり科学研究費補助金は横ばいを続けており、一方応募資格者のさらなる増加が見込まれる中、科学研究費補助金の拡充が望まれる。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 356 科研費,その他の公的資金の公平な配分を望む。あまり偏った配分は効果が薄いと感じている。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,女性)
- 357 本学は薬学系の単科大であり、規模が小さく独力で賄える資金に限界があります。そのため、隣接する大学の施設などを共同利用させて頂くことである程度の対応ができています。敷地が隣接していることから比較的にストレスなく共同利用をさせて頂いている状況ですが、隣の大学まで1時間以上かかるような場所だと共同利用も難しいのではないかと思います。以前、移動に2-3時間かかる場所で共同利用をした経験がありますが、移動だけで疲れてしまって、ほとんど実験にならなかったように記憶しています。研究機関を各地にバラけさせるのか、集中して設置するのか、一長一短だと思います。>>大きな金額の研究費も大切とは思いますが、少額で構わないので、これからのタネになるような内容のものを充実させて頂ければと思っています。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 358 社会保障費の増大に伴って、国家予算における科学技術関係費の伸びが抑制されるのはやむを得ない側面がある。企業の内部留保が積み上がっている現在民間からの投資を増やす方向に制度(税制など)を改善すべき。問題は科学技術関係費の内部の配分。特定の大学や研究者に集中し、全体として有効に活用できていない。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 359 外国留学(米国)した際の感覚的な差であるが、日本の場合には資金の差もさることながら、研究に関わる人員の資源がちがうと感じた。例えば、動物管理や、実験方法ごとにプロフェッショナルを置いていること、研究設備の数など、さまざまな点で圧倒的な差があると思われる。(米国 Wake Forest Regenerative Medicine)これは留学を経験されている先生がみな感じることであると思う。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 360 様々な状況から、どんどん研究するための時間が減っているのが現状です。人を雇える資金はなく、大学院生もいないので、先細りを感じています。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 361 現状の仕組みでは、成果が見込めるものに予算が集中する傾向にあるように思われるが、基礎研究を長く補助していくような予算も存在するべきであると思う。研究は、人類の”知”への探求でもあることを見直すべきである。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 362 教育が忙しく、研究ができなくなっている。特に私立大学は、薬学部6年制になり、その弊害が顕著に表れてきた。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 363 研究補助者を雇用しなければ実験動物の維持すらできない→雇用できるような額の外部資金を獲得できない→実験が進まない→業績が出ない、という悪循環に陥っている。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 364 基盤的研究経費が乏しい中で、一定のレベルの研究を継続していくためには研究費(外部資金)を必ず獲得しなければならず、そのための申請書作成に時間が多く取られてしまっており、その結果、研究時間にしわ寄せがいくという悪循環となっている。さらに人員不足の中で教育、委員会活動、その他研究費以外の申請書作成にも時間を割かなければならないため、ますます研究に割ける時間が少なくなるといった状況に陥っており、休日も返上も止む無しである。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 365 研究室に配分される資金が年々減少しており、事務職等研究支援者への謝金を差し引くと極めて少ない額となります。競争的資金、寄付金が主な研究費となっていますが、研究室運営の基盤として学内配分の資金がもう少し安定していると良いのではと考えます。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 366 所属施設の研究環境は良いとは言えないが、施設によって格差があるのは仕方ないことだと思っています。電子ジャーナルなどの購読数も驚くほど少ないのですが、所属施設が他の大学や研究施設と比較したときどのような位置にあるのか情報がありません。個人的には、こんな状況で○○○○○○○○のようなイリーガルな手段で読みたい論文を入手してしまうことを防ぐのは難しいと思います。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 367 日本には石油などの大きなお金を生む資源がないので、人的資源を活かすことが大切だと思います。勤勉な国民性を活かし切ることができれば良いと思います。また、海外留学生を受け入れるなど、国際貢献も大切ですが、今の状況を見ると、友好以外に、日本に還元されているか、疑問に感じます。国公立大の場合、血税が使われているのに、帰国したら終わり、その人のキャリアにしかなっていないように感じます。日本に対するメリットが見えてきません。日本にも、生活に苦しむ人が大勢いるのに、この税金の使い方は何だと思ふことがあります。日本人が海外留学をした場合も、留学先の国から見れば、同じことかもしれませんが、仕方ないのでしょうか。帰国後も、日本との架け橋になっていただくなどの取り組みがなされているのであれば、私が知らなかっただけで、ご容赦ください。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 368 競争的研究費ではなく、基盤的研究費を拡充すべきと思います。今後日本が世界をリードする研究を行っていくには、今すぐに社会に役立つ研究のみでなく、より基礎的な研究に資金を配分することで、研究の裾野を広げる必要があると感じます。すぐに社会に役立つ研究は民間が実施できますが、基礎研究は国こそが実施できるものですので、この意味でも基盤的研究費の拡充を求めます。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 369 科研費やその他公的研究予算の審査が不平等かつ不透明であると感じる。審査員氏名・所属の公開と評価内容、評価得点分布の公開を希望する。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 370 研究環境は整えられているが、職員の欠員が続いており、一人当たりの業務量が多く研究に費やせる時間を捻出するのが難しくなっている。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 371 教育に時間がかかりすぎて、研究を進めることができない。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,女性)

- 372 研究環境はおおむね整ってきている。また研究資金の獲得は公募型研究費を取得する事により前向きな研究が行われている。(大学,第4G,その他,男性)
- 373 大型装置の共用化が進めば,小規模でも特徴ある研究が遂行可能になる。研究意欲のある研究者が研究を続けられるよう,少額の競争的資金があれば良いのではないかと,小規模大学や高専では競争的資金を得なければ卒業研究が成り立たない事態にある。教育における研究の意義や研究者としての生存権を認めて研究資金が配分されることを望む。(大学,第4G,その他,男性)
- 374 運営費交付金が減少する中,老朽化した研究設備等のメンテナンス費用がかさみ,必要な研究に予算を回せなくなってきている。基礎研究では,企業等との連携等による外部資金の確保が難しいため,今後さらに研究環境が悪化することが予想される。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
- 375 研究への予算措置(増加)は,将来の日本への投資であると思われるが,十分な予算を投入しないのは人材の育成や流出阻止を放棄していると考えざるを得ない。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
- 376 公募型研究費の間接経費をもっと大きくして(例えば,50%程度でもよいと思います),間接経費により事務職員を雇用する方向にして,全体的に競争的な状況を強化してもよいと思います。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 377 基礎科学に対する予算はますます厳しくなる一方で,日本の将来に不安を覚える(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 378 研究者の状況と同様,研究環境・資金についても裾野を削る政策が酷く,このままの状況が続けていけばトップレベルも総崩れになる可能性を危惧する。トップをさらに高みにあげることも無論重要だが,裾野無くして,トップは存在できないことを,国はもっと認識すべきである。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 379 ボトムアップ型の学術予算とトップダウン型の科学技術予算のバランスを考える必要がある。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 380 科学技術と称するように,本来は異なる意味である科学と技術が同一的に扱われており,これがイノベーションを目指す今日の政府の方針と一緒に科学技術からイノベーションを生み出す事を求められる現状を作っている。科学は自然の原理を解き明かすために研究し,技術はその自然原理を用いた道具や技を作る事,これらをうまく組み合わせることで経済活動を活性化させるのがイノベーションである。科学,技術の基礎研究者にイノベーションを創造を求めてもそれは無駄である。基礎研究者の成果をイノベーションにかえることに試行錯誤する人材を育て,そこに資金を注入することが大事である。そのためにも,科学,技術の基礎研究者を育てその成果を広く見せる必要がある。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 381 リサーチアドミニストレーターが必要と思う。現在も文科省からの外部資金としてリサーチアドミニストレーター制度は存在するが,研究を円滑に推進するためという本来の趣旨とは逸脱した業務をこなしている。研究者の研究時間確保にプラスになる業務をする,本来意図したリサーチアドミニストレーターが育つことを期待する。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 382 運営費交付金の目的積立金制度の活用を妨げる「空気」は改善しなくてはならない(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 383 研究成果は研究費に比例する。研究費を拡充すると同時に研究者の数を拡充しなければ無意味となる。研究費を使うことは,たとえば最適な機器の選択など高度な専門性を必要とする,よって,研究者の数を拡充せずに研究費のみを拡充した場合,研究費を効率よく使えなくなる可能性がある。よって,研究者数の拡充と研究費の拡充を同時に行う必要がある。研究者の雇用形態は欧米と大きく異なることにも注意を要する。現状日本では人事の流動性が小さいため,流動性を高めることも必要であるが現状に沿った日本に適した研究者の雇用形態を考えるべきである。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 384 ある世代以上の研究者で研究費を使い,若手には研究費が下りてこない。年間六万円の基盤的経費しか配分されず,それで世界最先端の研究を行えというのは,土台無理な話である。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 385 1)日本の大学や研究機関(おそらく民間も)は会議が多すぎる。それが創造的な研究時間を搾取している。会議を減らす工夫はもちろん必要だが,それ以上に意思決定の仕組み自体を見直すべきと考える。2)研究力強化事業等を通して,競争的資金を獲得するための戦略が各大学・研究機関で進められている。例えば科研費の申請書の書き方講座などが活発である。しかし,私自身科研費の審査員の経験や若手の指導を通じて感じることは,申請書の書き方だけ上手になって,論文の書き方が下手な研究者が増えていることである。研究費を獲得する小手先だけの技術だけが身につくことに大きな懸念を感じる。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 386 科学技術に関する予算が少なすぎる(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 387 研究者やその補助員の数が今後ますます減る中で,研究施設・機能が拡大すれば,事務作業量の負担が増えることが予想される。また,研究者人口が減る中で予算が増えることは,一人当たりの研究資金がそれなりに潤沢になることを意味する。研究者はこれまでよりも費用対効果を意識した研究を行う必要がある。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 388 研究の内容や方法により必要な資金は異なる一方で,研究発表や研究打ち合わせのための旅費は必ずしもそれと相関しない。しかし現状旅費として使えるのはほとんどが科研費を中心とした外部資金であり,一方で研究費に余剰が生じながら,旅費が確保できないという例がある。また機関の内部経費も運営費補助金が原資であり,継続する場合基本的には一律で一定割合の減額を求められる。もし科学技術予算全体の増額が難しいのであれば,研究費の配分や用途について,より柔軟な対応を認めていただきたい。(大学,大学共同利用機関,研究員・助教クラス,男性)
- 389 年々運営費交付金が減るため,各大学での研究費・人件費が減少しており,そのため予算獲得に不向きな研究がどんどん行いにくくなっている。(大学,大学共同利用機関,研究員・助教クラス,男性)
- 390 設備はあっても,その整備が出来ていない場合,整備に研究者の業務時間が取られる場合が多い。技術職員・事務職員の充実が必要だと思う。研究時間を確保する取り組みは皆無に等しい。(大学,大学共同利用機関,研究員・助教クラス,男性)
- 391 研究者が学内外の委員会や外部資金獲得のための申請書作成など,研究以外のことで非常に多忙のように見受けられる。(大学,大学共同利用機関,その他,男性)

- 392 企業と大学の大型共同研究がもっと前進するように、オープンイノベーション機構の様な制度設計を推し進めるべきだと思います。大学も学理の基礎研究領域だけでなく競争領域においても貢献する能力を持ち、社会に貢献すべきであると思います。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 393 研究資金は、金額については国際的に見ても平均的な範囲内かと思うが、科研費については、年に一度の挑戦で all or nothing ということになる、その辺の仕組みの是正を図れないか。また、多くの教員には研究資金の大元は基盤経費にあると思う。それが、大学において毎年1%の削減が今後も継続するとすると、本邦の全体の研究者力に与える影響、特に若手研究者に与える影響は無視できないと思うが、基盤経費削減の終着駅は何なのか？(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 394 経済優先の国策のひずみが如実に表れている。本質的な打開策が必要である。研究資金の見返りとして短期的な成果のみ求める傾向がある。改善を望む。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 395 共同研究, 受託研究にかかる間接経費のパーセンテージを上げたい。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 396 大学等の研究環境は悪化している。特に施設や大型設備の老朽化が著しい。また、運交金等の基盤的経費が不足し、全般的に研究者に閉塞感があり、明るさや活気が失われつつあるのではないかと感じている。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 397 研究資金の特定大学への集中が益々進んでいる。国の大型研究・教育補助金が計画年度の進行に従い、急激に大学負担が増える仕組みが多くなっているため、資金の集中している余裕のある大学が極めて有利になってきている。同じ授業料を負担しながら、得られる教育研究上のサービスが大学(場合によっては学部)によりあまりにも極端な差ができてきているのは教育の機会均等の上から、好ましくないと考える。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 398 科研費獲得の競争率が高くなった。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 399 基礎研究, 各研究者が興味を抱く研究に対して、予算を十分に配分すべき。最近はやりのバックキャスト型の研究計画の立案は、大学には不向きである。基礎研究費を十分につけるとともに、あまり、一か所に巨額の研究費を集中させることには反対である。また、各大学の基礎的な研究環境を整備し、任期制教員に関しては、任期終了後も将来の展望が見いだせるようにする必要がある。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 400 十分とはいえない。特に、公募型の研究資金が省庁毎に縦割りが強く、全体を俯瞰した中で募集を考えていただきたい。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 401 一部の金もうけ的な領域を重要視しすぎており、近視眼的である。その分、研究資金が集中しすぎており、広がりのある領域での将来の発展性の芽が育っていないように感じられる。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 402 基盤を形成する研究環境の充実、多様な分野の研究促進のための助成金等の拡充が喫緊の課題となっている。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 403 大学への運営交付金が毎年減り、それに伴い、研究経費も削減されている。外部資金の獲得に膨大な申請書を書き、採択されないときの徒労感に困る。文句を言ってばかりでは先がないので、教育、研究、学生の指導、学術論文の作成にさらに取り組み、大学が発展していけるようにしたいと思う。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 404 基盤的な資金がどんどん少なくなっている。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 405 選択と集中により、以前にも増して特定の研究者や研究機関に予算が集まる傾向が強まっていると感じる。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 406 バブル期の潤沢な官民予算の成果が結実し、現在多数の邦人ノーベル賞受賞が出ている。現状を変えない限り20~30年後の日本の研究事情は大変厳しい状況になるはずである。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 407 大学関係は、研究環境があまりよくないと思う。これは研究費の重点集中型に行っているせいであるのではないか。新しいことの発見、発明は多くの研究費を必要としないが、それなりの費用は必要である。若い学部学生に研究技術への興味を持たせるためにも、競争資金を増やすのではなく、ベースになる教育研究費を増やすべきであると考えられる。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 408 研究の情動的環境などは以前より良くなってきているが、これは世界的な傾向としてのオープン化によるものであり、日本国の政策によるものではない。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 409 本学の場合は、無任期教員には、文系理系ともに定額・同額の研究費が支給されるため、文系には、外部資金を獲得するインセンティブが働いていない。一方、理系には、不十分である。よって、文系理系で、外部資金(産学連携や公的な補助金)への意識・取り組み方に、大きなギャップが生じている。これは、大学としての研究戦略を全学的に策定・実施する上で、障害となっている。また、社会貢献に対する考え方も大きく異なる。理系は、研究成果での社会貢献(イノベーション)を考えるが、文系では、教育での社会貢献を考えている。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 410 自由な研究につながる科研費の重要性がますます増えていると思う。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 411 研究環境及び研究資金はそれなりに手当されているが、日本の将来における重要課題、例えば認知症対策などに集中的に配分する必要があると思います。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 412 医師が研究するには以前と比較し、時間が益々少ない時間となっている。さらに、研究消耗品費用や、研究機器値段の高騰が著しく、研究資金の援助が相対的にかなり不十分となってきた。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 413 研究環境の悪化が現役の研究者に与える影響は大きい、それを見て学生の研究者離れが進むことが、より深刻な事態である。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

- 府省の大学改革に関わる補助金が、定額ではなく年ごとに減額され、その負担を大学に求める仕組みが定着しつつあるのは非常に残念である。私立大学の場合は学費による自己資金や間接的経費等をやりくりしてその分を補填しなければならない。一方で、
- 414 間接的経費は競争的資金につただけである。間接的経費は大学全体の研究環境・設備を改善する上で非常に重要であるため少なくとも府省の補助金には必須とする仕組みが必要である。また、民間との共同研究においても、間接的経費の意味の理解と十分な措置が必要である。(大学、部長・教授等クラス、男性)
-
- ノーベル賞受賞者が決まって発言しているように、時間はかかるが成果が出れば遠い将来に大きな発展が見込めるようなテーマに
- 415 研究資金が投資されていない。AMEDのような近視眼的研究テーマに巨額な資金が投入されている。ノーベル賞受賞は偉大なる過去の遺産であり、現在の状況は未来に負債しか残せない。(大学、部長・教授等クラス、男性)
-
- 416 科研費の採択率の30%に引き上げ目標を早期に実現(大学、部長・教授等クラス、男性)
-
- 最近、JSTなどの公募を見ると大型の競争資金はあるものの、比較的少額の資金はないため、地方私大では獲得が困難である。また、私立大学ブランディング事業がなくなり、後継の事業がはっきりしないため、地方私大の研究力の低下が懸念される。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 417
-
- ・大学においては大学の運営業務と研究を両立させるような運営が行われている結果、第一線の研究者の研究時間が「本来専門ではない運営業務」に多くの時間を取られてしまっている。例えば、入試の監督業務などは費用対効果の面からも人件費の高い研究者にやらせるのは不適切と考える。・配偶者が研究に打ち込みたいパートナーを支えるために家事のすべてを担うという働き方もあっても良いはずだが、「扶養手当の削減」はそのような働き方を否定しているように思える。実際、配偶者手当が削減されることで、今まで家事をする必要のなかった研究者が、家事をするようになり研究時間が削られているという話も聞かされている。研究力を高めるためには、いろいろな生き方に対して寛容な社会を作る必要があると思われる。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 418
-
- 419 競争的研究資金の大きい課題については、終了後の評価をしっかりとやるべきである。(大学、部長・教授等クラス、男性)
-
- 420 基盤的経費の削減の割合が大きい。競争的資金は、使途や期間が限定されていて、使いづらい。(大学、部長・教授等クラス、男性)
-
- 421 日本の大学では英語での広報が非常に弱い。また、米国のHHMIやGates Foundationのように巨額の財団がない。(大学、部長・教授等クラス、男性)
-
- 日本が科学技術を生かして、世界経済の中でいきていくためには、いまの研究資金の状況は不十分である。また、基礎研究から応用研究への流れを問題視する人もいるが、今の応用研究は本当の意味での社会価値へ繋げる研究になっていない。やはり研究者のための研究になっている。そこはきちんと評価し、社会価値を実現するための研究基盤をつくる必要がある。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 422
-
- 423 競争的資金は、それなりに充実してきているが、一方、科研費などの基礎的な研究資金が減少しているように思う。大きな研究は基礎研究が重要なため、そちらも減らすべきではないと思います。(大学、部長・教授等クラス、男性)
-
- 424 研究費の伸びが少ないと思います。(大学、部長・教授等クラス、男性)
-
- 2018年のノーベル賞受賞者の本庶先生が、主張しておられるように、研究費は、広く支給すべきである。現在は、選択と集中という考えの基に、限られた研究室に莫大な資金が集中しており、それが日本全体の研究をいびつなものにして、底上げが出来ない状況となっている。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 425
-
- 426 民間に余力がなくなり、国は財政規律ばかりを気にするようになって競争的資金以外の恒常的な研究環境の維持に回す資金が削られている。それが論文数、影響力の低下に顕著に現れている。(大学、部長・教授等クラス、男性)
-
- 427 ○○大学の場合、研究資金の管理は行き届いていて、内部監査が厳しいのは助かる。(大学、部長・教授等クラス、男性)
-
- 428 科研費以外の公的資金が行政ニーズへの貢献を強調してきており、自由に研究テーマを設定しにくくなってきている。(大学、部長・教授等クラス、男性)
-
- 429 増えている部分はあるとはいえ、短期的な波及効果が見込めるテーマばかりになってしまう点が懸念されます。(大学、部長・教授等クラス、男性)
-
- 研究資金を確保しても、学内の使用ルールが歪んでいるために、研究に支障をきたすことが度々ある。他大学に比べて、使用ルールは研究の効果的かつ効率的な遂行を中心に考えて構築されたものではなく、事務サイドが管理しやすいように構築されている。そのため、フィールド調査などが実施し難くなっており、研究費を確保しても研究ができない状況である。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 430
-
- 431 競争的資金に過度に偏りすぎである。(大学、部長・教授等クラス、男性)
-
- 432 大型の競争的資金の場合、資金の運用と効果的な利用に関して、マネージャーが必要だと思う。大型の資金ほど費用対効果の評価を厳しくすべきだろう。(大学、部長・教授等クラス、男性)
-
- 均等にばらまくことが、必要以上に、悪平等ととらえられており、最低限必要な研究経費が保証されていないために、研究の継続に苦慮している研究者が多くなっていると思う。選択と集中は、目標が決まっている研究では、良いと思うが、何が生まれるか分からない、というところを期待する基礎研究などには、マッチしていないと思う。研究環境も、運営費交付金の目減りから、悪化をたどっている。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 433

- 434 各省庁において各種研究助成が行われている、紐付きでの公募が多く、特定の機関に資金が集中してしまう傾向にあるような印象があります。その資金において十分な研究成果が輩出されていけば問題ではありませんが、費用対効果の点からみると必ずしもそうでないと感じます。他の省庁の研究費を削減し、科研費に回して頂ければより効果的な研究成果につながるのではないかと思います。また、文科省の助成金(科研費以外)において、特定の学部のみが申請資格条件を有している課題があります。例えば、課題解決型高度医療人材養成プログラムには医学部医学科のみが申請資格を有していますが、医療人材は医師のみではありません。医師以外の医療職者の数が圧倒的に多く、人材育成・教育プログラムの向上も等しく重要であると思われます。かつ、サイエンスを追究する文科省の課題においては、できるだけ職種による隔たりではなく、幅広い申請資格を設定して頂けることを望みます。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 435 生体を対象とした研究では、臨床研究法の施行により、医学部以外での研究に制約が多くなってきた。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 436 これからでも遅くないが、基盤強化のために、薄く・広く配分することと、集中配分とのバランスを考えるべきである。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 437 科学技術関係経費の中には、科学技術に対する直接の投資と考えられる予算と、そうでない研究以外の目的の物品購入等も含まれており、科学技術に対する予算を、研究開発に従事する研究者のFull Time Equivalent換算など、別の指標を用いて多面的に分析・評価していくことが必要(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 438 研究開発資金の規模よりは、その評価者の質の問題が大きいのではないかと、専門以外の方を、異分野の方として参加されている場合があるが、場合によっては、的外れな意見を言われることがかなりある。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 439 ・競争的研究資金以外の基礎的研究資金が不足している。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 440 行き過ぎた選択と集中が、結果的に研究競争力を低下させているのではないのでしょうか(大学,部長・教授等クラス,女性)
- 441 海外ジャーナルの価格高騰はかなり研究の妨げになっています。(大学,部長・教授等クラス,女性)
- 442 個人研究費の激減、公募研究の増加による競争の激化、申請書作成の労力、特に私大所属の教員にとり、日常の教育に割く時間増に加えて、研究時間・補助者不足などの現状から研究環境は著しく劣化している。(大学,部長・教授等クラス,女性)
- 443 民間の研究費は基本ひもつきであるものの、増えてきていることを実感しています。ただし短期的な成果が要求されます。一方で国の研究費で、かつ社会科学分野への研究費が減少していると思います。科学技術で勝っても、その社会応用やビジネスの世界で負けている日本の現状を再認識すべきです。ビジネスで負けるということは、税収の減少に直結し、ひいては将来の研究費の原資を失うこととなります。(大学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 444 グローバル化が叫ばれているので、グローバルで比較すると先進国の中で十分な研究経費がかけられているとは感じられない。研究経費を含め、大学運営経費の削減とそれを補うための研究費獲得活動に疲弊し、本来の目的である教育・研究の機能が低下していることは、論文数の減少を一つの例にとっても明らかと思われる。(大学,研究員・助教クラス,男性)
- 445 近年国立大学法人や研究開発法人の運営に民間といわれるビジネス経験者が座ることが多くなっている。彼らは「もうけ」を出すことが責務と考えており、直ちに「もうけ」をもたらさない基礎研究を顧みない。しかし、ビジネスが「もうけ」を生み出している根源は基礎研究であることを忘れてはいけない。「科学」という人間の根源的知的欲求満足志向に根ざす哲学活動を妨げることなく伸ばしていくことなくしてはわが国の将来はない。法人の運営に携わる人々は関連する政府要人におもねることなく正しく「科学」を推進するように強く望む。(大学,その他,男性)
- 446 将来の日本の国情を考えると、科学技術によって先端を切り開いていかなければならない。日本人の力量は世界から羨ましく思われているのに、肝心の研究開発費が減少している状況では何ともならない。現政権の“ものの考え方”がこの点をおろそかにしている。成果が出るのに時間がかかることに気付くべきである。(大学,その他,男性)
- 447 イノベーションの名のもとに、長期的視野に立った基礎研究が崩壊しつつある。同時に、大型研究・大型装置への投資も激減している。危機的状況(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 448 研究資金が飛躍的に増えることは望めない。設備のスクラップ&ビルトが、今後必須になっていく。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 449 自由な発想に基づく研究開発に対する研究資金が減少していることが大きな問題である。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 450 運営費交付金の一律削減が研究活動に支障を来し始めている。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 451 日本全体として施設の更新が進まず、老朽化が進行しているため、早急な対策が必要である。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 452 実用化研究に研究費の配分が偏りがちである。すぐに役立つかどうか分からない基礎研究にも十分な研究資金をあてがうべきである。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 453 運営費交付金の一律削減が研究活動に支障を来し始めている。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 454 現在の公的資金の使い方、事務的処理の仕方が、自由な研究をできるようになっていないのは、大変残念である。公的資金の使い方方で不埒な行為をする研究者が出るたびに、制度や仕組みを厳しく変更しても、当事者を厳しく罰しなければ、犯罪的行為は無くならない。それどころか、本来、罪を犯した研究者の罰を、他の善良な研究者が、肩代わりして、自由な研究環境、研究条件を削りとられている感じすらする。もっと、各研究機関の裁量に任せてもよいのではないかと、その代わりに、罪を犯した研究者に厳罰を科してもよい(罪の大きさによっては、研究者生命を絶ってもよいし、監督する研究機関にペナルティを課してもよい)と思う。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 455 競争的資金の採択率が年々悪くなりつつある。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)

- 456 基礎研究への予算配分が少なく研究資金は常に不足している。(公的研究機関,社長・学長等クラス,女性)
- 457 科学技術予算が増えない中,各機関が自助努力で自己資金を増やすとともに,並行して,事務効率化を進める必要がある。しかし,国の計画や戦略の「KPI」管理や,「評価」(独法評価や研究評価),更には国の研究倫理に関するルールにおいて,現場の負担は増える一方である。また,これらは,対外的なポーズのための,意味のない事項も多く含まれていると思われる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 458 研究成果のみならず,individual dataのシェアリングシステムを促進する必要がある。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 459 現状では,中国との科学技術の差は開くばかりであり,韓国にも追い越されかねない趨勢にある。論文数が伸びないのも気がかりである。これは人口減のトレンドによるものだけではないだろう。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 460 短期間に社会実装などの成果を求める研究資金の配分は大きくなった。一方で成果が出るとしても20年先になるというような基礎研究への資金の配分が少なく,さらに研究機関における基礎研究への取り組みに対する評価が低いという現状がある。今見えている研究成果の社会実装の源となる基礎研究は,実際のところ20~30年前に始まったものが多いのではないかと。現状では,その様な基礎研究の成果を食いつぶしているだけであり,基礎研究活動への十分な研究リソースの還元が出来ていない。この状況を放置すれば,20-30年後には短期的に成果を求めようにも,その元となる技術そのものが手元にないという状況に陥る危険性がある。早期の改善が必要。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 461 研究資金を得て使用する過程で必要となる事務作業が膨大で,研究費を獲得するためには研究のペースを落とさざるをえない,という矛盾が発生している。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 462 基盤的経費の不足は深刻な問題。機関内施設利用等を受業者負担で課金制にすることは然るべき措置で必要であるが,基盤的経費の拡充を同時に行う事が必須。複数の外部資金等で研究人材を雇用するに当たって,労務管理が硬直化していて複雑で労務管理に当たる研究者の研究時間を圧迫してしまう。資金配分側の制度整備はそれなりに進んでいて柔軟になっていると認識しているが,受け入れる側の機関の制度や対応が柔軟性に欠けているとの認識。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 463 科学技術に関する政府予算は十分であるものの,配分方法に課題があると考え。選択と集中が極端で,先進国としての日本の強みが見失われかねない心配。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 464 URAの認知度の向上に伴い,国研でも同様の活動を強化する取り組みが現れ始めている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 465 基礎研究への投資が小さい。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 466 情報セキュリティ担保の負担が,研究組織の個人個人に課す傾向が現れて10年ぐらいいは経ちますが,一般的には,諸雑用を増やし,思索の時間を減らすことから,早期の改善が望まれます。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 467 補助金の割合が増えており,研究機関の裁量範囲が狭くなっている。また,補助金の執行に制約が大きく,研究環境に大きく影響するケースが増えている。補助金においても,研究機関に一定の裁量を持たせるなど柔軟な運用ができないか検討すべきと考える。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 468 事務業務が増えているにもかかわらず,事務職は早い時間帯に帰宅し,研究職は深夜まで残るケースが多いことは,問題であると感じております。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 469 外部資金につく間接経費は,機関の通常運営のための資金不足を補う予算として使われており,プロジェクトの直接経費で支払えないようなプロジェクト関連経費に用いることができない。それならば,外部資金の使途そのものをもっと緩めるなど,研究の自由度を向上させた上でプロジェクトそのものにもっと費用をつけるべきである。たとえば,大学等の機関の一般管理費の割合が10%程度だったとしたら,なぜ間接経費がすべて本部経費に使われてしまうのか? 事務作業をするパートタイマーを雇うだけの費用がなぜ降りてこないのか? なぜプロジェクトを取れば取るほど,研究室運営がしんどくなるのか? これらは矛盾しており,その理由は,間接経費が機関本部に都合のいいように搾取されているからだと思う。その意味で,間接経費が30%つくならば,上限10%分を本部等の経費として,残りの20%分プロジェクト関連の経費として使用できるようにするなど,規定の工夫が必要ではないか?(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 470 基礎研究に,予算を使うべきです。イノベーションを作るための,イノベーションを加速するのは,がん細胞と同じで,破たんすると思いません。可能な限り,基礎科学や,人類の偉業となり得る重要な科学的謎に関する研究をもっと大切にした方が良くないでしょうか。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 471 選択と集中ということで,目標達成型の拠点型の研究費が増えているが,研究を進める上では,歪みが生じている。研究グラントをどのように配分するかは研究者経験の長い者が行うべきで,研究というものの理解が十分でない事務的な判断での資金配分では,よくない結果に終わる可能性がある。研究者が明らかにしたいと思っている研究こそが,イノベーションの源泉であり,ある程度安定した地位を与え,研究者の相互評価による科研費を拡充することこそが研究振興に繋がると思う。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 472 研究員の雇用が,有期雇用,プロジェクト雇用に偏っているため,多くの若手が不安定な状況に置かれ,自ら独立して息の長い研究を行うことができない。安定的かつ独立して研究できる環境と雇用体制の充実が必須。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 473 様々な予算確保の道があるのは資金調達の可能性を広げる一方,それが運営費交付金の過剰な削減につながっているなら,結局研究時間の不足を招いているように思う。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 474 研究資金については競争的資金のみならず基盤的資金の部分の拡充が望まれる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 475 研究費の額は増えているが,目的指向が強く,科学技術の底上げにはかえって悪影響を及ぼしている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)

- 476 研究資金を獲得しても、施設などのインフラ整備や維持のために使わざるを得ず、重い足かせになっている。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 477 基盤的経費も所属組織から競争的に獲得しなければならない状況にあり、安定的な研究が難しくなりつつある。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 478 小児医療研究に対する予算配分が低すぎる印象を持ちます。脚光を浴びている再生医療に不必要な配分が見られますが、課題のみでなく未来への投資としての研究費配分の必要性を感じます。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 479 民間からの資金獲得状況が、運営費交付金の増減に影響するようになるらしいとのことで、上層部から、民間資金の大幅拡大を促されているが、国の研究機関は、税金で動いており、特定の民間企業との仕事を増大させることは、国民全般への貢献には必ずしも結びつかない。特に、基盤的・基礎的研究は、公的資金で実施すべきであり、基盤から民間資金を導入するようなことがあれば、その基盤はその企業にしか使えないものになってしまう。研究テーマによって、民間資金が全くそぐわないものがあることを、国の研究機関の方針として明記すべきである。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 480 交付金総額の減少、人件費の増大、老朽化等によるインフラ関連費用の増大が、運営費交付金に関わる研究費の減少につながっている。また政策的な共同研究推進が、研究時間のマネージメントを困難にしている面がある。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 481 科学技術に対する国の投資額はもっと増やすべき。文科省(JST, JSPS含む)の予算はもっと基礎寄りにすべき。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 482 組織としての研究環境を支えてきた公的な資金が削減され、組織的な整備のための余力がなくなってきている。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 483 運営費交付金を減らし続ける(殆どなくす)ことは、将来の研究への投資がなされないのと同じなので、ある程度は配布しておくべきだと考える。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 484 基礎研究に対する予算措置が全く出来ていない。公的研究機関、大学等では基礎研究をやるべきであり、短期間でのアウトプットを目指した研究への選択と集中はばかげている。産業化の出口が明確な研究は基礎研究予算とは別のファンドを用意すべきで、むしろ民間企業との協業を前提にして予算規模は小さくすべきである。3.8兆円(当初)の投資は未来の日本の国力増強を見据え、研究者の自由な発想を伸ばしていくために使われるべきである。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 485 弊所においては、経営判断で外部資金の間接経費が30%となった。現場で外部資金を稼いでくる研究者と、外部資金獲得能力が低いので組織経営にいった人材との軋轢が少々ある。また、資金の目的外使用禁止の観点から、ミスコンダクトの観点からも議論すべきイシューと認識する。交付金の一律減少に伴い、交付金で支払う給与の割合が50%を超えるのが数年後に予想され、そうすると資金獲得能力のあるリーダーに研究者がぶら下がり、事務職も雇用されるという形態、組織の研究マネージメントは研究資金の時間軸平滑化のための利子付き資金貸し機能がメインとなるのではないかと。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 486 研究環境については単年度の予算配分だけでは不十分である。継続的な費用とサポートが必要。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 487 成果主義も行き過ぎると、研究のスケールを小さくし、新しい発見に繋がらなくなるのではないかと。今年もノーベル賞受賞があったが、この先はノーベル賞などは出なくなるように思う。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 488 ノーベル医学生理学賞受賞の本庶佑・京大特別教授が、基礎研究費をもうちょっとばらまくべきだと思うとおっしゃっています。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 489 大型の研究費や拠点形成型の研究資金が増えているが、比較的少額の研究資金を増やした方が費用対効果が高い。大型の研究費はきめ細かい運営ができず、無駄な部分が相当多い。研究費が2倍になっても2倍の成果は出ない。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 490 地方大学は助成金でも名前負けして不利な状況にあるという意見を聞いたことがあります。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 491 研究環境、資金等の充実が必要。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 492 魅力的な研究テーマが枯渇しているのは研究資金の不足によるとは考えにくい。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 493 研究資金の配分が、ネームバリューや所属施設に依存する部分が多いと感じる。特に開発型の研究ではマイルストーンの設定を強く求められるのに対し、アウトプットが次の研究費に正確に反映されていないように映ることがある。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 494 研究成果やデータは研究者の努力の結晶でもあるため、安易に共有するのがよいのか疑問がある。ただ、カルテ情報やゲノム解析情報などの、国費を投じた成果を入れるナショナル/データベースが国主導でちゃんと戦略的に構築されていないのは事実であり、このままでは国際的な競争に対抗することは困難。(公的研究機関、部長・教授等クラス、女性)
- 495 実験装置や備品などの管理業務といった技術職と事務職の中間を網羅する人材が欠如しており、研究者が膨大な時間を割かざるを得ない状況。そのための人材を雇用するために、研究資金を投入すると、研究開発費が圧迫される。(公的研究機関、部長・教授等クラス、女性)
- 496 基礎的研究資金の減少がはげしい。シーズをしっかりと醸成しないと日本の科学力は確実に低下していくと危惧する。(公的研究機関、部長・教授等クラス、女性)
- 497 機関に対する基盤資金の配分が少なすぎて、機器や設備の更新ができていない。(公的研究機関、部長・教授等クラス、女性)

- 498 研究環境の二極化が研究資金獲得の二極化にもつながっている状況を昨今感じる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
- 499 過度の競争性を是正すべき。競争的資金のための作文能力は年々向上しているが、作文に時間をとられすぎて研究をする時間が減少している。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 500 ○○○○○研究所【公的研究機関名】が、校正サービスを一部停止してしまったことが大問題。本来、計量標準を維持・管理すべき組織が、その仕事を放棄せざるを得ない状況に追い込まれている事態を重く鑑みるべき。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 501 設備投資を満遍なく行うよりは、国立研究所などに集中させて共用した方が良い(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 502 研究設備などが充実してもそれを維持・管理するための予算の獲得が困難である場合が多い。設備の維持・管理のための予算が増えるようなシステムにしてほしい。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 503 自分の自由な研究計画を立てるのが難しい。研究計画を作成しても、プロジェクトとは関連が薄いものは修正を推奨される雰囲気がある。交付金が不足しているからなるべく科研費を申請するようと言われてしまう。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 504 昨年から環境に大きな変化はありません。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 505 所属する機関では、自由な発想で行う研究のための資金は用意されていない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 506 研究をする上での環境として最も重要と思われるのは、研究に集中できる時間を出来るだけ多く確保することです。○○○○【公的研究機関名】では研究支援部隊(事務職及び技術職)のサポートが脆弱で、むしろ彼らによって研究業務が阻害されている部分が相当大きい。研究以外の業務で研究者が疲弊している状況にあります。○○○○【公的研究機関名】から優秀な人材が失われていく最も大きな要因と思われます。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 507 所属機関では、研究者が研究に専念できる環境にはない。特に専門人材は皆無に等しい。大学に比べ施設の供用化は非常に遅れている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 508 研究現場から見ると、組織から配賦される予算も少なく、科学技術のための政府予算の十分・不十分の判断が難しい。現在の我々の状況から見れば予算不十分のように感じるが、分野によっては十分に配賦されている場合もあるのかもしれない。バランスのよい予算配分が必要なのではないか？(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 509 組織の問題であるが、研究員が雑用に割く時間が多すぎると思う。年度初めに策定する研究計画に対し、年度末「達成」を厳しく問われる環境下では、研究員は「未達」を恐れて、できることしかやらなくなってしまふ。このような環境下では、独創的な研究成果は難しいのではないと思う。研究員は、事務と研究、両方に時間を費やしているのが現状。大学関係者の話などから、この傾向は、大学よりも公的研究機関の方が強いように思う。研究員が事務仕事をしなくて済む、もしくは事務仕事が短時間で終わるような仕組みが必要と思う。外部発注に関して、競争が激しくなった結果、例えば科学技術計算分野から撤退する会社が増えている。一方で、研究者が計算を行う技術は評価されないため、研究者の計算技術能力は向上しない。結果として研究の遂行に支障が出るのではないかと危惧する。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 510 諸外国、特に先進国と比較しても研究開発資金は多いとは思えない。研究開発機関には、資金を配布すべき。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 511 交付金(内部研究費)の一部が留保され、内部公募を前提とした競争的資金化している。しかも、より短期の社会実装が求められ、研究者の発意に基づく基礎研究を実施する余地がなくなっている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 512 競争的研究資金かかわる間接経費の使用について、獲得者のためにほとんど使われてない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 513 研究資金の応募をとりまとめる事務方の人の数が少なすぎる。ポンチ絵などを描いてくれるサイエンスイラストレーターを雇用して欲しい。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 514 研究を実行する職員も足りないが、あわせて管理部門の人材も不足していると思う。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 515 省庁型の委託研究費は、競争的研究資金というカテゴリーに入れなくてもいい。あれは、コンサルタント企業に発注するような類の性格であり、日本の科学技術研究への投資額に算入することは、日本の基礎研究への投資額を見えにくくしている。統計の取り方が誤っている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 516 1人あたりの参画プロジェクト数が多く、実験や論文執筆のための時間が逼迫されている。新規プロジェクトの獲得は重要だが、既存のプロジェクトの成果をしっかりとパブリッシュすることも重要であり、そのバランスを取る必要があると感じている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 517 研究費を獲得するための申請書で疲弊し、獲得した後の短期間の進捗状況チェックと評価で疲弊し、真の研究を行うための心身の力が削られる。科研費は申請書以外はそうでもないが、SIPとか推進費はきつかった。成果主義で締め上げても研究というクリエイティブな仕事は進まない。締め上げられた環境で生き残るのは、成果が出ているかのように見せかける作文がうまい人か、成果をねつ造するのがうまい人である。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 518 年度繰り越しが、まだ、進んでいない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 519 基盤経費、人件費の拡充が必要。年度ごとに予算要求にまつわる計画変更など、大型予算ほど効率が悪化する。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 520 実用化できるような研究のみに予算が配分されすぎて、(地味な)基礎研究に予算が確保されていない。審査する側もじっくり申請書を審査できないので、見た目や業績のある申請書を通してしまいがちではないか。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 521 研究資金については基礎的な部分の急激な減少という話題を研究者からよく聞く。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 522 大型研究費にシフトしすぎ。もっと少額の研究費を広く浅く分配すべき。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 523 少数の決まった研究者にのみ資金が集中しており,由々しい事態。しかもその研究は必ずしも優れている訳でもない。審査する側の資質が問われる状況。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 524 競争的研究資金はよいが,それがなくても最低限の研究ができる運営費の配分が必要。実験室のスペース代や秘書の雇用費用も確保できない研究室も多い。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 525 研究資金の配分について,選択と集中をやめるべき。なぜノーベル賞受賞者たちの異口同音の訴えに耳をかさないのか。交付金削減で真綿で首をしめる政策はやめるべき。とくに大学への取り組み。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
- 526 資金総額云々の前に,限られた研究費を効果的に使用する工夫が必要。基本的な資材は研究所・学部単位などで一括調達するなど可能ではないか。実際には研究の素人が研究費を使用していると効果的な予算の運用とは言えず非常に無駄が多く非効率。コスト意識の教育が必要。研究をサポートする技術者のスキル・待遇・ポストが非常に不足している。研究施設の共有化はもっと進めて頂きたい。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
- 527 競争的資金は,研究内容がどうであれ,結局,権力ある大学教授に配分されている。全員にチャンスがあるような公平性を確立できないだろうか。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
- 528 競争的資金ばかりで,自由な発想で研究ができる予算が足りなさすぎる。恒常的に使える交付金などが削減され,研究者は予算獲得に追われている。組織のトップならまだしも,最も研究に集中すべき若手研究者も,予算獲得と論文執筆に追われている。目先の雇用確保のために日々を過ごし,10年20年先を見据えた研究ができない。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
- 529 研究資金の貧富の差は相変わらず大きい。さらに,図書購入費が運営費交付金を圧迫しており,情報が増えているものの,情報に関しても貧富の差が出ていると思われる。(公的研究機関,その他,男性)
- 530 研究資金については,同じような制度も散見されるので,府省庁横断で検討した方が,制度の偏り等がなくなるので良いと考える。(公的研究機関,その他,男性)
- 531 研究資金配分について,重点分野を置くのではなく,基礎研究では分野を広く,産学連携,実用化を目指す領域は,分野を設定する。それぞれ予算はどちらかという基礎研究に広範囲に教も多数採択する必要はある。(公的研究機関,その他,男性)
- 532 国家予算とのバランスがあるので,個人的には研究資金がだんだんなくなっているのは致し方ないことと捕らえるが,研究者への説明がやはり十分でないと感じている。(公的研究機関,その他,女性)
- 533 研究資金額が相対的に減少して難渋している旨の話しをよく聞き及んでいる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 534 未来の社会を具体的に予測していない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 535 若手研究者の研究活動が低下している理由には,研究費もあるが,大学の場合,教育のためと称する委員会活動や父兄会出席,入試業務,教務などの仕事が多く,家に帰らずに研究室にとどまって研究をしている状態が多く,これを見る若手は嫌がる。研究などなくても給与はもらえる,となってしまう。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 536 日本はほとんど地下資源(エネルギー,レアアース)のない国であり,唯一の資源が国際競争力のある科学技術であり,そのための人材育成や基礎研究等にもっと環境整備や投資すべきである。今後,少子高齢化が加速されるなかなおさら重要ではないか。そのうち,中国の科学技術の植民地化になるかも知れない。その危機感が国全体にほしい。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 537 最近研究機関から予算が足りなく研究を継続できないとか,良い研究者を継続して研究できる環境にないという声を聴くが,それは研究課題の選定が誤っているに過ぎないのではないかと疑問を持っている。もちろん,やりたい研究をやるといいことであるが,論文を書くためではなく,何らかの世の中のためになる成果(定性的だけでなく,定量的に)が必要と感じる位今日この頃である。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 538 研究評価を同僚である大学教官にやらせるのではなく,産業人にやってもらってはどうかと思う。ただし,その産業人もほんとに自分の意見が言える人を選ぶ必要がある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 539 意欲のある若い方に,人生を掛けてもいい,と思わせるポスト数・処遇・予算の全てが不足している。無くて済むもの(オリンピック関連の諸施設の一部,地方の利用頻度の著しく低い公共財等)を諦めて,予算のやりくりをする政治家トップ・そのスタッフを切望する(もちろん,高等教育機関だけでなく,次々世代を担う幼児を抱える若いパパやママへの子育て支援はもっと気を配る必要がある)。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 540 大学に限れば,大学の本来の任務は教育であるので,全教員が研究をするという前提を捨てるべき。米国大学では学部教育専任(非研究的)と大学院教育重点(研究的)教員の区別が明確な大学もある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 541 納税額と連動した予算額にした方がよい。予算ありきの枠組みでは赤字になるのは当然。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 542 研究環境や資金に対する費用が少ない。税収も少なくなり難しいのであれば,民間の研究開発費などに税率免税などをおこない工夫をすべきだ。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 543 もっと増額しても良いと考える。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)

- 544 研究テーマ自体の性格が短期テーマ、成果が素人に分かりやすいテーマにシフトしてきている。また特に、エネルギーや環境分野においては、技術開発や実用化状況における不正確な現状認識に基づくテーマ選定や現実と乖離したテーマ設定が時々見られテーマの選定や評価の問題が気になる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 545 全てに言えることですが役員等々の報酬は管理する概念からサラリーマンの役員と同等で、研究者、研究に携わっている大学、機関に手厚くする必要があるので考えられる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 546 NEDOの補助金の割合が基礎研究段階では100%であるが実用化開発で2/3に量産化を目指す実証開発では1/2に減少する。資金力が不十分な中小企業にとって商品化への大きなハードルになっている。この状況については全く改善の動きがないのは極めて残念である。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 547 何故、金融通貨不安定になると円が買われるのか？ 海外資産の計算が正しく評価されているのか？ 海外の保有資産も含めた活用が必要ではないか？(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 548 中国などに比べ、絶対額が小さいので集中と選択が必要だが、企業人からみて「あの先生では…」といったところに研究費が回っている。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 549 一部の(著名な)研究者に資金が集中しすぎているように感じている。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 550 応用研究,社会実装に目が向きすぎて、長期的で基盤・源泉的な研究へのリソース投入が弱体化している。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 551 どんどん研究への投資を政府が減らしている状況は、日本の将来を暗くしている。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 552 研究資金の効果(リターン)を計測しようとして、特許のトラッキングを行おうとすることがあるが、どの特許がどこで使われたかをトラックすることは困難である。特にIT技術においては、クロスライセンスの一部として使用されることが多く、互いに行動の自由を確保するために特許化しており、個別の特許の利用状況を詳細に把握することは現実的でない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 553 公的資金(税金)による研究成果を再利用可能にするための整備が必要だが、その活動は十分とは言えず、成果が有効活用されていると言えない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 554 ノーベル賞受賞者の本庶先生のコメントや新聞各紙の指摘からも、特許の出願分野,出願数からもっと基礎研究にお金を使っても良いのではないかと思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 555 詳細は存じませんが、基礎研究の研究資金が応用研究に比べて少ないとのコメントを耳にします。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 556 環境整備は進んでおり、企業の研究者も使いやすいようになってきている。競争型研究資金は企業からすると制約が多く使いづらい。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 557 EUはPPPのような仕組みがあり、直截的な研究資金が産官学で見える形で目的を明確化したものがあるが、ただし、基礎分野は長期的視野にたてば必要なので20~30年スパンでの枠は配慮要(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 558 研究資金の多寡についてはわからないが、間接経費が多すぎるように感じる。大学の研究者にもっと資金が回るように間接経費は抑えるべきだと思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 559 新しい技術領域が増えたこと、SPEEDが求められる事、社会で価値のある科学技術の対象が、商品から、産業システム、社会システムに代わってきており、大規模になっていることから、予算規模もそうだが、省庁割ではなく、その産業(システム)領域一括で集中予算管理&指揮するようになってほしい(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 560 産業界から見ると、基幹産業に対する研究開発の投資は不足している。又、人材も優秀な人は、海外に流出していく。このような中で、研究環境、研究資金は、やはり不足しているという現実を把握するべき。基礎研究,応用研究共に、両立できる環境整備は、日本としては、必達事項だと思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 561 大学や公的研究機関における一人あたりの研究費は他国に比べ低いのではないのでしょうか。短期的な成果を求める研究も重要で、もっと充実させるべきと思いますが、日本の人口が減少する中で、科学技術立国として発展していくためには、理工系の人材を増やすような教育環境や、中長期で見てもっと自由に探究できるような研究(海の物とも山の物ともわからないようなものも含む)を増やすような仕組みや制度設計も必要ではないのでしょうか。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 562 日本の将来のために、先端研究開発向けの予算をもっと増やすべきである。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 563 対GDP比で見れば、日本の研究開発予算は十分ではないのは明白である。わが国は、研究発表論文数の伸びが著しく鈍化しているのと関係があると思われる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 564 国家プロジェクトの予算が、テンポラリーの研究者やサポート人材への費用や建物の電気代等に消えて、実際の研究費にまわらない。これぞ、と思う研究に大型投資をして、それ以外はやめればよいのではないかと。極論だが、メリハリが大事。そのメリハリに責任を持つ人が大事で、成果がでなければ責任をとる体制が必要と思う。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 565 国の政策が、研究特化型の大学への集中投資に向かっている。大学の数削減は必要だが、旧帝大への集権型は多様性を減じ、ボス主導を強める。各地方大学でも競争的資金を獲得すれば、しっかり研究できるだけの研究者人件費や間接経費を与え、地方での人材育成と地方の活性化を進めるべきである。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 566 企業等の助成を受けたものは、資金も含め環境は良いと思われませんが、すぐに成果が出にくいものの研究環境は極めて悪い。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)

- 567 予算を細かく分けて、小口にせず、突っ込むテーマをしっかりと決めて、集中投資する事が重要と考えます。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 568 研究情報基盤の整備に関しては、知的財産等に関しては、改善の傾向にあるが、研究論文の領域は、改善の余地が十分あると判断する。また、研究資金に関しても、最近の傾向として件数の増加が著しいと感じる。よって、相対的に研究テーマ毎の予算が乏しく結果的に成果へと結び着かない傾向ではないか。有識者による研究テーマの厳選が望まれる。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 569 テーマの絞り込み、予算の使いやすさ、評価について、実情に合った制度が望まれる(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 570 国の研究開発費にける予算は十分とは言い難く、他の先進国や中国、韓国などに研究開発で遅れをとってしまうのではないかと危惧している。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 571 今、国の公的研究資金、助成金の助成率は、中小企業に対して、昔は100%のあったが、現在ほぼ2/3である。会社の負担はもっと重いと思う。研究とイノベーションなどにはかなり資金が必要であるので、失敗のリスクも高いし、今の助成率で会社としては申請の意欲が少なくなってしまう。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 女性)
- 572 公募型での研究開発資金において、省庁縦割り資金が殆どですが、今後テーマも複雑化している中で、省庁連携公募もあってもいいように思います。AMEDは厚労省、経産省、文科省の合体での研究分野となっていますが、この考え方をもっと広くして考える事も必要かと思えます。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 女性)
- 573 任期付き教員から客員教授に移行した際、研究者番号が自動的に引き継がれず、次年度の共同研究者になることができないという事態が発生した。若い教員であればよく起きることだと思うので、自分のデータは自分で管理できるシステムが必要ではないか？(民間企業等, 社長・学長等クラス, 女性)
- 574 公的資金での支援がもっとあって良いと考える。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 575 予算管理について: JST 事務局の方が丁寧に対応して下さい、大変助かりました。人件費について: 一人一人 個別に給与で管理するのは大変、また給与は個人情報という点でも難しさを伴います。健保等級や、企業の社員であれば、固定の人件費にできれば、煩雑な事務作業は軽減されます。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 576 公募型研究費の比率が大きくなり、大学の基盤的な研究の停滞を危惧しています。基盤を固める研究開発と、イノベーションを目指す研究者は別物ですので、それぞれ予算が確保されるべきと考えます。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 577 大学の独立行政法人化以降、学術的に取り組むべきテーマよりすぐに民間利用へ転用できるテーマが主流となり、国際的競争力が弱体化していると推察されます。独立行政法人化は悪いとは思いませんが、研究費を調達するために大学側で奔走する事は資質的にそぐわないと考えられます。従って、国家(自治体含む)が主導で研究テーマを定めた上で、専用のコンサル機関を設立または委託し研究できる環境構築を行えば研究成果も向上すると考えます。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 578 近年、基礎研究であっても社会実装への取り組みを求める競争的資金が増えていると思われる。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 579 研究資金は欧米、新興国諸国に比べて明らかに足りていないと思います。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 580 海外との比較ではどうなるのでしょうか？(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 581 資金はともかく研究・教育以外の業務に時間を割かれていると嘆く先生方が多いようだ。これが研究の劣化につながらなければよいのですが…。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 582 本来企業が負うべき、直近の成果と長期的に見て実を結ぶ「かもしれない」成果とがどちらかというと前者に偏っている状態が未だ見受けられる。前者の是正は、場合によっては、企業への資金注入も含めた支援を、後者には、より適正な分配(特にまだ海のものとも山のものともつかぬシーズを如何に育てるかの支援)が望まれる。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 583 基礎研究への施策が不十分。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 584 すでに注目されている分野や成果が期待できる分野は手厚い一方で、原理原則や真理の追求をはじめとする基礎研究、要素技術への支援は貧弱。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 585 基礎研究にもっと資金を投じるべき。そのために、自動的にあるいは半自動的に資金供与ができる仕組みや比較的長期にわたり資金が継続的に供与できる仕組みがもっと必要。大学の先生が資金獲得のために貴重な時間を費やして、本来行うべき研究活動がおろそかになっている実態があると思われる。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 586 各省庁等国プロに重複感が若干あり。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 587 十分な予算が与えられる分野に偏りがある。地味で基盤的な分野に対しても長期継続的に予算が与えられるべき。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 588 最終的な研究成果の応用は産にかかっているが、そのシーズを創出するのは学であり、そのエネルギーの源は自由な発想が担保されることにある。シーズの段階ではその応用的価値は必ずしも予見できるものではない。防衛省の研究予算の肥大化などは明らかに応用的価値の意図的誘導と思われる。研究そのものの本質が見失われないよう官は研究資金配分のあり方を再度検討すべきだと思う。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 589 国家的ビジョンに基づく上記のリソース配分が必要。基礎科学以外へのリソース投入では「勝てる」戦略立案のために産の意見をこれまで以上に参考にすべき。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)

- 590 欧米各国政府に限らず中国やシンガポールにおいてすら科学技術関連予算が拡充されていることと比較して、日本政府の研究資金規模は不十分としか言いようがない。また、金額的規模だけでなく、その投資分野の選択と集中という面に関しても戦略性が低く、まだ不十分な状態である。さらに、大学における管理会計システムや人材評価システムなど、企業であれば当然備えているはずのものに整備不良が認められる。公的研究機関は大型共同研究施設・設備をさらに産業利用しやすくするとともに、学術利用者の声だけでなく産業利用者の声も十分に反映して施設・設備の拡充を検討するの必要を感じる。競争的研究資金に係る間接経費に関しては、H26年5月に関係府省申し合わせにより「30%」という比率が定められており、十分であろうと認識する。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 591 科学技術予算の額も問題視されるであろうが、その戦略的な投資や継続的な科学技術の発展を見据えた配分などが全く考慮されていない点が大きな問題である。従来から政権が変わるごとに、あるいは大学や研究機関のトップが変わるごとに科学技術への投資ポリシーが突然に変わるなど中長期的にかつ戦略的な科学技術への資金供給が強く望まれる。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 592 日本の公的研究資金が伸び悩んでいる中で、出口に近く、短期間に成果が得られる研究テーマに予算が集中したため、基礎研究および基盤技術開発への予算が減ってきており、日本の研究環境の基礎体力が大きく落ち込んでいる。出口に近く短期間に成果が得られる研究テーマに関する資金は、民間資金やクラウドファンディング等のイノベーション投資を活用することとし、公的研究資金は基礎研究および基盤技術開発に厚く配分すべきである。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 593 環境や資金はあっても、その分配・活用において、特定分野あるいは特定の組織に偏りがあるのではないかと感じる。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 594 日本の技術力やGDPを向上させる手段としての研究開発へのインプットは、グローバルの視点では不十分と考える。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 595 競争的資金の獲得が困難な地方大学においては日々の基本的な研究費・活動費もままならない状況であり、安心して学生を育成・教育できる状況にない。競争的資金の重要性は十分に認識するが、腰を据えた人材育成の重要性も認識してほしい。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 596 公的な科学研究費の支援を受けた研究の成果である論文は、全てオープンアクセスとして発表すべき。国公立研究機関はもとより、大学からの研究は全てこれに当たる。大学は運営交付金・私学助成金など、税金からの支援を受けている。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 597 あまりに競争を重視しすぎると、中長期視点に立てずひずみが生まれるのではないかと。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 598 市場の価値観・社会環境が大きく変わろうとしている中で、日本の研究環境はその変化に対してリードする状況にはなっていないと感じる。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 599 技術で生きていくしかないわが国では、研究開発費の絶対額の確保、最大化も重要ですが、確保した開発費の有効な配分、戦略的な配分の方が効果や即効性が高いと思います。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 600 大学側は研究費獲得を第一義に、一方企業側は、R&D人材(余剰感のある人材)の人件費獲得を目的として、公的研究が企画されているものが多く、国家戦略的な研究企画が非常に少ない。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 601 公的研究機関が保有する最先端の大型共用研究施設・設備は、民間企業(産業界)が活用する必要性があまり感じられないものもありますが、学術研究には必須であり、そこで生まれた知見が後に民生利用されることになるため、学術研究に有用なものを積極的に投資していただきたいです。科学技術に関する政府予算は少なすぎるため、精力的に予算化して研究している中国等との競争に負ける日も近いと危惧されます。学生数の減少を理由に大学等の研究資金が減少していますが、日本の産業競争力維持のためには研究資金の大幅アップが必須です。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 602 大型プロジェクトに属しているあるいはどっぷり漬かっているのであれば良いかも知れない。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 603 競争的研究資金以外の自由枠資金が必要。イノベーションは、目の前の方針管理に沿った開発のほかに、個人の自由枠(自由な発想)から生み出されることがある。それら関係人材(国立・機関:8-10万人)への研究費用に予算確保を望む。また大学側はベンチャー化させる時に、経営ができる人材を外部から招へいし、研究開発に集中すべき。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 604 公募型研究開発のうち、産学連携で実施する場合、成果のマイルストーンを一般の技術達成状況と比較して中断、達成を判断したほうが良い。言い方を変えると、大学に研究費を出すために継続しているのではないかと感じる場合がある(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 605 公的研究機関が保有する最先端の大型共用研究施設・設備の利用をよりしやすくするために下記内容を提案します。1. 公的研究機関が積極的に民間の関連企業にPR活動を実施する。(一部行っているが不十分) 2. 最先端設備導入後産学官連携の成功事例を民間企業側にも情報を公開するなど設備の活用機会を拡大する。3. 公的研究機関での主な設備の稼働・使用頻度など情報を公開する。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 606 長期の支給が補償されないため、維持できない研究がある。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 607 間接経費の使途を外部へ公表すべき。本当に必要な外部資金が間接経費で使用されているのか確認する方法を確立する必要がある。直接経費の月別使用状況を公表し、期末に余ったお金を駆け込みで使うことを慎み、本当に必要な研究者へ回す方策を検討する必要がある。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 608 SINET5は研究機関を結ぶ国内最大のネットワーク基盤として、あらゆる研究を下支えしているものであり、継続的な大容量化と機能向上が我が国の研究全般の発展、しいては我が国の将来の競争力を左右するといっても過言ではない。そのような位置づけにありながら、現在のように文科省の大型プロジェクトの扱いのままでは、予算獲得がたちゆかなくなる可能性も否定できず、恒久的な基盤とはなりえない点が懸念される。(民間企業等、部長・教授等クラス、女性)
- 609 研究資金を得るために作成する書類の多さが研究を阻害しているという認識は全ての研究者が持っていると思います。また、ほぼ毎年改善方向に進んでいます。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)

-
- 610 国際的な競争の激しい、産業利用も見込まれる研究には大型予算が組まれる一方、独自性の高い探索的な研究には資金が行き渡りにくい(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
-
- 611 政府の公募型研究費の使途について、関連性を有する企業の独自研究開発への共有が有る程度は認められると全体のレベルアップに有効である。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
-
- 612 選択と集中ということで研究資金の投入がなされていると思うが、耳障りのいいようなテーマに投下されるという傾向はないでしょうか？(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
-
- 613 研究戦略を個別具体的に明確にする必要があり,そのための予算化を組むべき(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
-
- 614 十分かどうかは不明な部分があるが,今後世界で覇権をにぎり,産業を維持・発展すべく,国が方向性を打ち出し,投資をすべきと考えます。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
-
- 615 災害復旧のためと思われませんが,全体の研究予算が削減されているようです. 研究に資金を投じないと,明日の日本は無いと思います。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,女性)
-
- 616 研究資金を獲得する時点と報告する時点の事務的な作業量の削減を図り,研究活動そのものに費やす時間を確保する仕組みを工夫していただきたい。(民間企業等,その他,男性)
-
- 617 研究者1人当たりの政府支出は,国際的に見て依然低水準.科学技術基本法の立法趣旨に逆行が続いている。(民間企業等,その他,男性)
-
- 618 我が国のGDP比からみるとまだ少ないと見ているが,その配分についてはまだまだ議論の余地があると思います。(民間企業等,その他,男性)
-
- 619 大学や研究機関が基礎研究を怠ると,産業だけに頼るマネっこ集団になる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
-
- 620 競争的研究資金よりも基盤的な研究資金の比率を増し,多くの若手研究者が将来の就業への不安無く研究できるようにすべき。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
-
- 621 間接経費があるのは非常に評価できるが,一般的に,研究機関の光熱費等に回されることが多い.一方,研究グループ内のPCや実験室内の基盤的設備を充実させるのは,会計上のテクニックに頼ることになり,難しい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
-
- 622 研究支援の形が多様化している中で,研究機関が全ての支援活動を行うことが必ずしも効果的・効率的ではない状況になっている.外部機関が集約的に支援している場合,現在の間接経費の扱いではその外部機関に適切に活動原資がまわらない課題も出てきている。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
-

(裏白紙)